

大阪市西淀川区における 外国人住民生活実態調査

報告書

2017 年 9 月

特定非営利活動法人多文化共生センター大阪



はじめに

在留外国人の数は年々増加しており、平成 28 年末の在留外国人数は、238 万人で過去最高¹となりました。また、日本語指導が必要な児童・生徒も年々増加しています²。

増加を続ける外国人住民ですが、同じ日本社会・地域社会に住んでいながら、日本人住民は外国人住民がどのような生活を送っているかを知る機会は少なく、また昨今話題になっている子どもの貧困³について外国人住民や外国にルーツをもつ子どもたち⁴に焦点を当てた調査は進んではいません。そこで当センターでは、外国人世帯が置かれている状況は十分把握されていないのではないかと考え、本調査を実施しました。

本調査は、大阪市西淀川区に住む外国人住民の協力の元で、実施しました。回答者は日本語学校や地域の日本語教室などに通っていない人が多く、日本人との接点が少ない状況にありました。また、地域社会の一員であるにもかかわらず、日本社会から見えない存在になっている人たちが大多数でした。見えない存在となっている外国人住民が調査に協力してくれたことにより、今まで浮き彫りにならなかった外国人住民や外国人世帯の実態をより具体的に捉えた調査になったと感じております。

人口減少社会を迎えた日本において、外国人住民や外国にルーツをもつ子どもたちも、日本社会を担う一員であることはいまでもありません。本調査が外国人住民の生活実態を把握し、外国人住民や外国にルーツをもつ子どもの課題解決や現状改善への取り組みを探る一助となれば幸いです。

本事業は子供の未来応援基金の支援を受け実施しています。

1 厚生労働省,在留外国人統計,2016 年 12 月, <http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/List.do?lid=000001177523> (最終閲覧日 2017 年 8 月 30 日)

2 文部科学省,『日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査(平成 26 年度)』の結果について, http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/27/04/_icsFiles/afieldfile/2015/06/26/1357044_01_1.pdf (最終閲覧日 2017 年 8 月 30 日)

3 ここでいう子どもの貧困とは相対的貧困率に基づき、必要最低限の生活基準が満たされていない子どものことを指す。厚生労働省が発表した「平成 19 年国民生活基本調査」によると、2009 年時点において 18 歳未満の子どもの相対的貧困率は 15.7%であった。詳細については次の文献を参照。(阿部彩,2014「子どもの貧困Ⅱ-解決策を考える」,岩波新書)

4 国籍に関わらず、父・母の両方またはそのどちらかが外国出身者である子どものこと

目次

はじめに	1
1 大阪市西淀川区における外国人住民生活実態調査	3
1-1 概要	3
1-2 結果の概要	7
1-3 結果	9
1-4 考察	55
2 日本人住民との生活実態の比較～子どもの貧困に焦点を当てて～	56
2-1 結果	57
2-2 考察	80
3 日本人住民との就労感の比較	81
3-1 結果	82
3-2 考察	87
おわりに	88
参考文献	90
参考資料	90

1 大阪市西淀川区における外国人住民生活実態調査

1-1 概要

・調査の目的

大阪市西淀川区内に在住する外国人住民を対象に生活実態を調査し、実態を解明、考察することを目的とする。また子どもの貧困にも焦点をあてた。

・調査の対象者

主に大阪市西淀川区内に在住する非漢字圏出身であり、かつ16歳～39歳の若年者で、就労に制限のない在留資格を持つ者（区内在住の外国人住民や外国人住民キーパーソンなどの協力を得て抽出）を対象とした。

・調査期間

2016年12月～2017年6月

・調査方法

質問紙調査（日本語版、ポルトガル語版、スペイン語版、タガログ語版を作成）にて調査を実施。通訳を帯同し、インタビュー方式により調査を行った。

・調査項目

①回答者の属性

年齢、国籍・出身国、性別、在留年数ごとの違いを検証するため、当該項目を設置した。

②家族の世帯収入について

日本人住民との比較を行うため、平成28年に大阪市で行われた「大阪市子どもの生活に関する実態調査」と同じ、あるいは類似した質問項目を設けた。

③仕事について

外国人世帯の正規雇用・非正規雇用などの勤務状況を調査するため、質問項目を設けた。また、仕事に対する意識のちがいについて日本人住民との比較を行うために、平成23年に内閣府が行った「若者の考え方についての調査（若者の仕事観や将来像と職業的自立、就労等支援等に関する調査）」と同じ、あるいは類似した質問項目を設けた。

④日本語学習歴・日本語能力について

日本で暮らす外国人住民が直面する課題の一つに、日本語の習得が挙げられるため、これに関する質問項目を設けた。

⑤子どもとの関係について

子どもを持つ外国人住民について、日本人住民との比較を行うため、平成 28 年に大阪市で行われた「大阪市子どもの生活に関する実態調査」と同じ、あるいは類似した質問項目を設けた。

・回答結果

回答者...65 人（42 世帯）

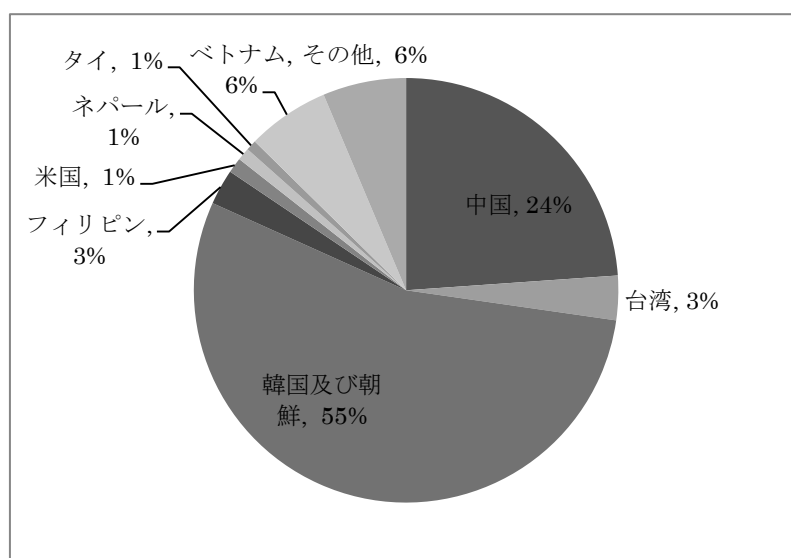
・大阪市および大阪市西淀川区の外国人住民について

本調査は大阪市西淀川区をモデル地区とした。以下、大阪市および大阪市西淀川区外国人住民について記載する。

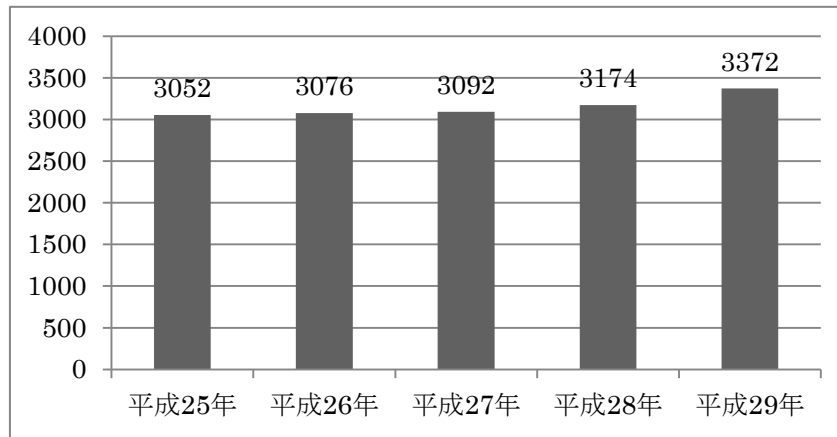
表 1：大阪市区別外国人住民数（平成 29 年 3 月末 大阪市民局調べ）

区名	人数	区名	人数
北 区	4,782	東淀川区	6,293
都 島 区	2,909	東 成 区	6,915
福 島 区	1,325	生 野 区	27,516
此 花 区	1,756	旭 区	2,099
中 央 区	7,611	城 東 区	5,147
西 区	3,915	鶴 見 区	1,940
港 区	2,523	阿倍野区	2,714
大 正 区	1,335	住之江区	3,286
天王寺区	4,235	住 吉 区	3,812
浪 速 区	7,672	東住吉区	3,293
西淀川区	3,372	平 野 区	7,888
淀 川 区	5,885	西 成 区	7,931
		合 計	126,154

グラフ 1：大阪市における国籍別外国人住民の割合（平成 29 年 3 月末 大阪市民局調べ）

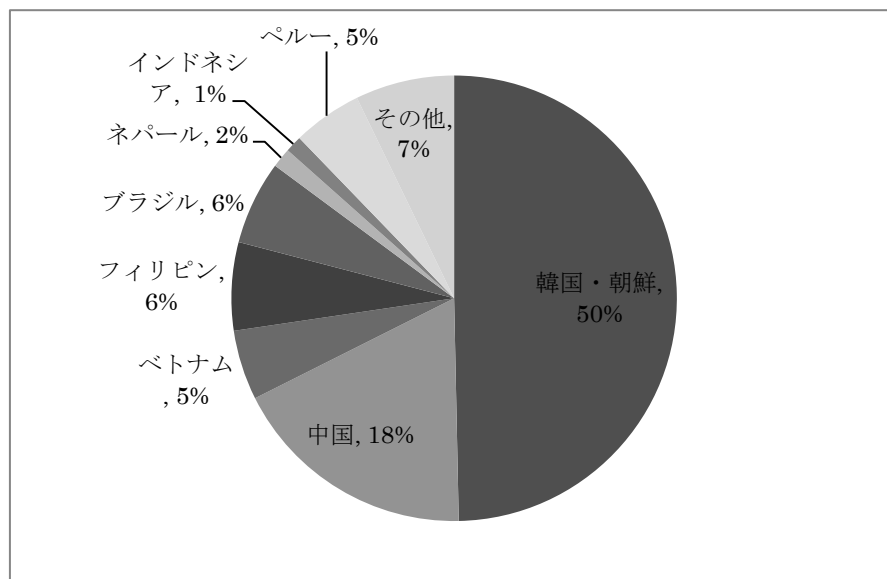


グラフ 2：大阪市西淀川区在住の外国人住民数の推移
(人)



近年やや増加傾向ではあるが、約 3,000 人でほぼ横ばいである。大阪市西淀川区人口の総人口比率でみると、97,021 人（「町丁目別・男女別・各歳別人口及び世帯数（西淀川区）平成 29 年 3 月末現在の住民基本台帳人口」）の約 3%が外国人住民である。この数値は、日本全体の人口比率でみた外国人比率の約 1.6%より高い数値であり、大阪市西淀川区が外国人集住地域となっていることがわかる。

グラフ 3：大阪市西淀川区における国籍別外国人住民の割合
(平成 27 年 12 月末大阪市市民局調べ)



大阪市の他の区に比べ西淀川区はブラジル出身、ペルー出身の人が多い。大阪市内に住む

ブラジル人（883 人）のうち 21%（192 人）、大阪市に住むペルー人（448 人）のうち 35%（159 名）が西淀川区に居住している。

平成 25 年～29 年 3 月末「行政区別・男女別・外国人人口および世帯数（大阪市）より

1-2 結果の概要

以下、本調査で明らかになった結果の概要を記載する。

属性

- ・年齢：16～19 歳が 17%、20～24 歳が 14%、25～29 歳が 17%、30～34 歳が 25%、35～39 歳が 10%、40～44 歳が 14%
- ・国籍・出身国：ペルーが 60%、フィリピンが 26%、ブラジルが 11%
- ・在留資格：定住者が 54%、永住者が 32%（中長期滞在可能で、活動に制限のない在留資格が約 80%を占める）
- ・日本滞在期間は 10 年以上が約 50%を占める。
- ・「同居する家族に日本語を第一言語とする人（18 歳以上）がいない」と回答した人が 80%以上を占める。
- ・「子どもがいる」と回答した人は約 70%
- ・初めて親になった年齢（実子以外も含める）が 10 代である人が約 25%
- ・最終学歴は「中学校卒業」である人が 35%
- ・「生活について本当に困ったときや悩みがあるとき、相談相手はいますか」という問いには「はい」と答えた人が多数であったが、相談相手は「外国人」とあるという回答した人が約 80%に上った。

家族の世帯収入について

- ・世帯で収入のある人は「2 人」が 50%を占める
- ・家計状況は赤字であると答えた人が 82%で、赤字である場合、約 50%の回答者が「貯金・預金のとりくずし」を選択している。
- ・母国の家族に仕送りをしている人が 50%を占める。
- ・持ち家の人は少ない。約 80%の人が公営住宅などの賃貸に住んでいる。
- ・世帯年収は 300～350 万円未満の世帯が最も多く、50～150 万円未満の低所得世帯は 20%程度だった。

仕事について

- ・パートまたはアルバイト、非正規職員、派遣で一カ所に勤務している人が約半分を占める。

- ・世帯主がパートまたはアルバイト、非正規職員、派遣である世帯も多い。
- ・働くことで「とても大切」と感じるのは「収入が多い」である。
- ・日本人住民は働くことに対して「自己実現」を求める人も多いが、外国人住民は「家族のため」と感じている人が多い。
- ・ハローワークを利用する人は少ない。
- ・職場でよく使う言葉は「日本語」が 67%を占める。

日本語学習歴・日本語力について

- ・「日本語を学んだことはない」と回答した人は 25%。専門的な機関や学校で日本語を学ばず、働いている人が多い。
- ・日本語を勉強していない人が 78%。その理由は「忙しくて勉強する時間がないから」が 50%であった。
- ・ただし、90%の人が「日本語を勉強したい」と思っている。
- ・日本語の運用能力の自己評価は低い。
- ・日本語の「読むこと」「書くこと」は「聞くこと」「やり取り」「表現」よりも難しいと感じている人が多い。
- ・日本での滞在年数と「読むこと」「書くこと」の運用能力の自己評価は比例しない。

子どもとの関係について

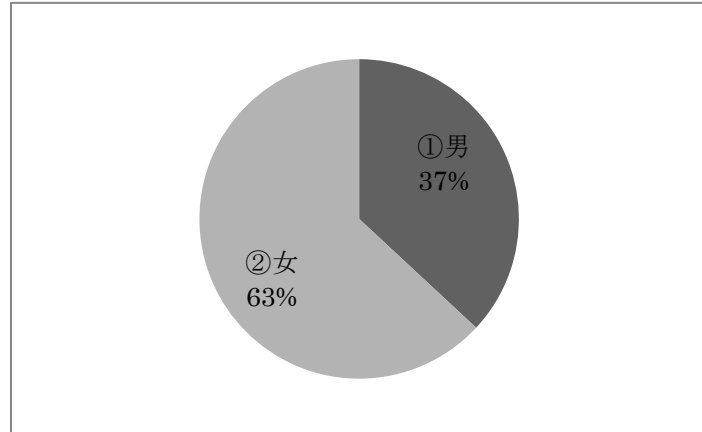
- ・子どもとのコミュニケーションは積極的にとっている。
- ・子どもには母語で話しかけている人が多い。一方、子どもは日本語で答えると回答した家庭もあった。
- ・子どものために貯蓄をしたいが、できていない人が半数を占める。
- ・子どもの進路は「大学卒業」までを希望する人が約 70%。
- ・子どもは「ほぼ毎日学校に通っている」と 80%以上の人が回答している。
- ・子育てについて本当に困ったときや悩みがあるとき、相談相手が「いない」と答えた人が 21%。「いる」と答えた人も相談する相手は「外国人」が多数。

1-3 結果

1 あなた、あなたの家族について教えてください。

1-1-1 性別

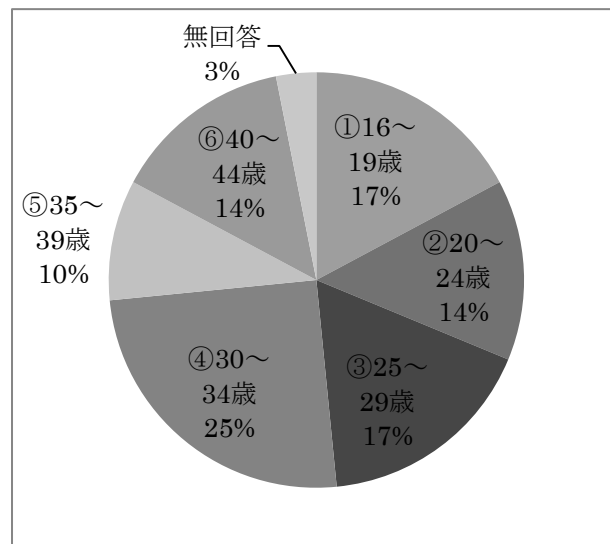
	(人)
①男	24
②女	41
③その他	0
無回答	0
無効回答	0



回答者の性別は女性が 63% (41 人)、男性が 37% (24 人) となっている。

1-1-2 年齢

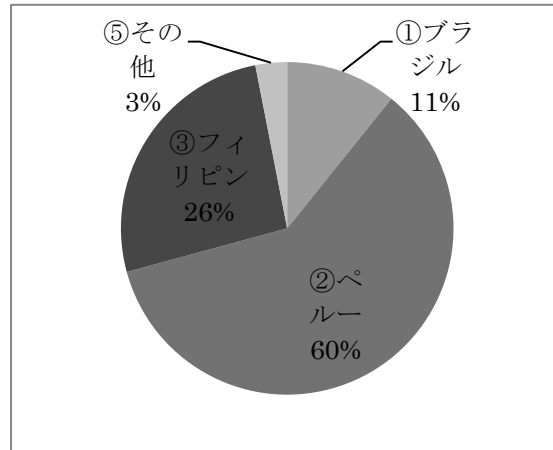
	(人)
①16～19 歳	11
②20～24 歳	9
③25～29 歳	11
④30～34 歳	16
⑤35～39 歳	6
⑥40～44 歳	9
無回答	2
無効回答	0



回答者の年齢は「30 歳～34 歳」が 25% (16 人)。以下、「16 歳～19 歳」・「25 歳～29 歳」が 17% (11 人) と続いている。

1-1-3 国籍・出身国

	(人)
①ブラジル	7
②ペルー	39
③フィリピン	17
④日本	0
⑤その他	2
無回答	0
無効回答	0

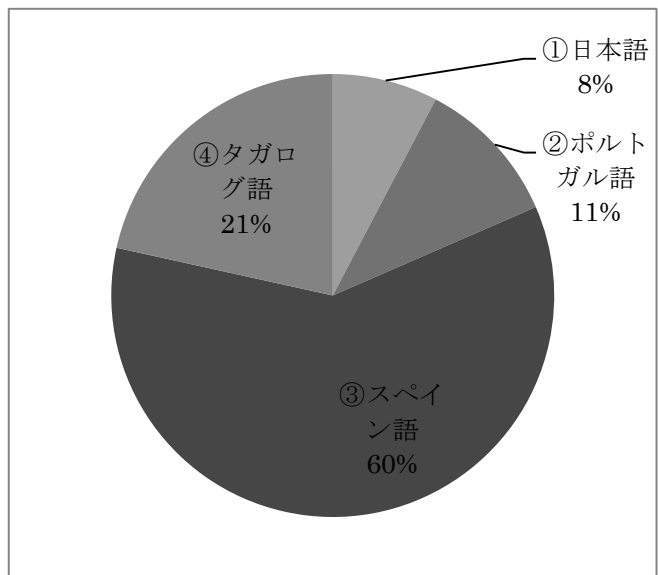


⑤その他...キューバ、パラグアイ

回答者の国籍・出身国については「ペルー」が 60% (39 人)、「フィリピン」が 26% (17 人) となっている。

1-1-4 日常で使用する言語

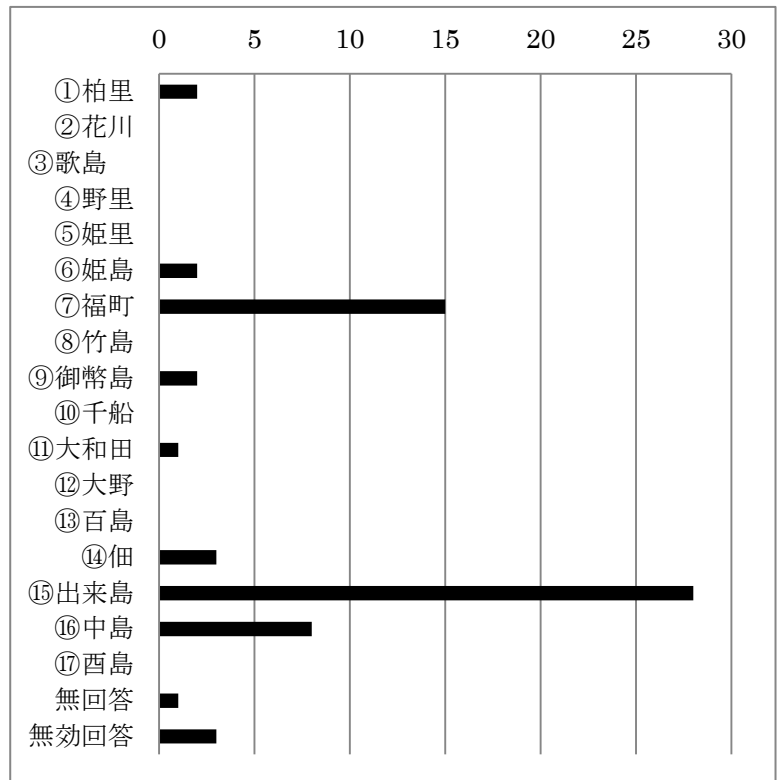
	(回答数)
①日本語	5
②ポルトガル語	7
③スペイン語	39
④タガログ語	14
⑤英語	0
⑥その他	0
無回答	0
無効回答	0



回答者の日常で使用する言語については「スペイン語」が 60% (39 人)、「タガログ語」が 21% (14 人) となっている。

1-1-5 お住まいはどこですか。

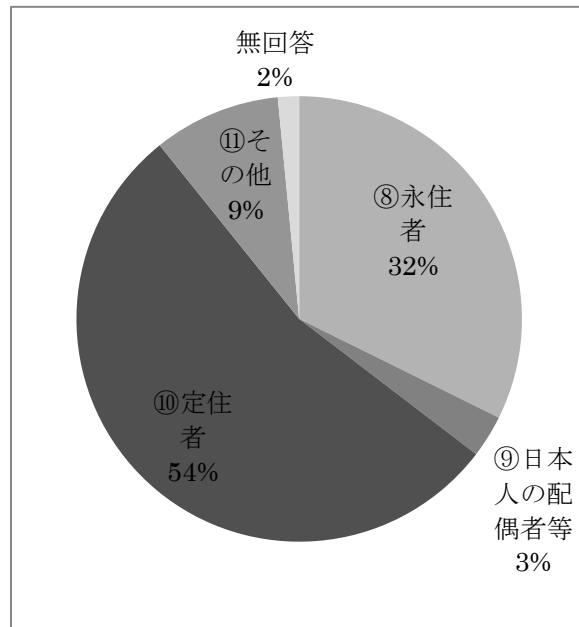
	(人)
① 柏里	2
② 花川	0
③ 歌島	0
④ 野里	0
⑤ 姫里	0
⑥ 姫島	2
⑦ 福町	15
⑧ 竹島	0
⑨ 御幣島	2
⑩ 千船	0
⑪ 大和田	1
⑫ 大野	0
⑬ 百島	0
⑭ 佃	3
⑮ 出来島	28
⑯ 中島	8
⑰ 酉島	0
無回答	1
無効回答	3



多い順に、「出来島」が 28 人、ついで「福町」が 15 人となった。

1-1-6 あなたの在留資格を選んでください。

	(人)
①留学	0
②家族滞在	0
③技能実習	0
④人文知識・国際業務	0
⑤教授	0
⑥技能	0
⑦特別永住者	0
⑧永住者	21
⑨日本人の配偶者等	2
⑩定住者	35
⑪その他	6
無回答	1
無効回答	0

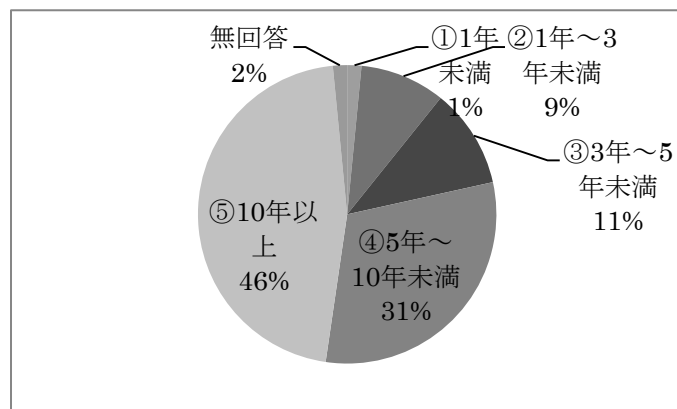


⑦その他...日本人、在留資格申請中、二重国籍

回答者の在留資格は「定住者」が 54% (35 人)、「永住者」が 32% (21 人)、「日本人の配偶者等」が 3% (2 人) となっており、活動に制限がない在留資格を持つ回答者が大多数であった。

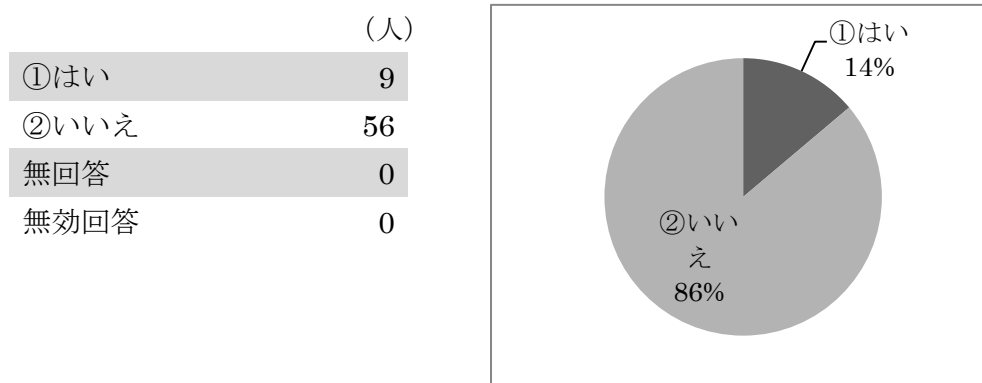
1-1-7 あなたはこれまでどれくらい日本に住んでいますか。

	(人)
①1 年未満	1
②1 年～3 年未満	6
③3 年～5 年未満	7
④5 年～10 年未満	20
⑤10 年以上	30
無回答	1
無効回答	0



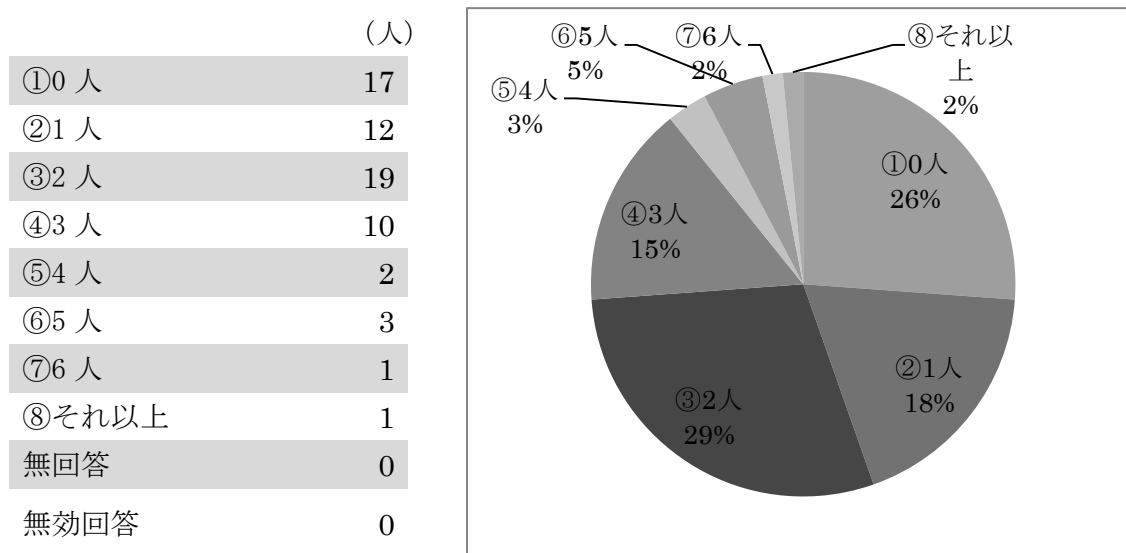
回答者の日本滞在期間は「10 年以上」が 46% (30 人)、「5 年～10 年未満」が 31% (20 人) となっており、日本における滞在期間が長期にわたる回答者が多い。

1-1-8 同居する家族に日本語を第一言語とする人（18 歳以上）はいますか。



同居する家族に日本語を第一言語とする人（18 歳以上）はいないと答えた人が 86% (56 人) にのぼった。

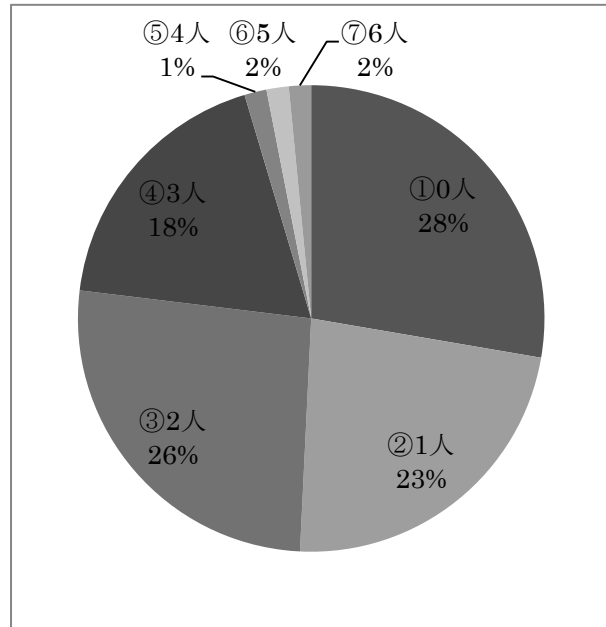
1-1-9 子どもは何人いますか。



子どもがいると回答した人は 65 人中 48 人。子どもの人数は「2 人」が 29% (19 人) となった。

1-1-10 同居する子どもは何人いますか。

	(人)
①0 人	18
②1 人	15
③2 人	17
④3 人	12
⑤4 人	1
⑥5 人	1
⑦6 人	1
⑧それ以上	0
無回答	0
無効回答	0



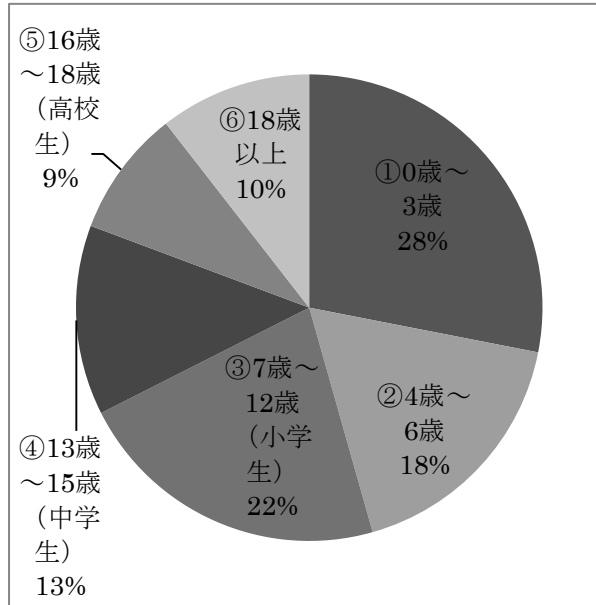
「0 人」が 28% (18 人)、「2 人」が 26% (17 人) となっている。

また、「子どもが 1 人以上いる」と回答した人で、子どもと同居していない人があるか検証するため、質問項目 1-1-9「子どもは何人いますか」と質問項目 1-1-10「同居する子どもは何人いますか」を掛け合わせて集計したところ、子どもと離れ離れに暮らしている人も多いという調査結果が出た。

「子どもが 1 人いる」と回答した人で 12 人中 1 人が子どもと同居していないと回答した。「子どもが 2 人いる」と回答した人の中で 30%、「子どもが 3 人いる」の中で回答した人の中で 20%、「子どもが 4 人以上いる」と回答した人の中で 60%が子ども全員と暮らせていないと回答した。子どもが 2 人以上になると日本で一緒に暮らすことは難しくなり、母国と日本で離れて暮らすという選択をする人が増える傾向にある。

1-1-11 1-1-9 で②～⑧と答えた人はお子さんの年齢を教えてください。

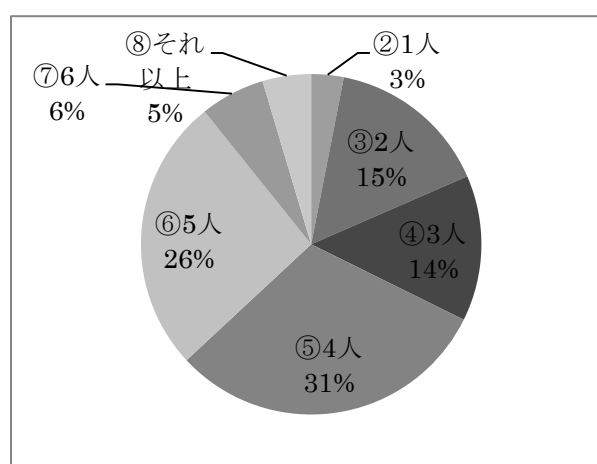
	(複数回答)
①0 歳～3 歳	32
②4 歳～6 歳	20
③7 歳～12 歳 (小学生)	25
④13 歳～15 歳 (中学生)	15
⑤16 歳～18 歳 (高校生)	10
⑥18 歳以上	12
無回答	0
無効回答	0



1-1-9 で子どもが1人以上いると答えた回答者について、子どもの年齢は「0 歳～3 歳」が 28% (32 人)、「7 歳～12 歳 (小学生)」が 22% (25 人) となった。

1-1-12 世帯人数は何人ですか。

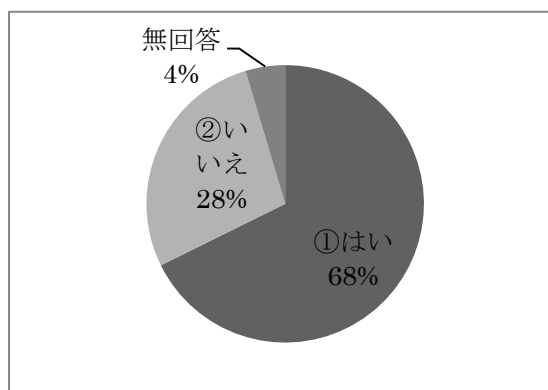
	(人)
①0 人	0
②1 人	2
③2 人	10
④3 人	9
⑤4 人	20
⑥5 人	17
⑦6 人	4
⑧それ以上	3



「4 人」と回答した人が 31% (20 人)、ついで「5 人」と回答した人が 26% (17 人) となった。

1-1-13 配偶者はいますか。

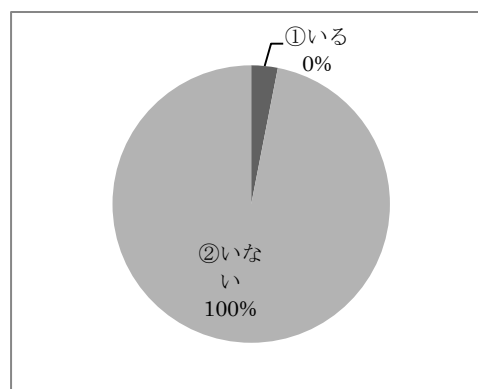
	(人)
①はい	44
②いいえ	18
無回答	3
無効回答	0



「はい」は68% (44人)、「いいえ」は28% (18人) となった。

1-2 世帯員の人に介護または介助の必要な方はいますか

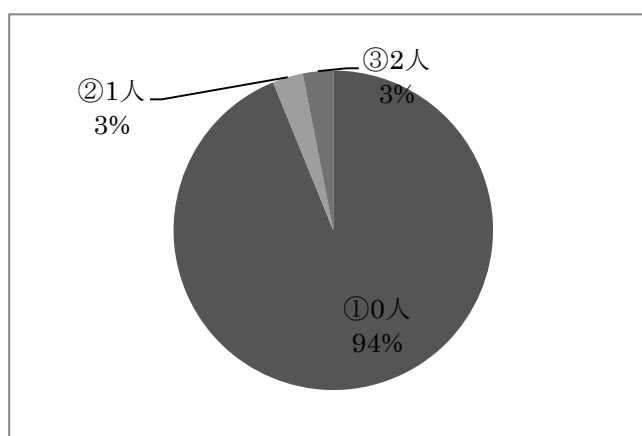
	(人)
①いる	2
②いない	63
無回答	0
無効回答	0



「いない」と回答した人がほぼ100%だった。

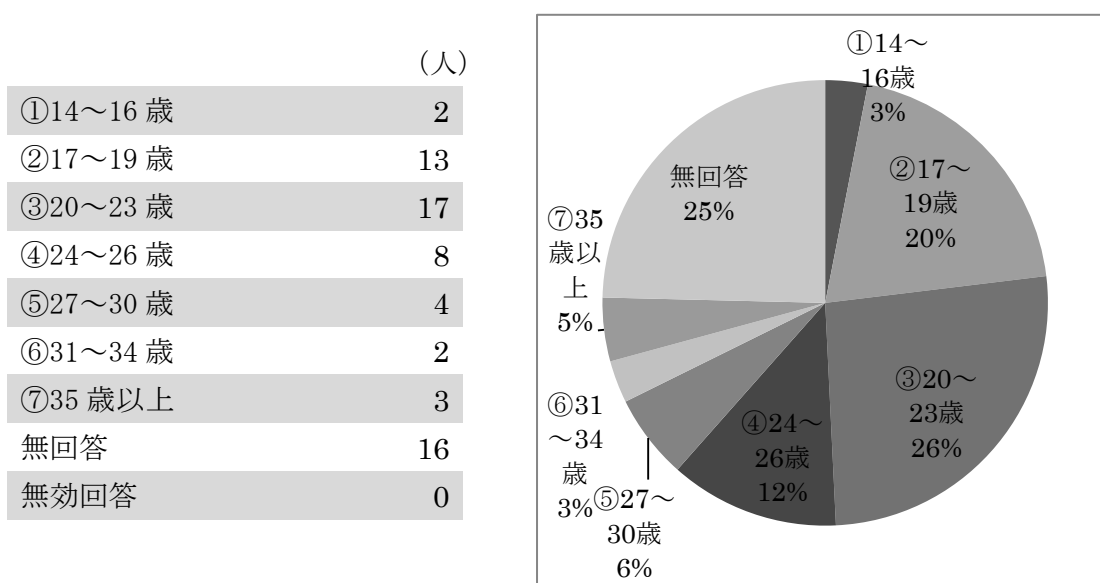
1-3 子どもは日本国外に何人いますか。

	(人)
①0人	61
②1人	2
③2人	2
④3人	0
⑤4人	0
⑥5人	0
⑦6人	0
⑧それ以上	0
無回答	0
無効回答	0



「0人」と回答した人が94% (61人) であった。

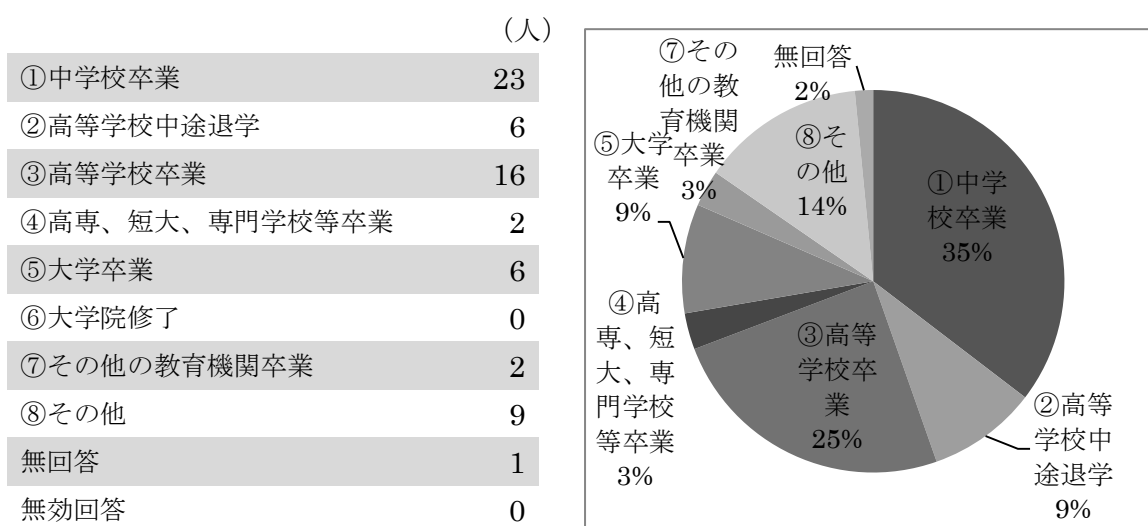
1-4 初めて親となった年齢はいくつですか。(実子以外も含みます)



無回答...「子どもはいない」と選択した人が回答

「20～23 歳」と回答した人が 26%（17 人）、「17～19 歳」と回答した人が 20%（13 人）となっており、若い年齢で親となっている人が多い。

1-5 あなたの最後に通った学校を教えてください。

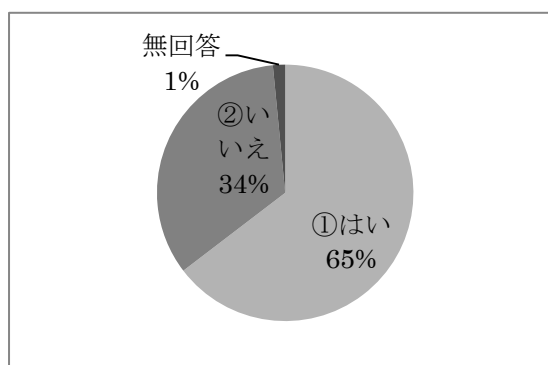


⑧その他...中学校中途退学、中学4年で辞めた、大学中途退学、現在在学中

中学校卒業が 35%（23 人）と一番多い回答となった。

1-6 あなたは、定期的に健康診断を受けていますか。

	(人)
①はい	42
②いいえ	22
無回答	1
無効回答	0



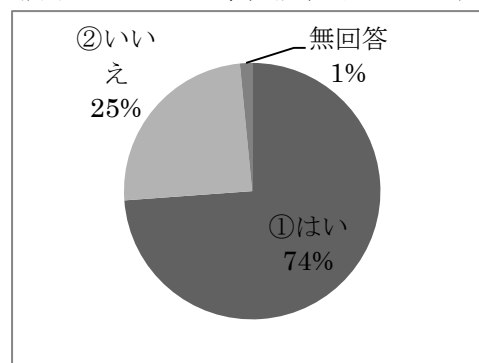
「はい」と回答した人が 65% (42 人) になった。

1-6-1 1-6 で「いいえ」とお答えした人に質問します。最後に受けたのはいつですか。

- ・今年 (2017 年) の 1 月
- ・約 1 年前 (2016 年)
- ・昨年 (2016) の 12 月
- ・中学生の時 (現在 17 歳)
- ・2014 年

1-7 あなたが生活について本当に困ったときや悩みがあるとき、相談相手はいますか。

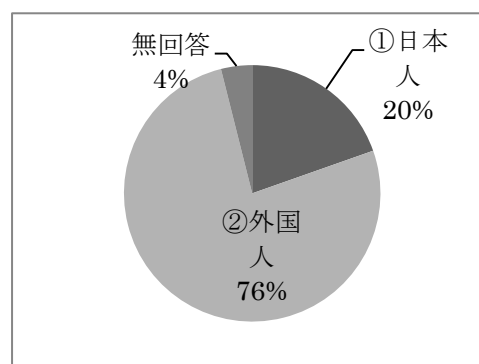
	(人)
①はい	48
②いいえ	16
無回答	1
無効回答	0



「はい」と回答した人が 74% (48 人) だった。

1-7-1 1-7 で「はい」とお答えした人に質問します。それは日本人ですか、外国人ですか。

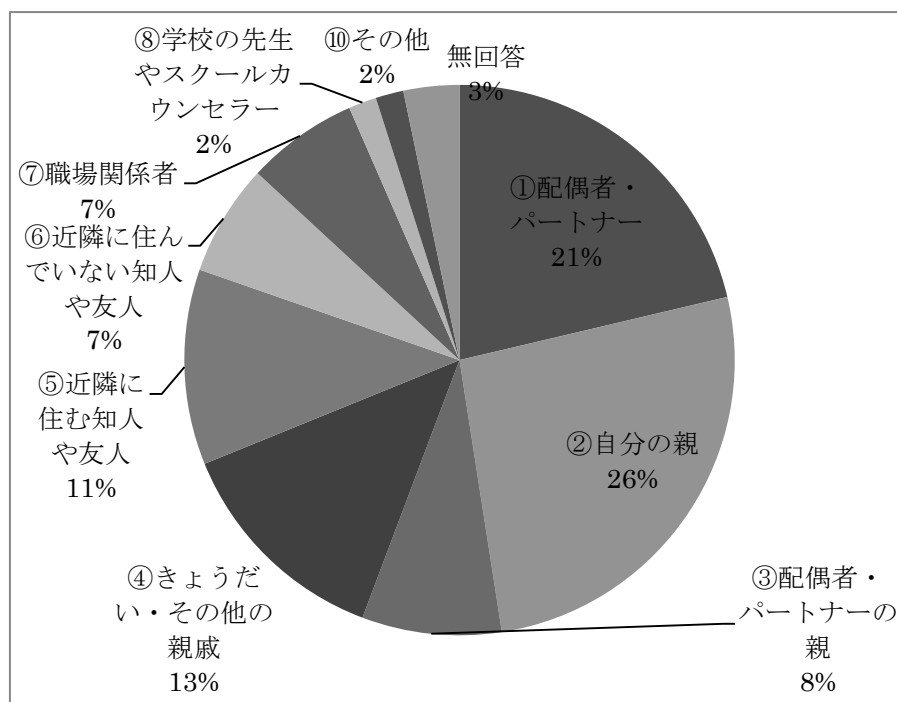
	(人)
①日本人	10
②外国人	39
無回答	2
無効回答	0



「外国人」と回答した人が 76% (39 人) だった。

1-8 1-7で「はい」とお答えした人に質問します。それは誰ですか。

	(人)
①配偶者・パートナー	13
②自分の親	16
③配偶者・パートナーの親	5
④きょうだい・その他の親戚	8
⑤近隣に住む知人や友人	7
⑥近隣に住んでいない知人や友人	4
⑦職場関係者	4
⑧学校の先生やスクールカウンセラー	1
⑨公的機関や役所の相談員	0
⑩その他	1
無回答	2
無効回答	0

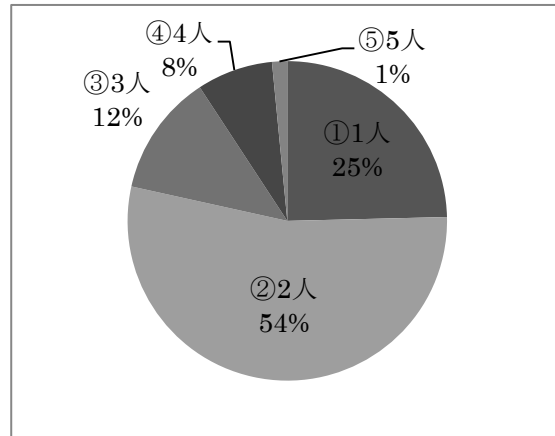


「自分の親」と回答した人が 26% (16 人)、次いで「配偶者・パートナー」と回答した人が 21% (13 人) となった。

2 あなた、あなたの家族の世帯収入について教えてください。

2-1 あなたの世帯で収入のある方の人数を教えてください。

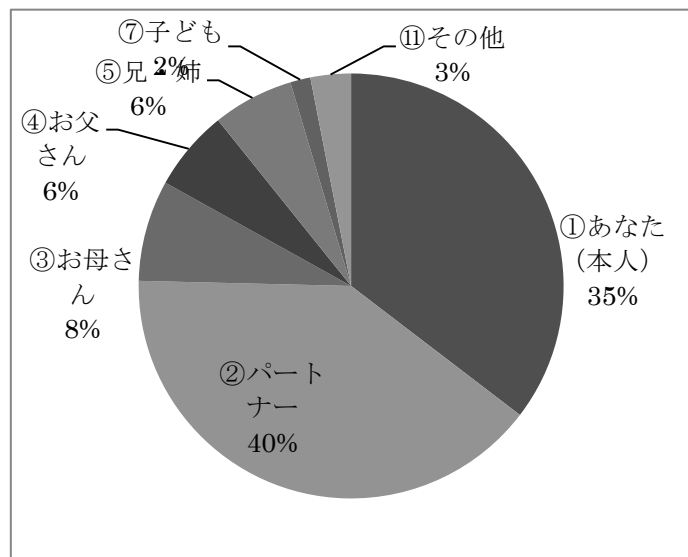
	(人)
①1人	16
②2人	35
③3人	8
④4人	5
⑤5人	1
⑥6人	0
⑦それ以上	0
無回答	0
無効回答	0



「2人」と回答した人が 54% (35 人) で、半数を占めた。

2-2 あなたの世帯で主に生計を支えている方はどなたですか。(あなたからみた続柄で、あてはまる番号 1 つに○をつけてください。)

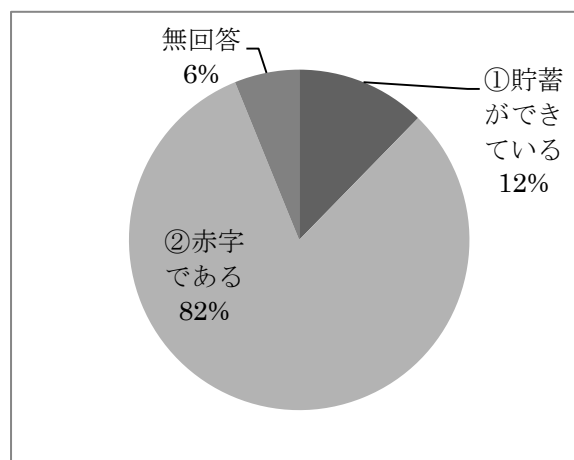
	(人)
①あなた (本人)	23
②パートナー	26
③お母さん	5
④お父さん	4
⑤兄・姉	4
⑥弟・妹	0
⑦子ども	1
⑧おばあさん	0
⑨おじいさん	0
⑩おじ・おばなど親戚	0
⑪その他	2
無回答	0
無効回答	0



「パートナー」と回答した人が 40% (26 人)、「本人」と回答した人が 35% (23 人) だった。

2-3 前年（2015 年）の 1 年間のあなたの家計状況についてあてはまる番号 1 つに○をつけてください

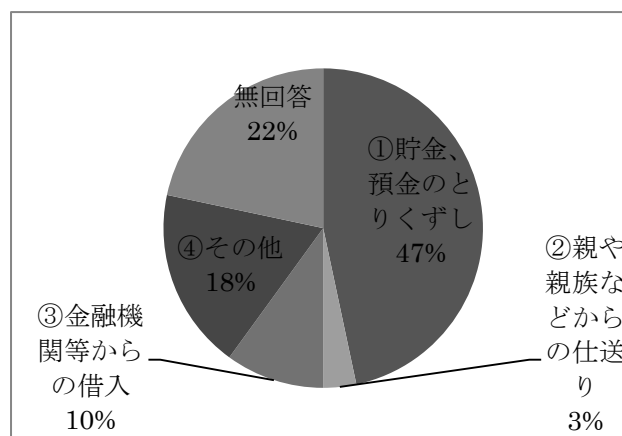
	(人)
①貯蓄ができている	8
②赤字である	53
無回答	4
無効回答	0



「赤字である」が 82%（53 人）となり大多数であった。

2-4 （赤字であると答えた方におたずねします）赤字の場合はどのようにしていますか。

	(人)
①貯金、預金のとりくずし	28
②親や親族などからの仕送り	2
③金融機関等からの借入	6
④その他	11
無回答	13
無効回答	0



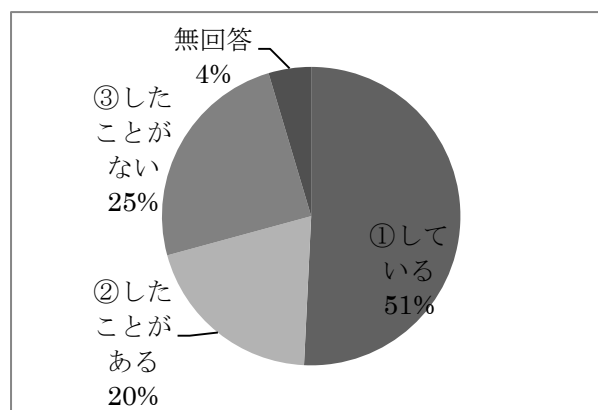
「貯金、預金のとりくずし」と回答した人が 47%（28 人）となった。

2-5 あなたの世帯では、経済的な理由で、次のような経験をされたことがありますか。
おおむね半年の間でお考えください。

- ・ガスが止まった (6人)
- ・水道が止まった (2人)
- ・教育のためのお金がない
- ・引っ越した
- ・食費を切りつめた
- ・私と息子がアルバイトをした
- ・子どもの学校のお金が払えなかった
- ・電気、学校のお金が払えない、年金未納
- ・ガスと水の節約、携帯電話が止まった
- ・借金をした

2-6 あなたは母国に仕送りをしていますか。

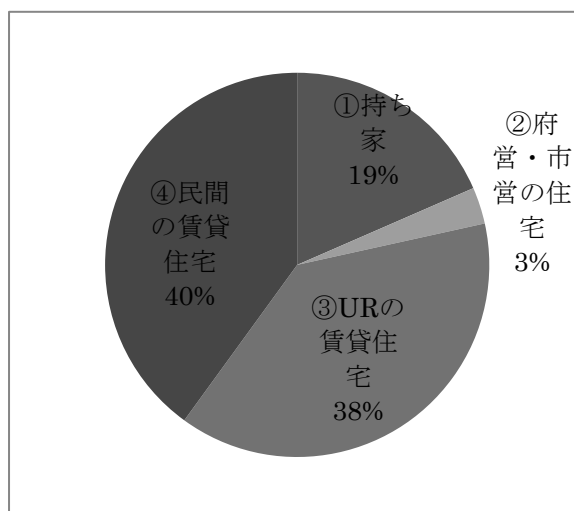
	(人)
①している	33
②したことがある	13
③したことがない	16
無回答	3
無効回答	0



「母国に仕送りをしている」と回答した人が 51% (33 人) となり、全体の半数を占めた。

2-7 あなたの住居は、次のどれにあてはまりますか。

	(人)
①持ち家 (親・きょうだい名義を含む)	12
②府営・市営の住宅	2
③URの賃貸住宅	25
④民間の賃貸住宅	26
⑤官舎・社宅	0
⑥その他	0
無回答	0
無効回答	0

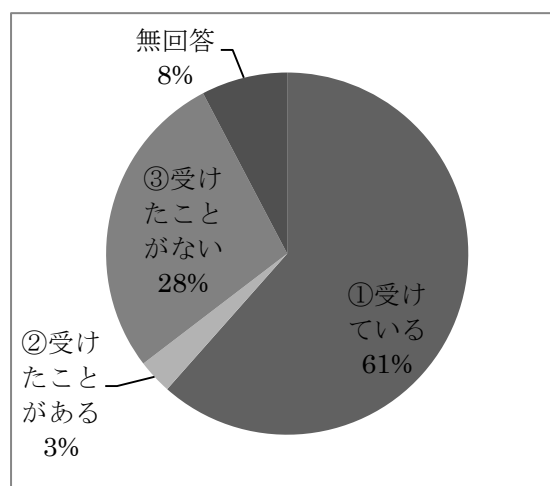


「民間の賃貸住宅」と回答した人が 40% (26 人)、「UR の賃貸住宅」と回答した人が 38% (25 人) となった。

2-8 あなたの世帯では以下の手当てや援助等を受けていますか。

2-8-1 児童手当を受けていますか。

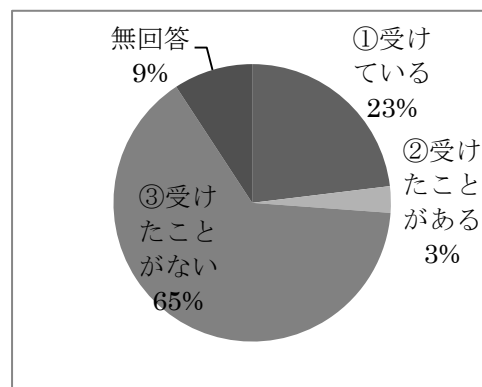
	(人)
①受けている	40
②受けたことがある	2
③受けたことがない	18
無回答	5
無効回答	0



「受けている」が 61% (40 名) であった。

2-8-2 就学援助費を受けていますか。

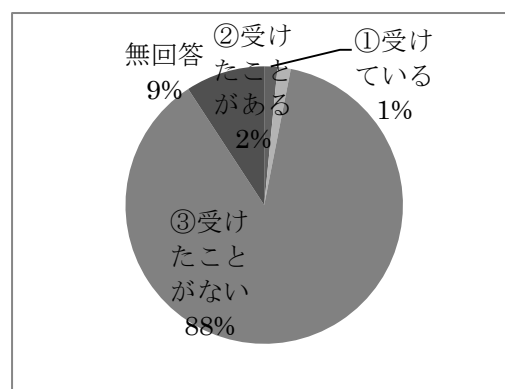
	(人)
①受けている	15
②受けたことがある	2
③受けたことがない	42
無回答	6
無効回答	0



「受けたことがない」が 65% (42 人) であった。

2-8-3 児童扶養手当を受けていますか。

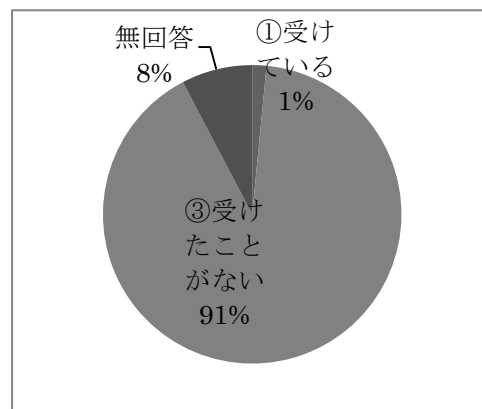
	(人)
①受けている	1
②受けたことがある	1
③受けたことがない	57
無回答	6
無効回答	0



「受けたことがない」が 88% (57 人) であった。

2-8-4 障がいや難病の手当てを受けていますか。

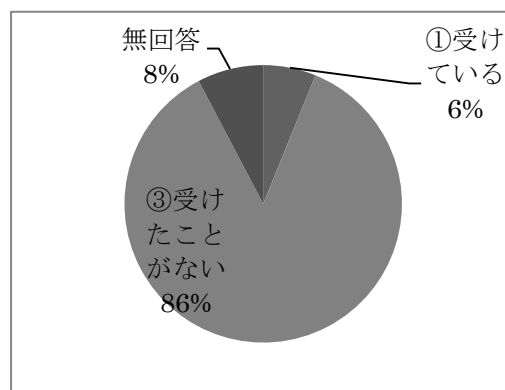
	(人)
①受けている	1
②受けたことがある	0
③受けたことがない	59
無回答	5
無効回答	0



「受けたことがない」が 91% (59 人) であった。

2-8-5 生活保護を受けていますか。

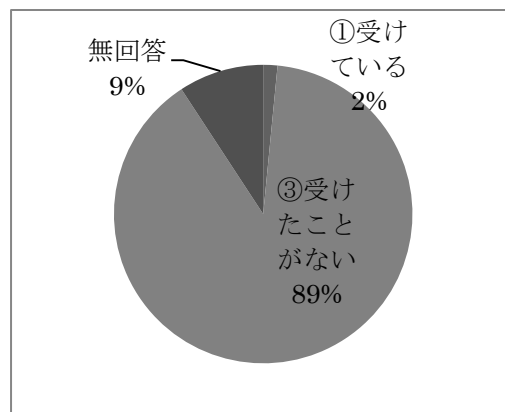
	(人)
①受けている	4
②受けたことがある	0
③受けたことがない	56
無回答	5
無効回答	0



「受けたことがない」が 86% (56 人) であった。

2-8-6 公的年金（老齢年金）を受けていますか。

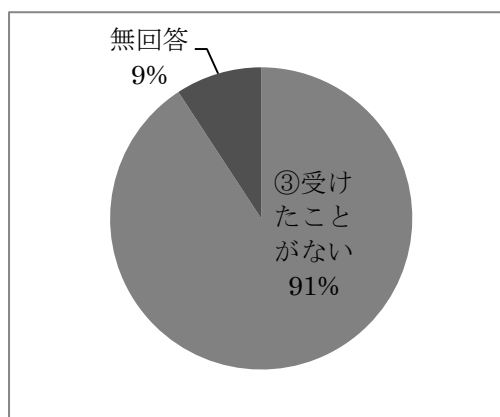
	(人)
①受けている	1
②受けたことがある	0
③受けたことがない	58
無回答	6
無効回答	0



「受けたことがない」が 89% (58 人) であった。

2-8-7 公的年金（遺族年金、障がい年金）を受けていますか。

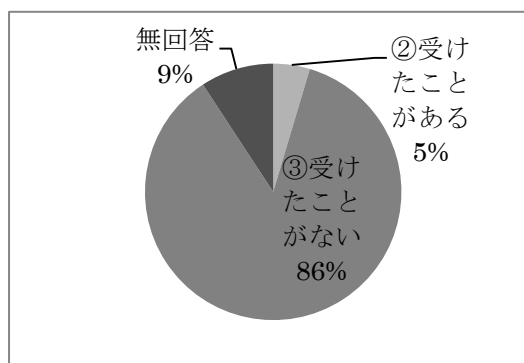
	(人)
①受けている	0
②受けたことがある	0
③受けたことがない	59
無回答	6
無効回答	0



「受けたことがない」が 91% (59 人) であった。

2-8-8 雇用保険（失業保険）を受けていますか。

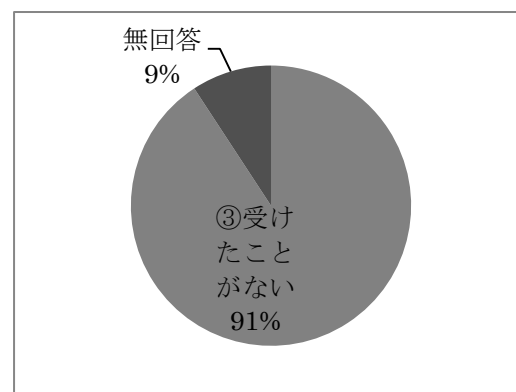
	(人)
①受けている	0
②受けたことがある	3
③受けたことがない	56
無回答	6
無効回答	0



「受けたことがない」が 86%（56 人）であった。

2-8-9 養育費を受けていますか。

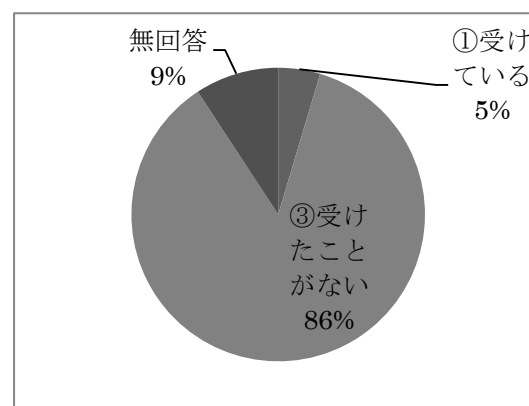
	(人)
①受けている	0
②受けたことがある	0
③受けたことがない	59
無回答	6
無効回答	0



「受けたことがない」が 91%（59 人）となった。

2-8-10 親・親族からの仕送りを受けていますか。

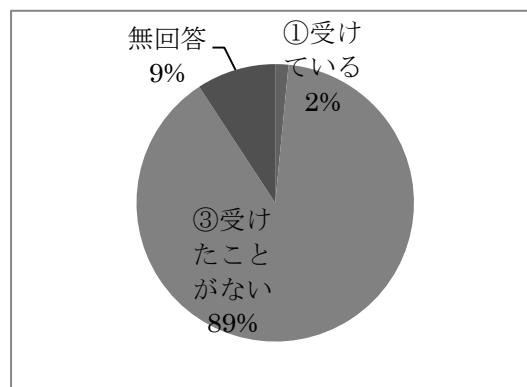
	(人)
①受けている	3
②受けたことがある	0
③受けたことがない	56
無回答	6
無効回答	0



「受けたことがない」が 86%（56 人）であった。

2-8-11 退職金を受けていますか。

	(人)
①受けている	1
②受けたことがある	0
③受けたことがない	58
無回答	6
無効回答	0

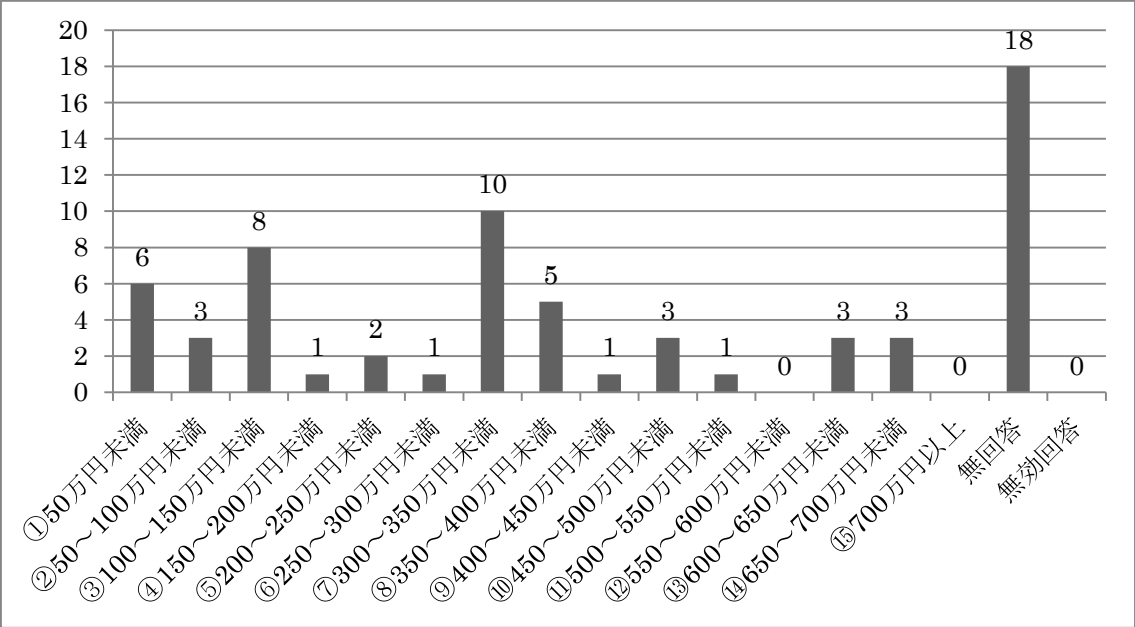


「受けたことがない」が 89%（58 人）であった。

2-9 前年(2015 年)のあなたの世帯の収入の合計額は、およそいくらでしたか。

	(人)
①50 万円未満	6
②50～100 万円未満	3
③100～150 万円未満	8
④150～200 万円未満	1
⑤200～250 万円未満	2
⑥250～300 万円未満	1
⑦300～350 万円未満	10
⑧350～400 万円未満	5
⑨400～450 万円未満	1
⑩450～500 万円未満	3
⑪500～550 万円未満	1
⑫550～600 万円未満	0
⑬600～650 万円未満	3
⑭650～700 万円未満	3
⑮700 万円以上	0
無回答	18
無効回答	0

(人)



「300～350 万円未満」が 15%（10 人）、次いで「100～150 万円未満」が 12%（8 人）とであった。

また、初めて親となった年齢と世帯収入が関係するかどうか検証するため、質問項目 1-4「初めて親となった年齢はいくつですか。」と質問項目 2-9「前年(2015 年)のあなたの世帯の収入の合計額は、およそいくらでしたか。」を掛け合わせて集計した。以下のような結果になった（表の中の数字の単位は（人））

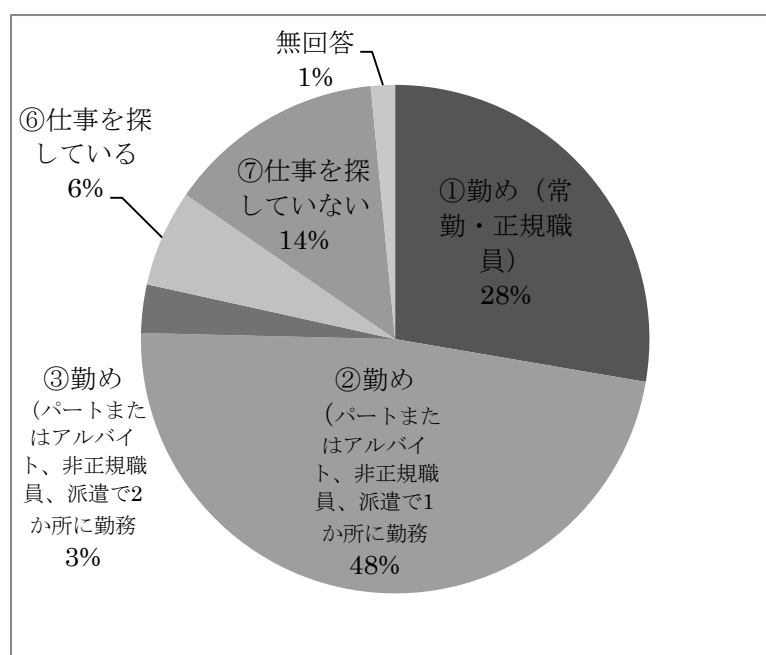
世帯収入 年齢	50 万 円未 満	50～ 100 万 円未 満	100～ 150 万 円未 満	150～ 200 万 円未 満	200～ 250 万 円未 満	250～ 300 万 円未 満	300～ 350 万 円未 満	350～ 400 万 円未 満	400～ 450 万 円未 満	450～ 500 万 円未 満	500～ 550 万 円未 満	600～ 650 万 円未 満	650～ 700 万 円未 満
14～16 歳							2						
17～19 歳	2	1	1		1		3	1			1		
20～23 歳	1	2			1		1	2	1	1		1	1
24～26 歳	2						1			1		1	1
27～30 歳			2				1						1
31～34 歳			1					1					
35 歳以上						1	2						

初めて親となった年齢と世帯収入の合計額に関係性は見られなかった。

3 あなたの仕事について教えてください。

3-1 あなたの現在の就業状況についておたずねします。

	(人)
①勤め（常勤・正規職員）	18
②勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員、派遣で1か所に勤務	31
③勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員、派遣で2か所に勤務	2
④自営業	0
⑤その他の就業形態	0
⑥仕事を探している	4
⑦仕事を探していない	9
無回答	1
無効回答	0



「勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員、派遣で1か所に勤務）」が48%（31人）で、約半数を占める。

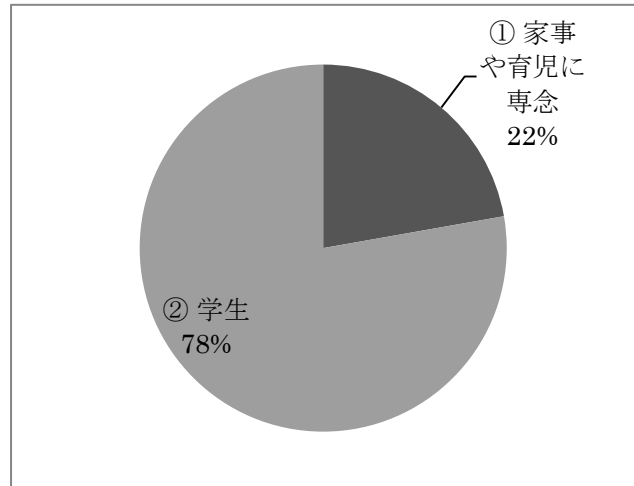
また、最終学歴と就業状況が関係するかどうかを検証するため、質問項目 1-5「あなたの最後に通った学校を教えてください」と質問項目 3-1「あなたの現在の就業状況についておたずねします。」を掛け合わせて集計した。以下のような結果になった（表の中の数字の単位は（人））。結果は以下の通りである。

	常勤・正 規職員	非正規職員 （1 か所）	非正規職員 （2 か所）	仕事を 探して いる	仕事を探 していない
中学校卒業	7	14		1	
高等学校中途退学	1	3		1	1
高等学校卒業	5	7	1	1	2
高専、短大、専門学校等卒業	1		1		
大学卒業	3	2		1	
その他の教育機関卒業	1				1
その他		4			5

最終学歴が「中学校卒業」と回答した人も「勤め（常勤・正規職員）」と回答している人が複数おり、最終学歴と現在の就業状況の関係性は見られなかった。

3-1-1 3-1 で⑦とお答えした人に質問します。それはなぜですか。

	(人)
① 家事や育児に専念	2
② 学生	7
③ おうちの人の介護や介助	0
④ 病気療養	0
⑤ 年金など	0
⑥ 家賃収入、株式運用など	0
⑦ その他	0
無回答	0
無効回答	0

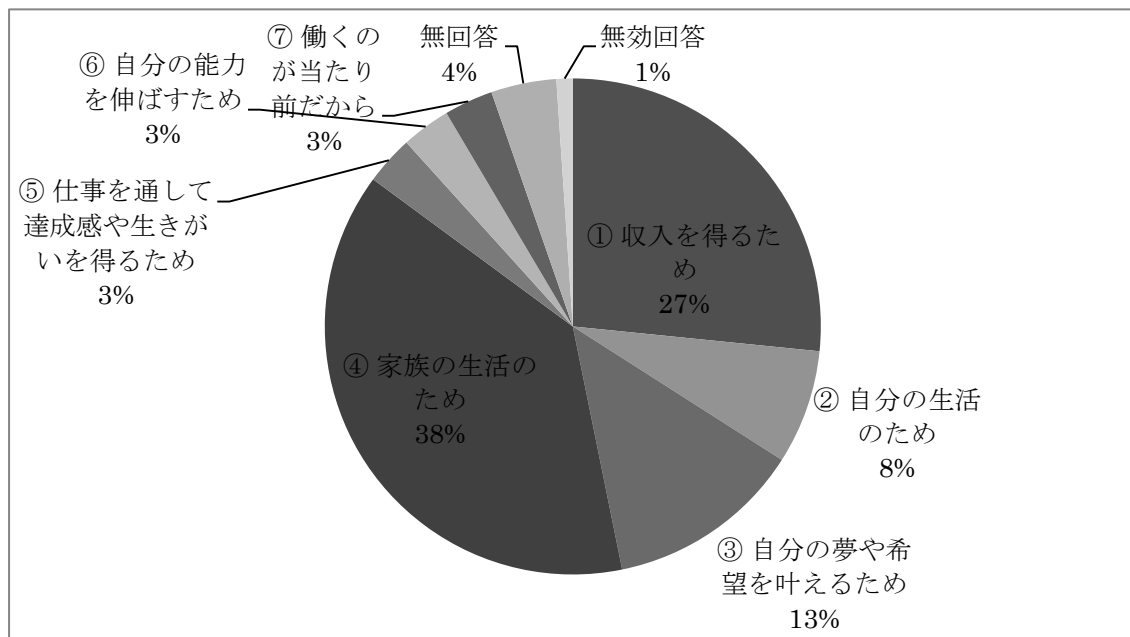


「学生」が 78%（7 人）であった。

3-2 何のために仕事をしますか。(二つまで選択可)

(複数回答)

① 収入を得るため	25
② 自分の生活のため	7
③ 自分の夢や希望を叶えるため	12
④ 家族の生活のため	36
⑤ 仕事を通して達成感や生きがいを得るため	3
⑥ 自分の能力を伸ばすため	3
⑦ 働くのが当たり前だから	3
⑧ 多くの人の役に立つため	0
⑨ 自分の居場所を確保するため	0
⑩ 社会的な地位を守るため	0
⑪ 結婚をするため	0
⑫ なんとなく、特に意味はない	0
無回答	4
無効回答	1

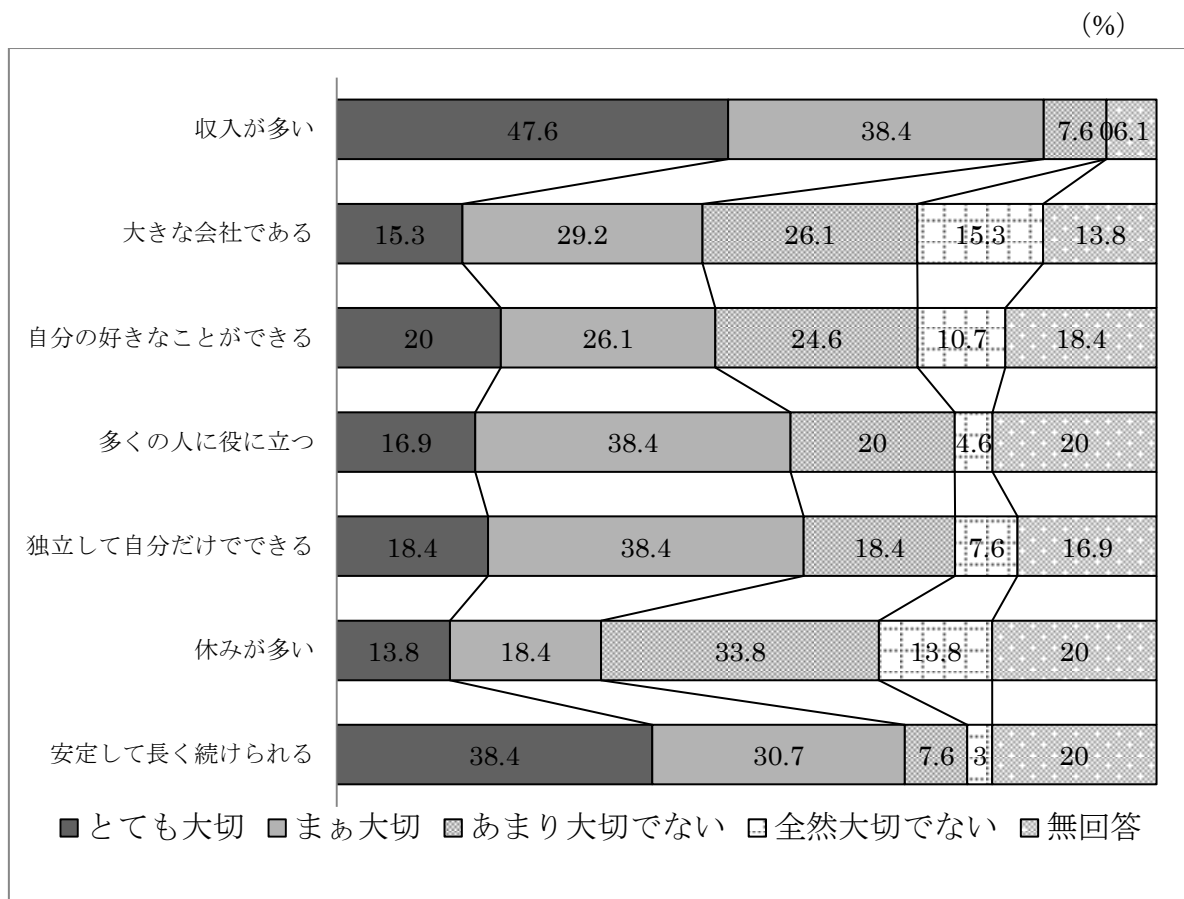


「家族の生活のため」が 38%（36 回答）であった。

3-3 仕事を選ぶ理由として何がどれくらい大切ですか。

	とても大切	まあ大切	あまり大切でない	全然大切でない	無回答
収入が多い	31	25	5	0	4
大きな会社である	10	19	17	10	9
自分の好きなことができる	13	17	16	7	12
多くの人に役に立つ	11	25	13	3	13
独立して自分だけでできる	12	25	12	5	11
休みが多い	9	12	22	9	13
安定して長く続けられる	25	20	5	2	13

(複数回答)

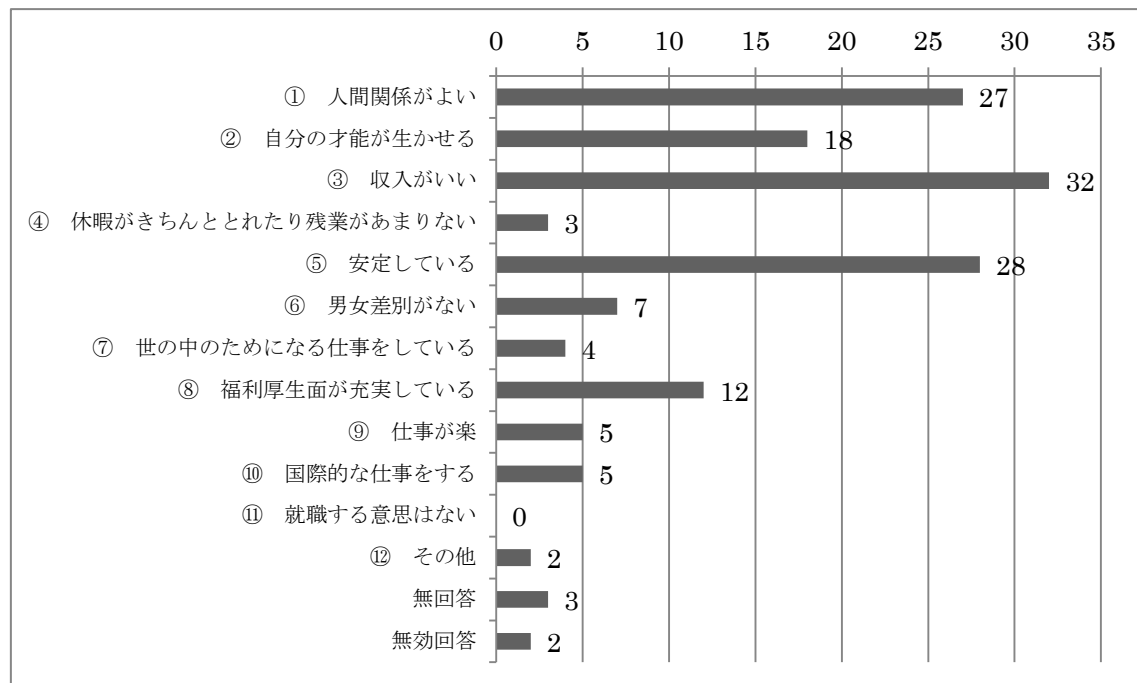


「とても大切」が一番多い回答は「収入が多い」47.6%であった。

3-4 どんな職場で働きたいですか（大切と思うことを3つ選択可）

（複数回答）

① 人間関係がよい	27
② 自分の才能が生かせる	18
③ 収入がいい	32
④ 休暇がきちんととれたり残業があまりない	3
⑤ 安定している	28
⑥ 男女差別がない	7
⑦ 世の中のためになる仕事をしている	4
⑧ 福利厚生面が充実している	12
⑨ 仕事が楽	5
⑩ 国際的な仕事をする	5
⑪ 就職する意思はない	0
⑫ その他	2
無回答	3
無効回答	2



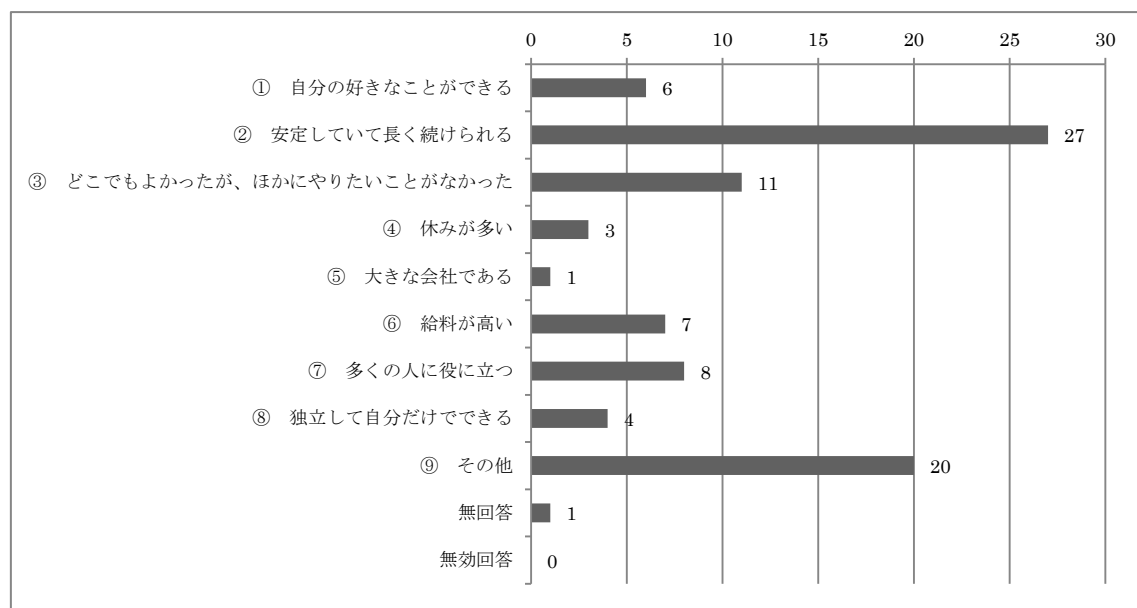
「収入がいい」が 32 回答であった。次いで、「安定している」が 28 回答、「人間関係がよい」が 27 回答となっている。

3-5 現在の仕事について理由（複数選択可）

（複数回答）

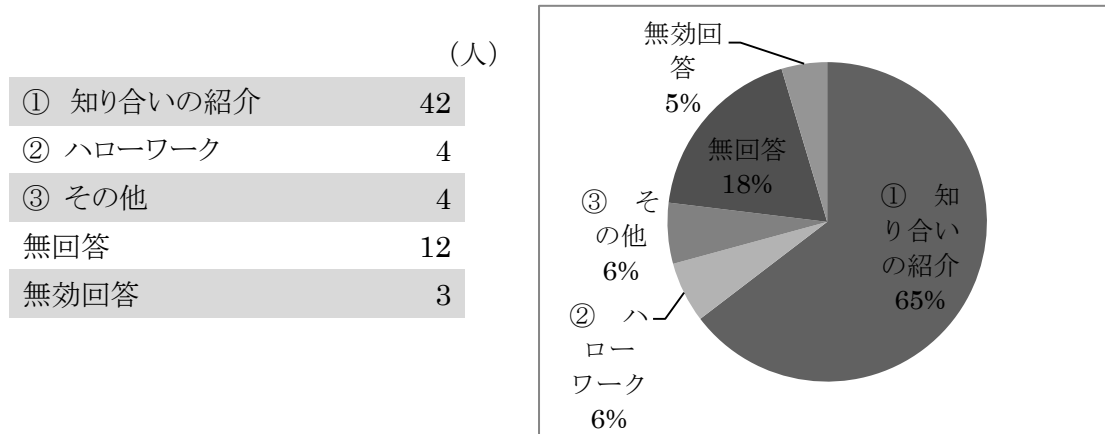
① 自分の好きなことができる	6
② 安定していて長く続けられる	27
③ どこでもよかったが、ほかにやりたいことがなかった	11
④ 休みが多い	3
⑤ 大きな会社である	1
⑥ 給料が高い	7
⑦ 多くの人に役に立つ	8
⑧ 独立して自分だけでできる	4
⑨ その他	20
無回答	1
無効回答	0

⑨その他...あこがれの仕事、まだ働いていない



「安定していて長く続けられる」が一番多く、27 回答であった。

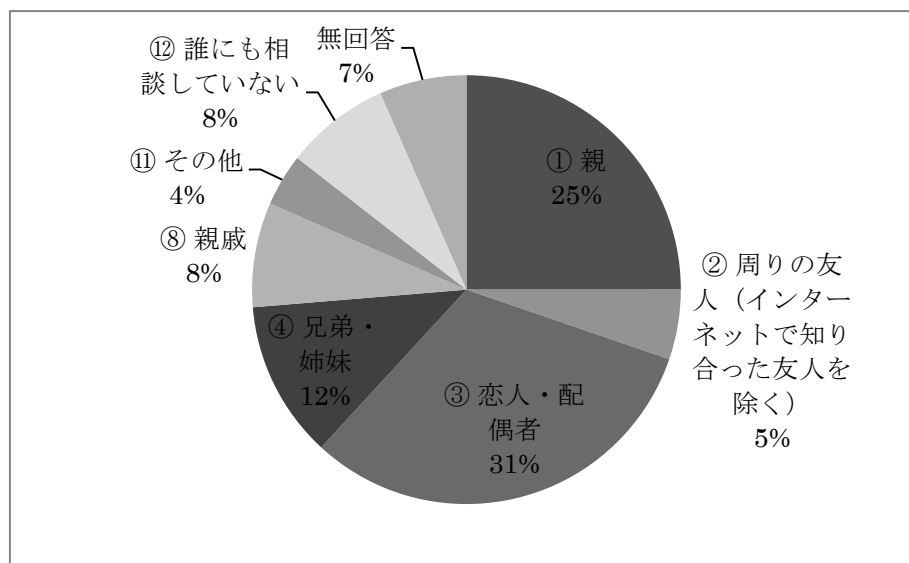
3-6 現在の仕事はどのようにして探しましたか。



「知り合いの紹介」が 65%（42 人）で半数を占める。「知り合いとはだれですか」と口頭にて質問したところ「知り合いの外国人」と答える人が多数であった。

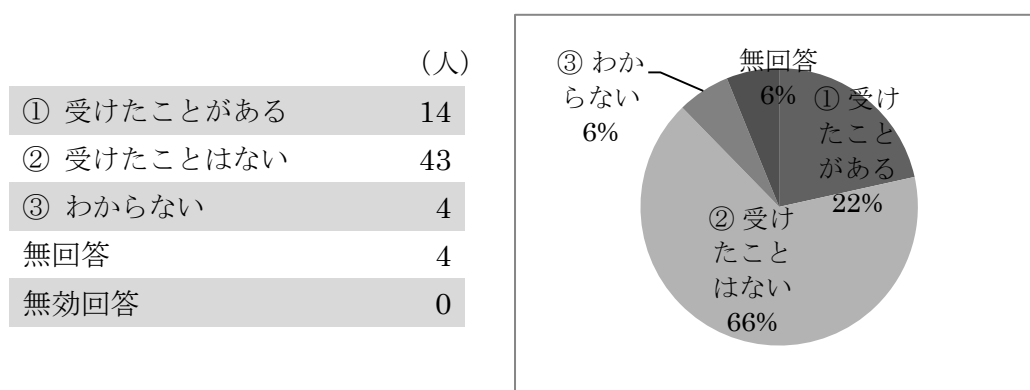
3-7 働くことの悩み等を誰に相談しますか

	(人)
① 親	19
② 周りの友人（インターネットで知り合った友人を除く）	4
③ 恋人・配偶者	24
④ 兄弟・姉妹	9
⑤ 学校等の先生	0
⑥ 学校やアルバイト先の先輩	0
⑦ 祖父母	0
⑧ 親戚	6
⑨ 役所等の公的な機関の担当者	0
⑩ NPO などの支援団体	0
⑪ その他	3
⑫ 誰にも相談していない	6
無回答	5
無効回答	0



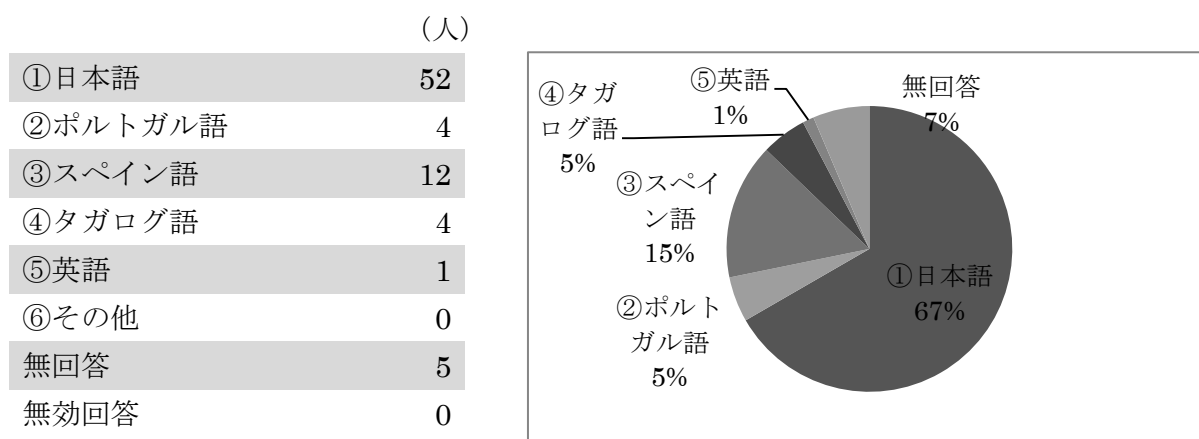
「恋人・配偶者」が 31%（24 人）であった。

3-8 キャリア教育・職業教育を受けた経験はありますか。



「受けたことはない」が 66% (43 人) であった。

3-9 あなたが職場でよく使うことばはどれですか。



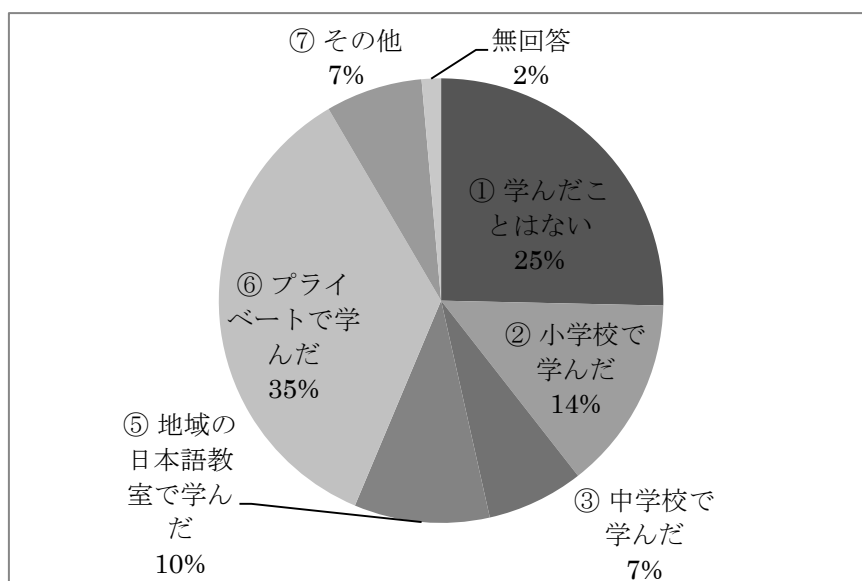
「日本語」が 67% (52 人) で、半数を占めている。

4 あなたの日本語学習歴・日本語能力について教えてください。

4-1 あなたは日本語を学んだことはありますか。

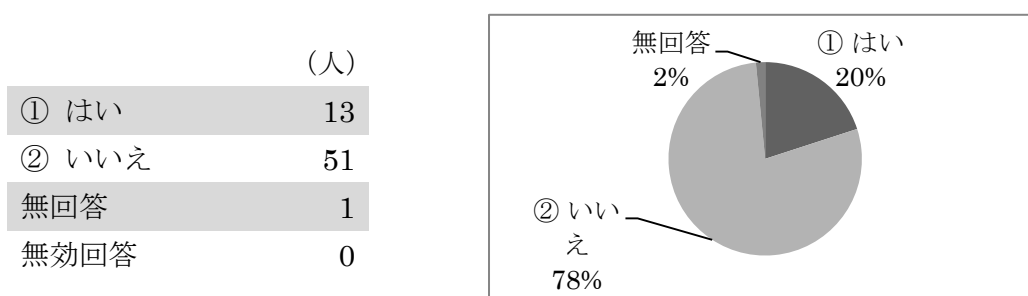
	(人)
① 学んだことはない	18
② 小学校で学んだ	10
③ 中学校で学んだ	5
④ 大学などの日本語クラスで学んだ	0
⑤ 地域の日本語教室で学んだ	7
⑥ プライベートで学んだ	25
⑦ その他	5
無回答	1
無効回答	0

⑦その他...母国で勉強した。



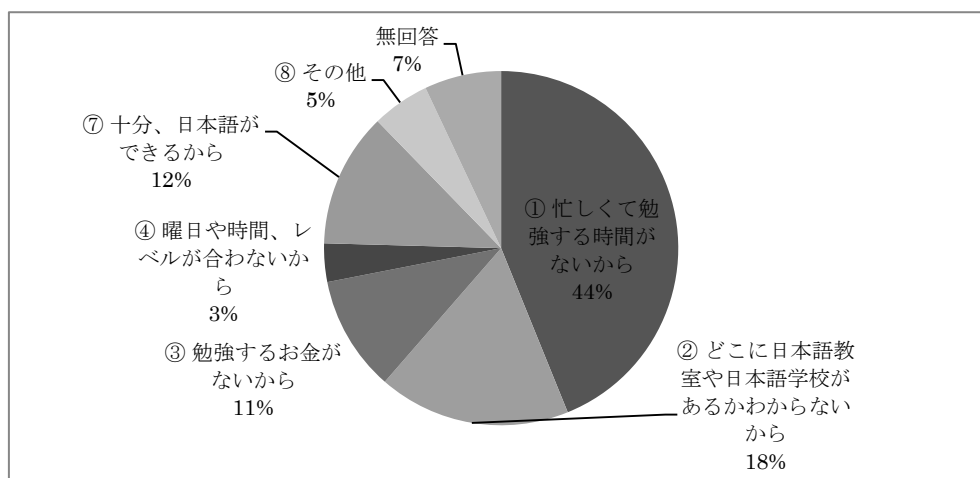
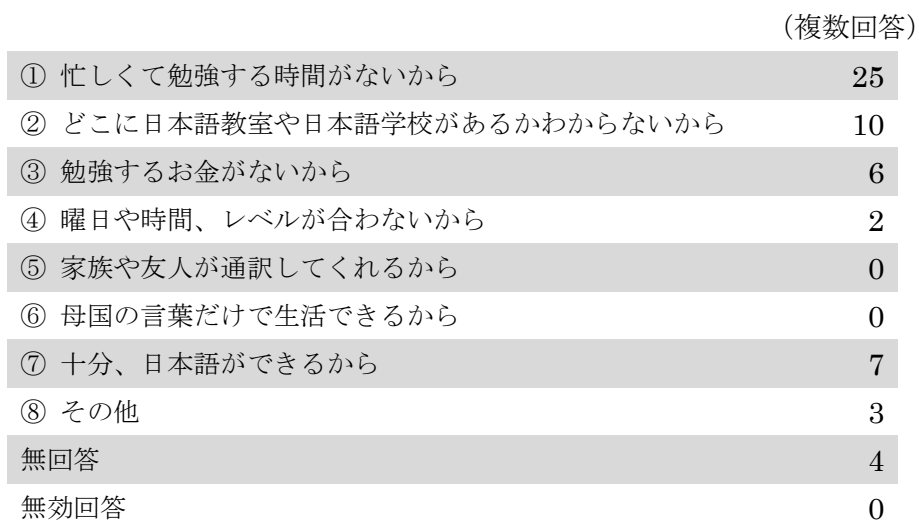
「プライベートで学んだ」が 35% (25 人) となった。「プライベートで学んだ」について詳しく質問したところ「プライベートレッスン」ではなく「独学で学んだ」と答えた人が大多数であった。

4-2 あなたは今日本語を勉強していますか。



「いいえ」が78%（51人）で、大多数を占める。

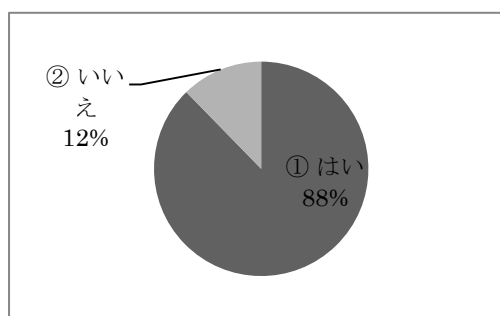
4-3 （4-2で「いいえ」と答えた人）あなたが日本語を勉強しない理由は何ですか。
あてはまるものすべてお選びください。



「忙しくて勉強する時間がないから」が44%（25回答）で最も多かった。

4-4 あなたは日本語を勉強したいですか。

	(人)
① はい	57
② いいえ	8
無回答	0
無効回答	0

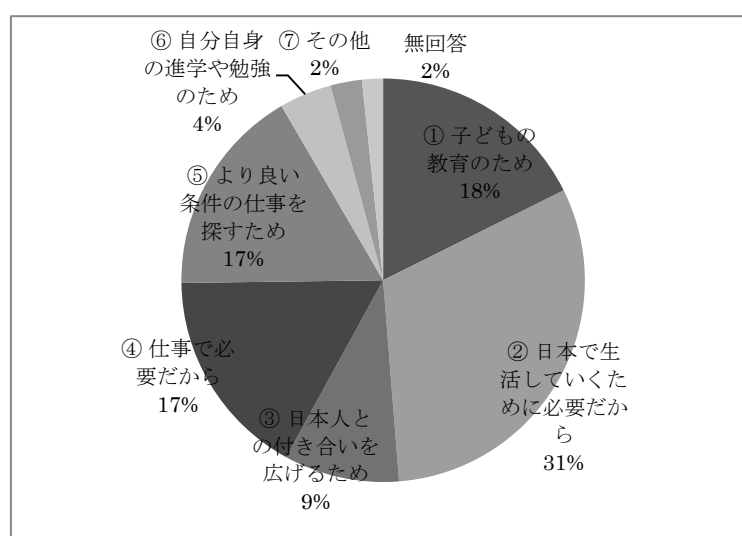


「はい」が88%（57人）と大多数を占める。

4-5（4-4で「はい」を答えた人）なんのために日本語を勉強したいですか。あてはまるものすべてお選びください。

（複数回答）

① 子どもの教育のため	21
② 日本で生活していくために必要だから	37
③ 日本人との付き合いを広げるため	11
④ 仕事で必要だから	20
⑤ より良い条件の仕事を探すため	20
⑥ 自分自身の進学や勉強のため	5
⑦ その他	3
無回答	2
無効回答	0



「日本で生活していくために必要だから」が31%（37回答）となった。

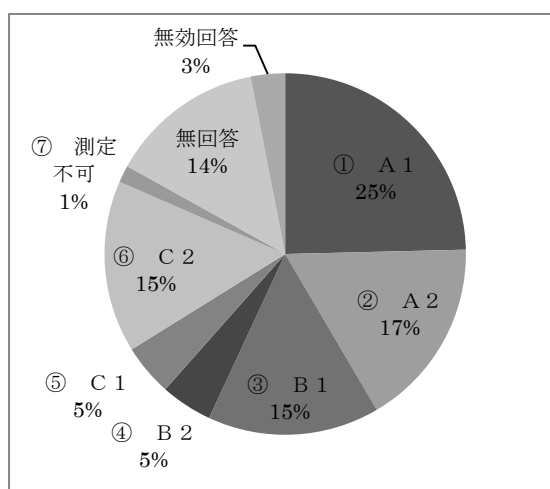
4-6 日本語の自己評価（CEFR）

「Common European Framework of Reference for Languages（ヨーロッパ言語共通参照枠）＝CEFR（セファール）」とは、外国語のコミュニケーション能力を表す指標のひとつである。今回、外国人住民の日本語でのコミュニケーション能力を調査するため CEFR を用いて、技能毎に自己評価をしてもらった。各レベルについての詳細は参考資料を参照。

※測定不可...A1 レベルに達していないレベルについては「測定不可」とした。

4-6-1 理解すること（聞くこと）

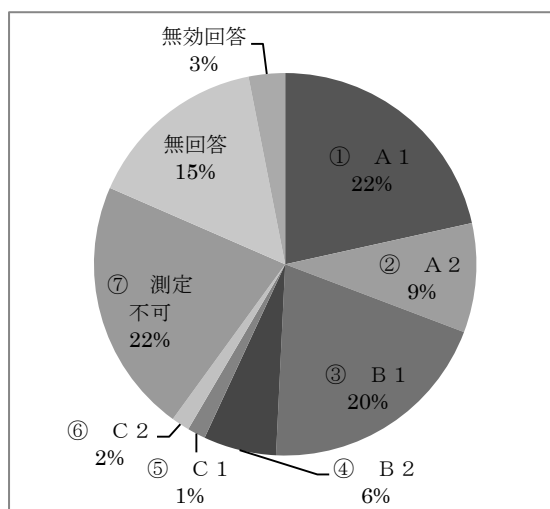
	(人)
① A 1	16
② A 2	11
③ B 1	10
④ B 2	3
⑤ C 1	3
⑥ C 2	10
⑦ 測定不可	1
無回答	9
無効回答	2



A1 レベルが 25%（16 人）で四分の 1 を占めた。

4-6-2 理解すること（読むこと）

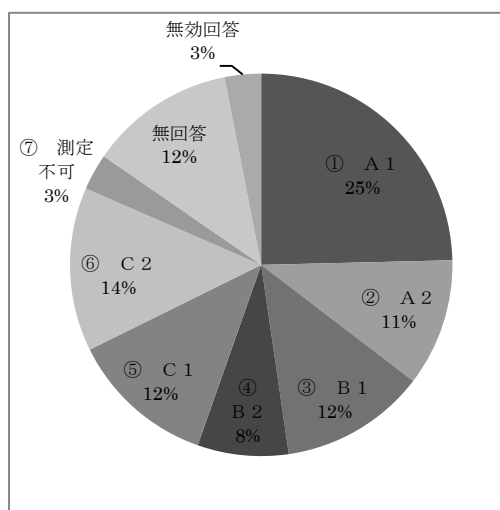
	(人)
① A 1	14
② A 2	6
③ B 1	13
④ B 2	4
⑤ C 1	1
⑥ C 2	1
⑦ 測定不可	14
無回答	10
無効回答	2



「測定不可」と「A1 レベル」が 22%（14 人）となった。

4-6-3 話すこと（やり取り）

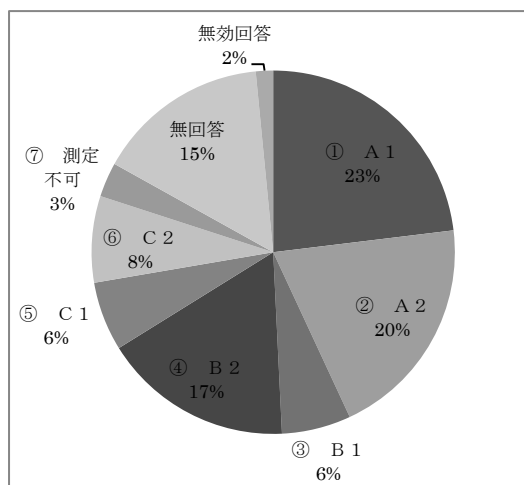
	(人)
① A 1	16
② A 2	7
③ B 1	8
④ B 2	5
⑤ C 1	8
⑥ C 2	9
⑦ 測定不可	2
無回答	8
無効回答	2



A1 レベルと回答した人が 25%（16 人）であった。

4-6-4 話すこと（表現）

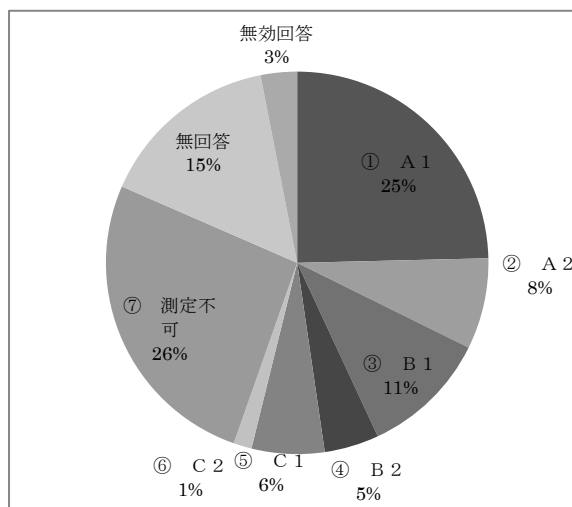
	(人)
① A 1	15
② A 2	13
③ B 1	4
④ B 2	11
⑤ C 1	4
⑥ C 2	5
⑦ 測定不可	2
無回答	10
無効回答	1



A1 レベルが 23%（15 人）、A2 レベルが 20%（13 人）となった。

4-6-5 書くこと（書くこと）

	(人)
① A 1	16
② A 2	5
③ B 1	7
④ B 2	3
⑤ C 1	4
⑥ C 2	1
⑦ 測定不可	17
無回答	10
無効回答	2

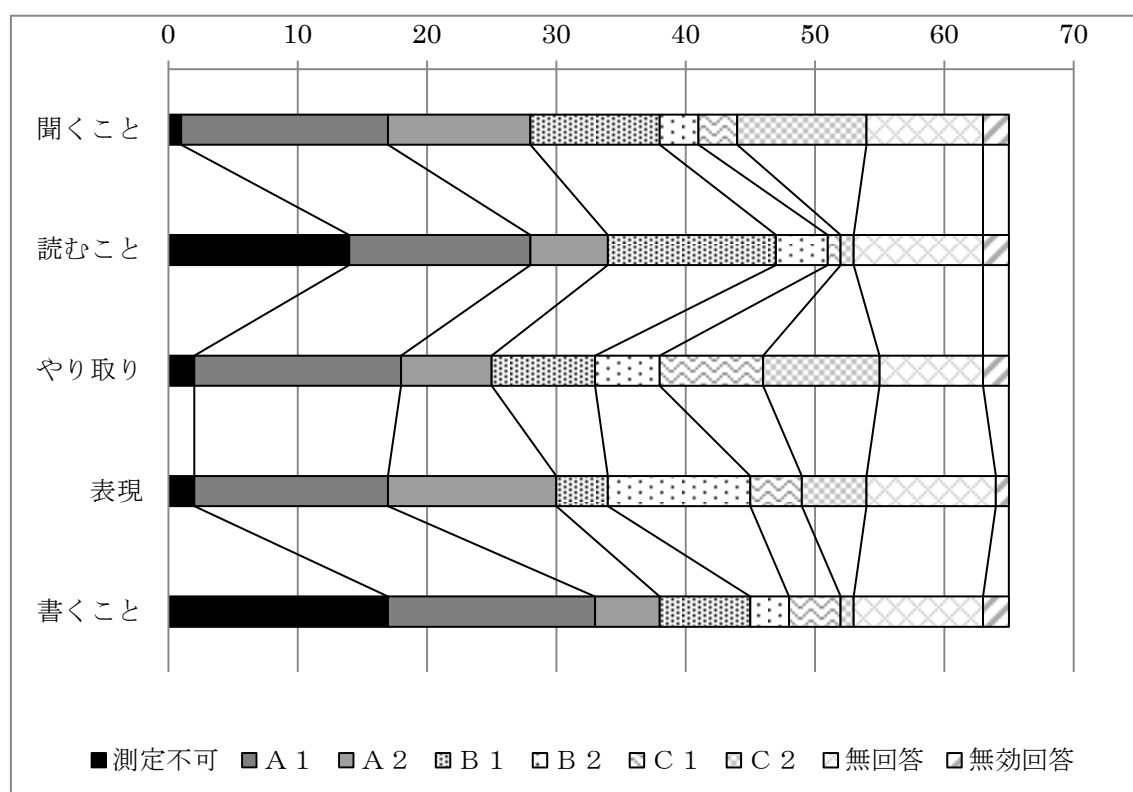


「書くこと（書くこと）」については「測定不可」が 26%（17 人）、次いで A1 レベルが 26%（16 名）となっており、書く力については弱いと感じている人が多いという結果となった。

全技能の自己評価を以下にまとめた。

(人)

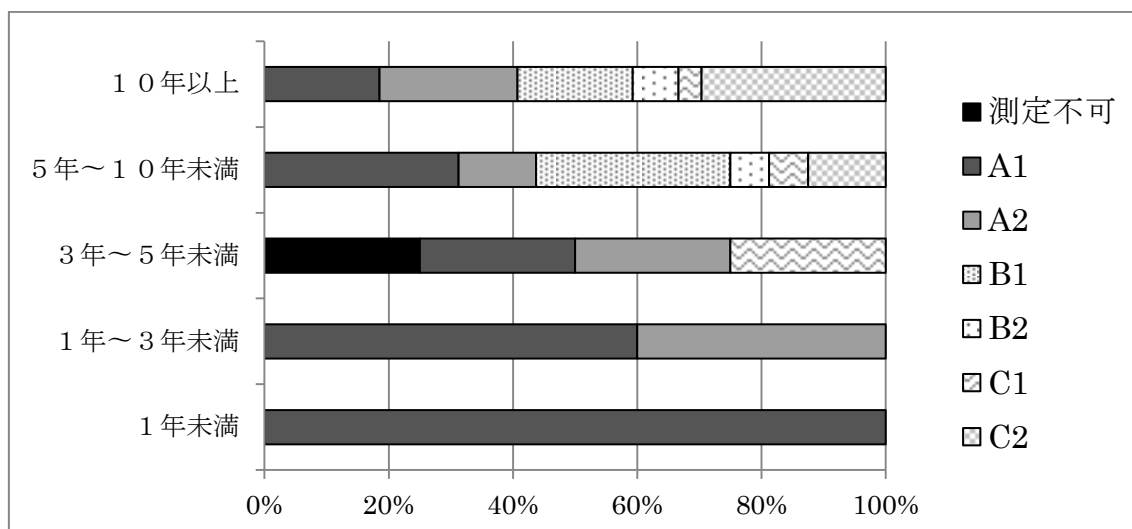
	理解すること (聞くこと)	理解すること (読むこと)	話すこと (やり取り)	話すこと (表現)	書くこと (書くこと)
① A 1	16	14	16	15	16
② A 2	11	6	7	13	5
③ B 1	10	13	8	4	7
④ B 2	3	4	5	11	3
⑤ C 1	3	1	8	4	4
⑥ C 2	10	1	9	5	1
⑦ 測定不可	1	14	2	2	17
無回答	9	10	8	10	10
無効回答	2	2	2	1	2



すべてのスキルにおいて測定不可、または A レベルと回答した人が多く、日本語運用能力の自己評価が高いとは言い難い。また、「理解すること（聞くこと）」や「話すこと（やり取り）」と比べると「理解すること（読むこと）」、「書くこと（書くこと）」技能に自信を持っている人が少ないことがわかる。

4-6-6 日本滞在年数と「理解すること（聞くこと）」

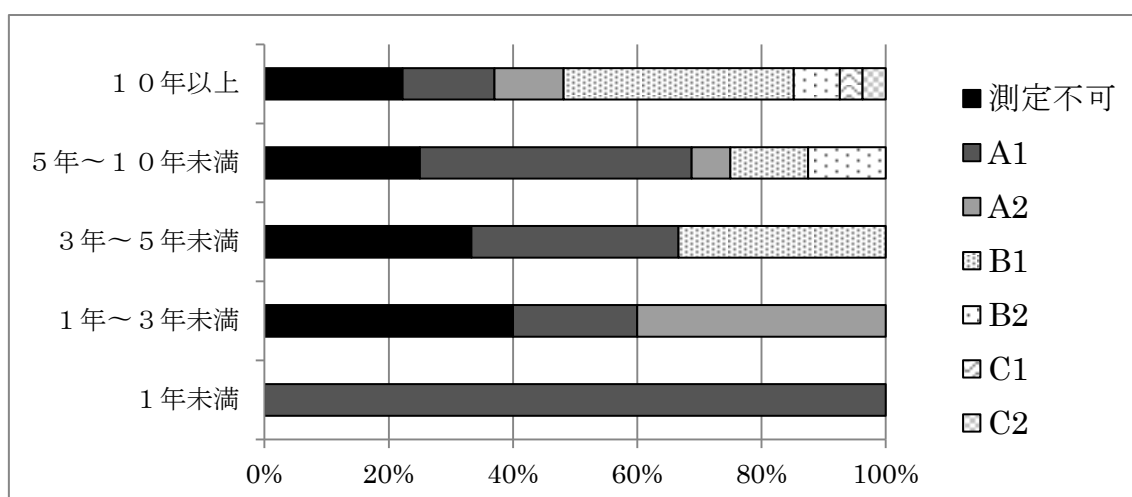
質問項目 1-1-7「あなたはこれまでどれくらい日本に住んでいますか。」と質問項目 4-6-1「理解すること（聞くこと）」を掛け合わせて集計した。以下のような結果になった。



日本に滞在した年数が多いほど「聞くこと」の自己評価が高い。

4-6-7 日本滞在年数と「理解すること（読むこと）」

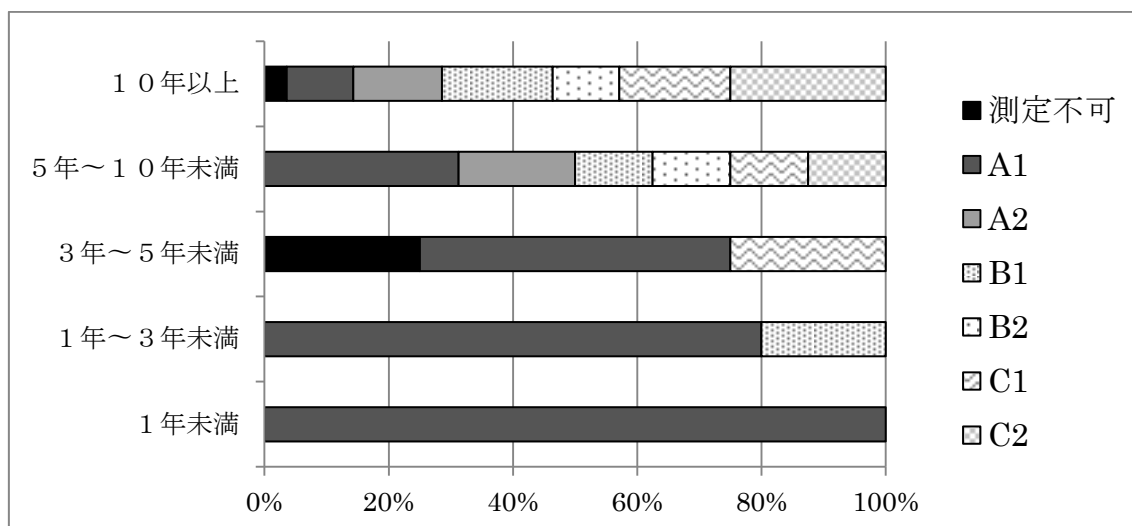
質問項目 1-1-7「あなたはこれまでどれくらい日本に住んでいますか。」と質問項目 4-6-2「理解すること（読むこと）」を掛け合わせて集計した。以下のような結果になった。



10年以上日本に住んでいると回答した人の中にも「測定不可」と回答している人が一定数いるため、滞在年数が長くても「読むこと」の自信が上がるとは言い難い。

4-6-8 日本滞在年数と「話すこと（やり取り）」

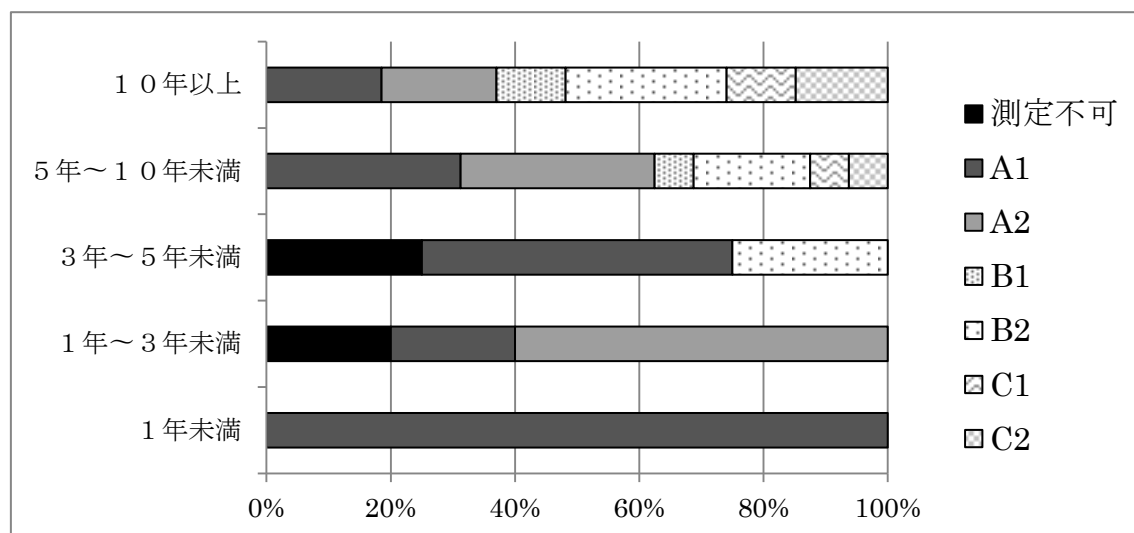
質問項目 1-1-7「あなたはこれまでどれくらい日本に住んでいますか。」と質問項目 4-6-3「話すこと（やり取り）」を掛け合わせて集計した。以下のような結果になった。



滞在年数が長ければ長いほど「話すこと（やり取り）」については自己評価が高い。

4-6-9 日本滞在年数と「話すこと（表現）」

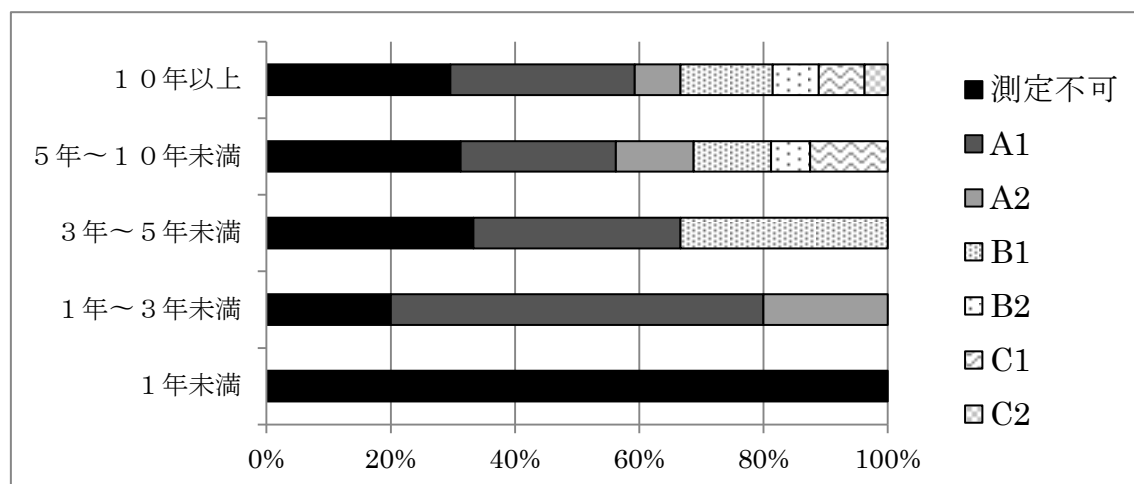
質問項目 1-1-7「あなたはこれまでどれくらい日本に住んでいますか。」と質問項目 4-6-4「話すこと（表現）」を掛け合わせて集計した。以下のような結果になった。



滞在年数が長ければ長いほど「話すこと（表現）」については自己評価が高いが、10年以上滞在している人でさえ B1 レベル以下が多数である。

4-6-10 日本滞在年数と「書くこと（書くこと）」

質問項目 1-1-7「あなたはこれまでどれくらい日本に住んでいますか。」と質問項目 4-6-4「書くこと（書くこと）」を掛け合わせて集計した。以下のような結果になった。



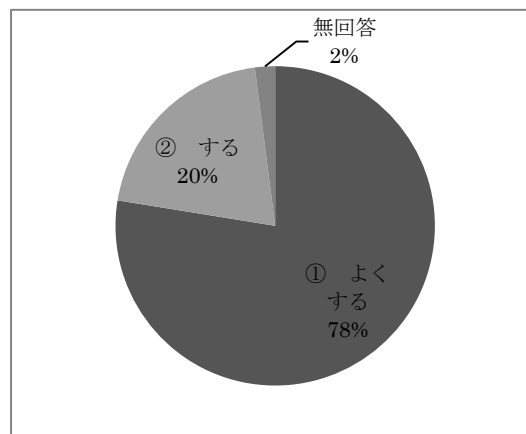
滞在年数に関係なく「書くこと（書くこと）」については A1 レベル、測定不可のレベルの人が多く、滞在年数が長いからといって「書く」運用能力の自己評価が上がるわけではないことがわかる。

5 あなたとお子さんの関係について

5では、4歳以上（幼稚園にあがる年齢）の子どもについてのデータを集計した。

5-1 あなたはお子さんとよく会話しますか。

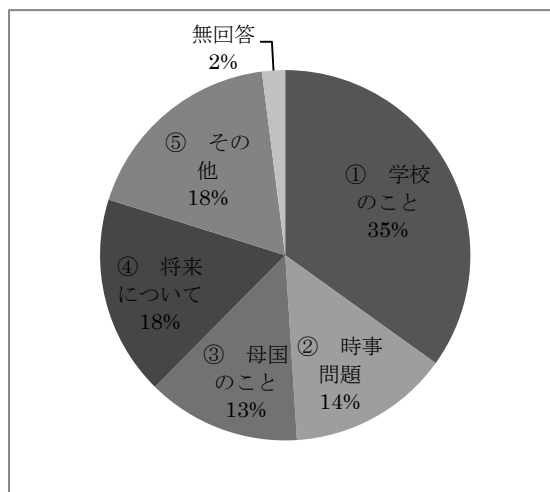
	(人)
① よくする	38
② する	10
③ あまりしない	0
④ しない	0
無回答	1
無効回答	0



「よくする」と回答した人が78%（38人）であった。

5-2-1 どんな会話をしますか。

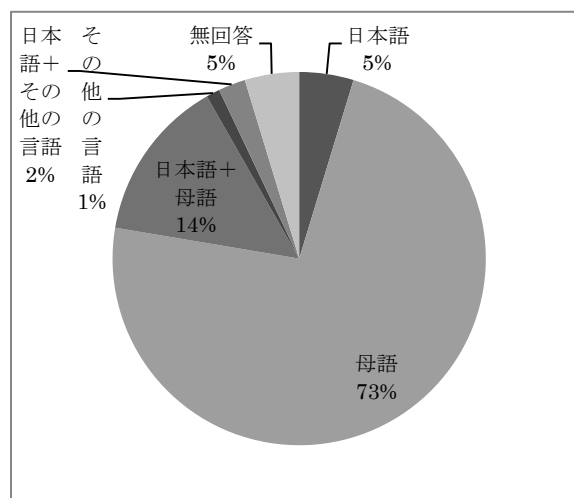
	(複数回答)
① 学校のこと	52
② 時事問題	21
③ 母国のこと	20
④ 将来について	26
⑤ その他	27
無回答	3
無効回答	0



「学校のこと」が35%（52回答）で一番多い。

5-2-2 何語で話しかけますか。

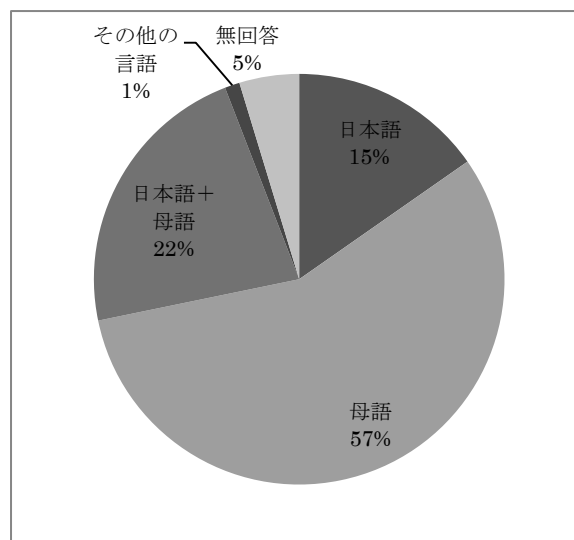
	(回答数)
日本語	4
母語	62
日本語+母語	12
その他の言語	1
日本語+その他の言語	2
無回答	4



「母語」で話しかけると回答した人が 73% (62 回答) あった。

5-2-3 子どもは何語で答えますか。

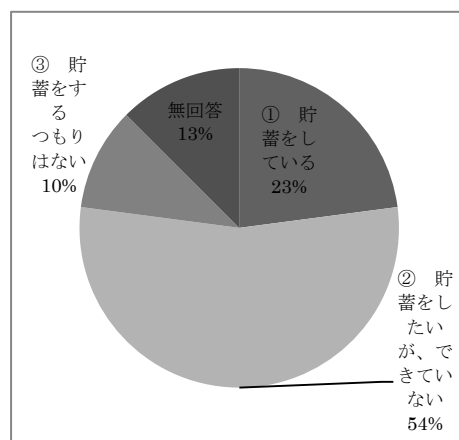
	(回答数)
日本語	13
母語	48
日本語+母語	19
その他の言語	1
日本語+その他の言語	0
無回答	4



「母語」が 57% (48 回答) であった。しかしながら、「日本語」で答えると回答した人が 15% (13 回答)、「日本語+母語」で答えると回答した人も 22% (19 回答) に上った。

5-3 お子さんの将来のために貯蓄をしていますか。

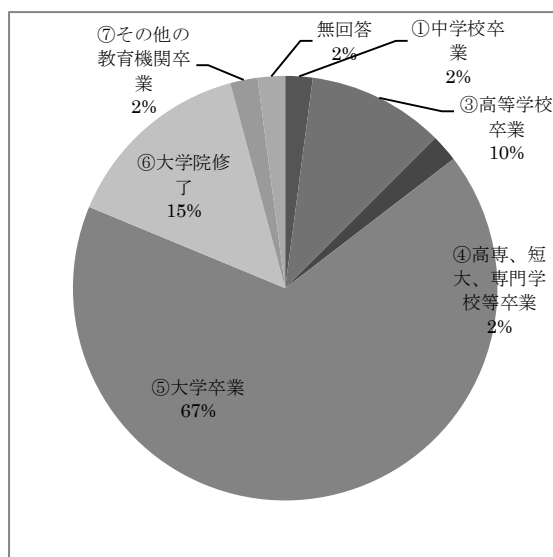
	(人)
① 貯蓄をしている	11
② 貯蓄をしたいが、できていない	26
③ 貯蓄をするつもりはない	5
無回答	6
無効回答	0



「貯蓄したいが、できてない」と回答したい人が 54%（26 人）となり半分を占めている。

5-4 あなたはお子さんの進学について、どこまで希望されていますか

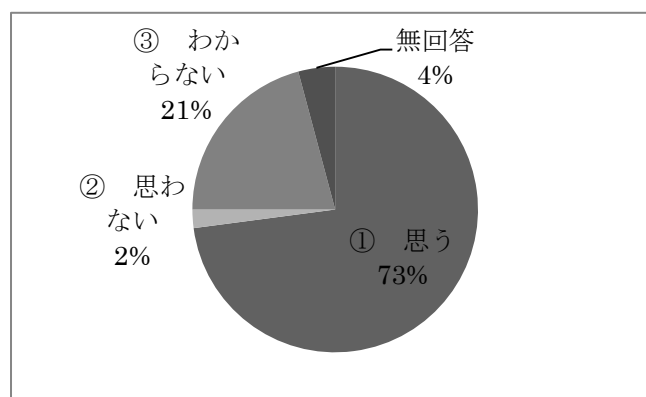
	(人)
① 中学校卒業	1
② 高等学校中途退学	0
③ 高等学校卒業	5
④ 高専、短大、専門学校等卒業	1
⑤ 大学卒業	32
⑥ 大学院修了	7
⑦ その他の教育機関卒業	1
⑧ その他	0
無回答	1
無効回答	0



「大学卒業」を望むと回答した人が 67%（32 人）であった。

5-5 あなたはお子さんが 5-4 の希望通りの学校まで進むことになると思いますか。

	(人)
① 思う	35
② 思わない	1
③ わからない	10
無回答	2
無効回答	0



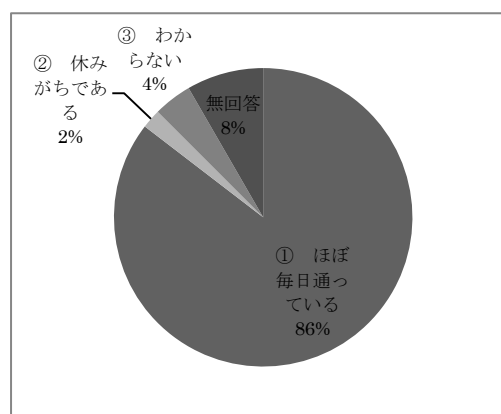
「思う」と回答した人が 73% (35 人) であった。

5-6 (思わないと答えた方におたずねします) その理由について教えてください。

	(複数回答)
① お子さんの希望と異なるから	1
② お子さんの学力がないから	1
③ 経済的な余裕がないから	1
④ その他	0
⑤ 特に理由はない	1
無回答	1
無効回答	1

5-7 お子さんの通学状況について、もっとも近いもの 1 つに○をつけてください。

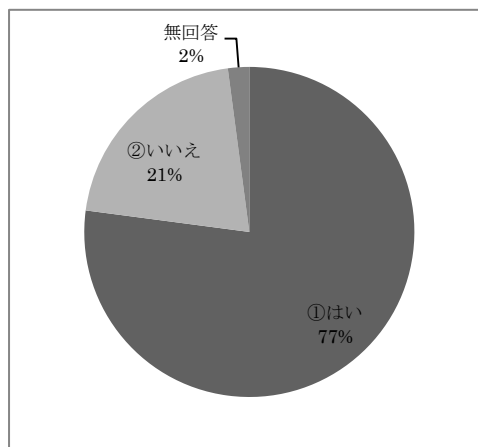
	(人)
① ほぼ毎日通っている	41
② 休みがちである	1
③ わからない	2
無回答	4
無効回答	0



「ほぼ毎日通っている」が 86% (41 人) にのぼった。

5-8 あなたが子育てについて本当に困ったときや悩みがあるとき、相談相手はいますか。

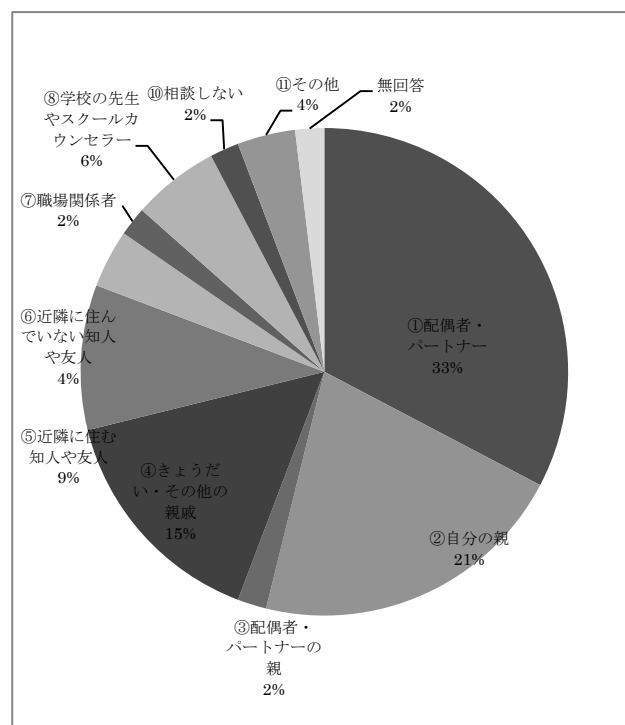
	(人)
①はい	37
②いいえ	10
無回答	1
無効回答	0



「はい」と回答した人が 77% (37 人) であった。

5-9 5-8 で「はい」とお答えした人に質問します。それは誰ですか。

	(複数回答)
①配偶者・パートナー	17
②自分の親	11
③配偶者・パートナーの親	1
④きょうだい・その他の親戚	8
⑤近隣に住む知人や友人	5
⑥近隣に住んでいない知人や友人	2
⑦職場関係者	1
⑧学校の先生やスクールカウンセラー	3
⑨公的機関や役所の相談員	0
⑩相談しない	1
⑪その他	2
無回答	1
無効回答	0



「配偶者・パートナー」と回答した人が 33% (17 人) であった。

5-10 あなたはお子さんの仕事について、どんな仕事についてほしいと思いますか。

- ・子どもがやりたいこと（7名）
- ・幸せになってほしい（2名）
- ・良い仕事
- ・まだわからない（2名）
- ・事務職（オフィスで働く人）（5名）
- ・電車の運転手さん（本人が希望しているから）
- ・安定した仕事（3名）
- ・人の役に立つ仕事
- ・長男は警察（本人が希望）。長女はキャビンアテンダント（本人が希望）。
- ・勉強して、仕事が楽なものについてほしい。
- ・まっすぐ育ててほしい。自分の役に立つ仕事。世界のどこでも働けるように。自分の好きなことをしてほしい。
- ・苦勞しない仕事。将来に役立つ仕事
- ・警察や消防士
- ・医者
- ・プロフェッショナル（2名）
- ・社員
- ・建築家（本人が希望）
- ・自分が今している仕事は危険だから同じところでは働いてほしくない。
- ・コックやシェフ（本人が希望）
- ・工場（のライン）では働いてほしくない。
- ・高い役職に就ける仕事（上司）
- ・社長の運転手
- ・学校の先生
- ・持続（安定）していて、楽な仕事、自分の勉強に関しているもの
- ・外国人だからといって差別されない仕事
- ・コンピュータエンジニア／看護師
- ・長女は空港のカウンター、長男はサッカー選手、次女はまだわからない

1-4 考察

調査の結果から、外国人住民の定住化が進んでおり、子どもをもつ世帯も多いことが明らかとなった。しかしながら、世帯主であっても、パートまたはアルバイト、非正規雇用、派遣労働等不安定な雇用状態で働いている人も多く、世帯の収入が高くない傾向にある。その一つの理由としては、日本語運用能力が高くないことが挙げられる。日本語を使用しないで従事できる仕事は限られており、その仕事の雇用形態がアルバイトや派遣労働ということ、他の仕事を探そうとしても新聞やインターネットを介して日本語での情報収集が行えないことや、面接において日本語でのやり取りが難しいことなど、雇用や就職には日本語の壁が高く立ちはだかる。

また日本語の運用能力に関しては、特に「読み・書き」については自信がない人と答えた人が多くみられた。そのため、行政からの書類や学校からのお便りなどが読めず、日本人住民と比べると迅速に、正確な情報を取得することがかなり難しい。加えて、「日本語を独学で学んだ」と回答した人については、仕事や日常生活において実践的に身につけたものであるため、必ずしも体系的に学んだものではなく、正確さに欠けていることが予測される。

先述した雇用や日本語の問題だけでなく、外国人住民は近所付き合いや、日本人住民との接点も少ない傾向にあることも問題である。生活や子育てについての悩みや困ったことも、配偶者や親などの身内の外国人住民が相談相手になることが多く、同国出身のコミュニティ間で悩みや困ったことを共有し、解決しようとする傾向が強い。この自助努力の構造によって、日本人社会において外国人住民の悩みや困り事が可視化されづらい状況になってしまい、生活に関する情報が限られてしまうことや、不安定な雇用などに繋がる一因になっていることも考えられる。

子どもの教育に関しては、10代で親になった人も多数おり、自身の子どもの学習や教育をどのように見守れば良いのかわからないといった現状がある。親自身は母国で中学校・高等学校を卒業したため、日本の教育システムが理解できていない人も多い。しかしながら、親自身が望んでいる子どもの進学については「大学進学を希望する」と高学歴を求めている親も多い。また、具体的にどのような勉強をさせれば、子どもを希望する進路に進ませることができるのか、道筋が見えていない場合が多い。

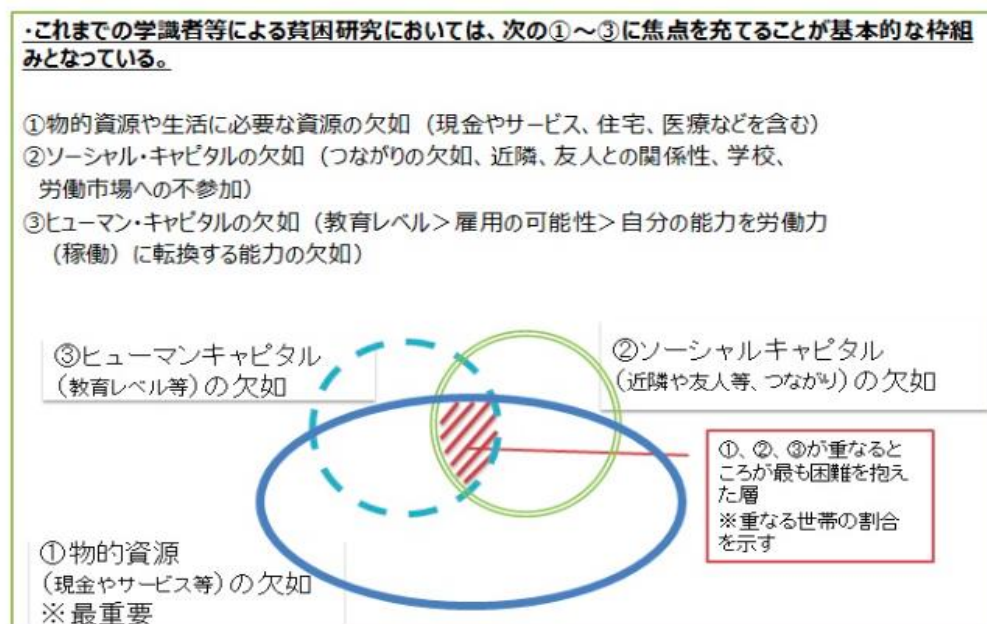
2 日本人住民との生活実態の比較～子どもの貧困に焦点を当てて～

大阪市のホームページによると『平成 25 年 6 月に成立した「子どもの貧困対策の推進に関する法律」の趣旨を踏まえ、大阪市は、こどもの貧困対策にかかる施策を総合的かつ円滑に推進するため、平成 28 年 2 月に「大阪市こどもの貧困対策推進本部」を設置した。こどもたちの未来が生まれ育った環境によって左右されることなく、自らの可能性を追求できる社会をめざし、行政が適格な施策を行うために、正確に現状を把握する必要があることから、平成 28 年 6 月 27 日から 7 月 14 日にかけて、子どもの生活に関する実態調査を行いました。』とある。（こどもの貧困対策推進事業 2017 年 2 月 20 日）

しかしながら、その調査では「あなたが日常生活でよく使う言葉はどれですか」の質問に「日本語以外」と答えた人が 5 人と少なかったため（大阪市西淀川区）、外国人世帯の実態把握ができていたとは言いがたく、当センターでは本調査を通して、外国人世帯における「子どもの貧困」の実態把握を進めようと試みた。

平成 28 年に大阪市が実施した「子どもの生活に関する実態調査」のスキームによると、子どもの貧困研究においては次の①～③に焦点を充てることが基本的な枠組みとなっている。

図 1：大阪府子どもの生活に関する実態調査のスキーム



出典：第2回大阪府子ども施策審議会 子ども貧困対策部会資料

本章では日本人住民との生活に関する実態のちがいについて知るため、平成 28 年に大阪府で行われた「大阪府子どもの生活に関する実態調査（大阪府西淀川区）」と同じあるいは類似した質問項目を設けた。ここに調査結果を比べて、その差を考察するとともに、「子ども

の貧困」についても焦点をあてることとする。

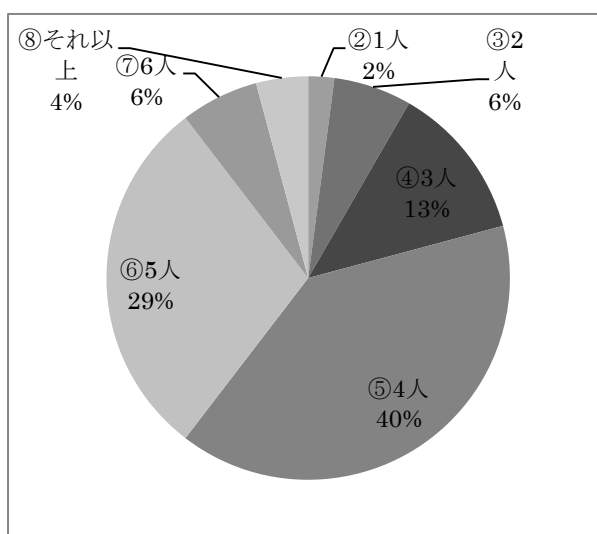
2-1 結果

ここでは本調査で「子どもが一人以上いる」と答えた子育て中の回答者を母数として再集計を行い、「大阪市子どもの生活に関する実態調査（大阪市西淀川区）」と比較した。上段に本調査の結果、下段に「大阪市子どもの生活に関する実態調査（大阪市西淀川区）」の結果を記した。

2-① 世帯人数は何人ですか。

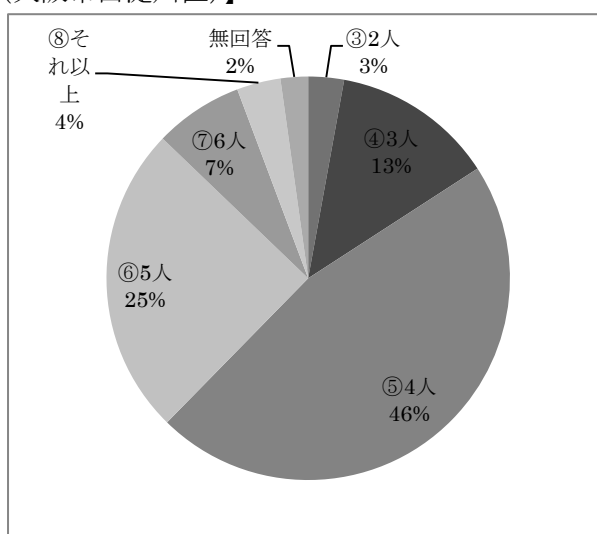
【本調査】

	(人)
①0人	0
②1人	1
③2人	3
④3人	6
⑤4人	19
⑥5人	14
⑦6人	3
⑧それ以上	2
無回答	0
無効回答	0



【大阪市子どもの生活に関する実態調査（大阪市西淀川区）】

	(人)
①0人	
②1人	
③2人	35
④3人	159
⑤4人	569
⑥5人	304
⑦6人	87
⑧それ以上	43
無回答	27
無効回答	

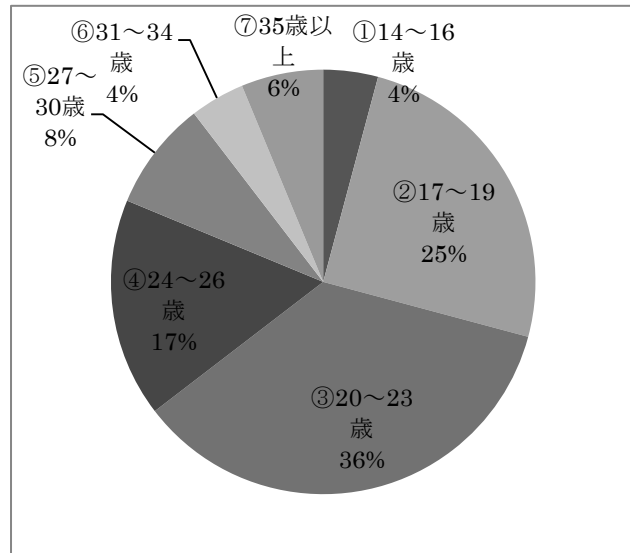


日本人住民も外国人住民も世帯人数は「4人」が一番多い。

2-② 初めて親となった年齢はいくつですか。(実子以外も含みます)

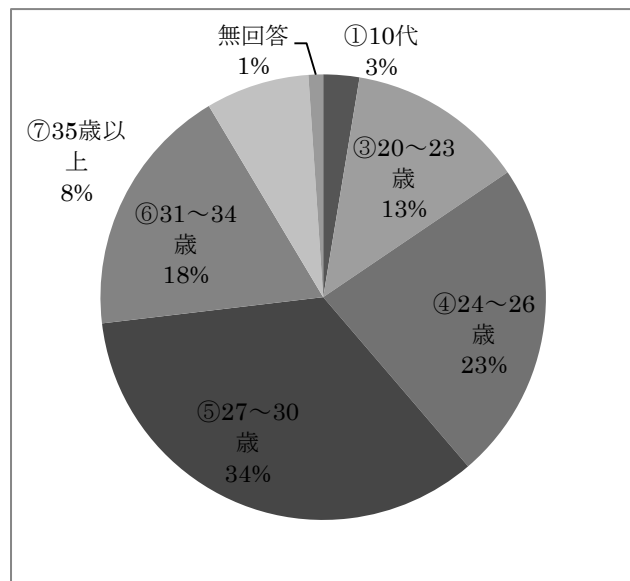
【本調査】

	(人)
①14～16 歳	2
②17～19 歳	12
③20～23 歳	17
④24～26 歳	8
⑤27～30 歳	4
⑥31～34 歳	2
⑦35 歳以上	3
無回答	0
無効回答	0



【大阪市子どもの生活に関する実態調査（大阪市西淀川区）】

	(人)
①10 代	32
②20～23 歳	158
③24～26 歳	284
④27～30 歳	421
⑤31～34 歳	224
⑥35 歳以上	92
無回答	13
無効回答	0

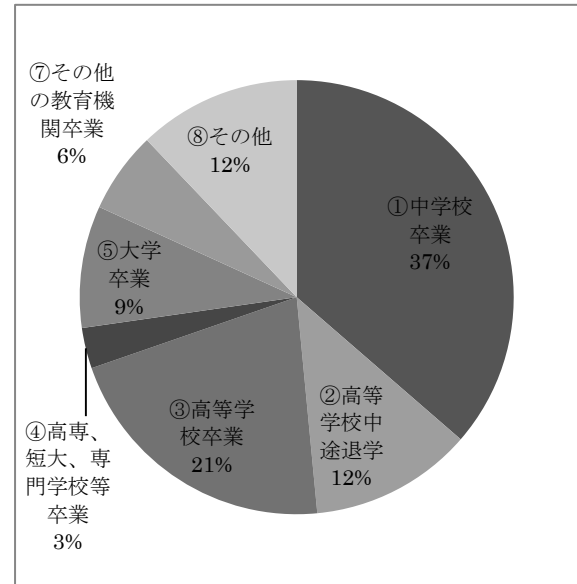


日本人住民は「10 代」で初めて親になったと答えた人がわずか 3%であったが、本調査では外国人住民の 29%の回答者が 10 代で初めて親になったと回答しており、若くして親になった外国人住民が多いことが明らかになった。また、23 歳までに親になったと答えた人は日本人住民の約 2.5 倍である。

2-③ お子さんのお母さんの最後に通った学校教えてください。

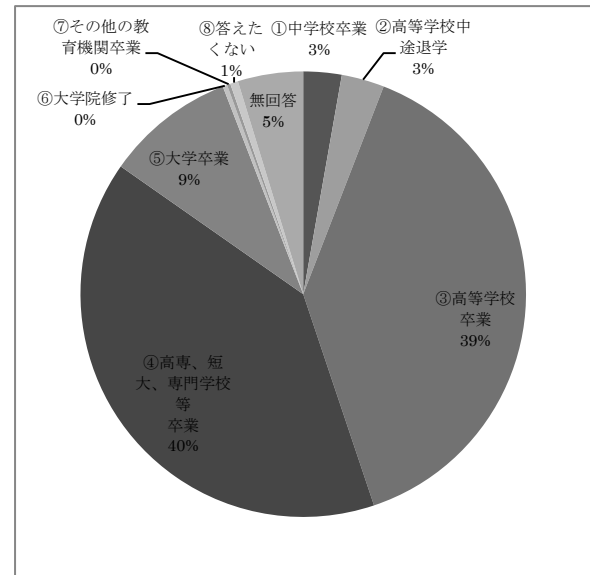
【本調査】

	(人)
①中学校卒業	12
②高等学校中途退学	4
③高等学校卒業	7
④高専、短大、専門学校等卒業	1
⑤大学卒業	3
⑥大学院修了	0
⑦その他の教育機関卒業	2
⑧その他	4
無回答	0
無効回答	0



【大阪市子どもの生活に関する実態調査（大阪市西淀川区）】

	(人)
①中学校卒業	34
②高等学校中途退学	38
③高等学校卒業	477
④高専、短大、専門学校等卒業	488
⑤大学卒業	115
⑥大学院修了	4
⑦その他の教育機関卒業	3
⑧答えたくない	7
無回答	58
無効回答	0

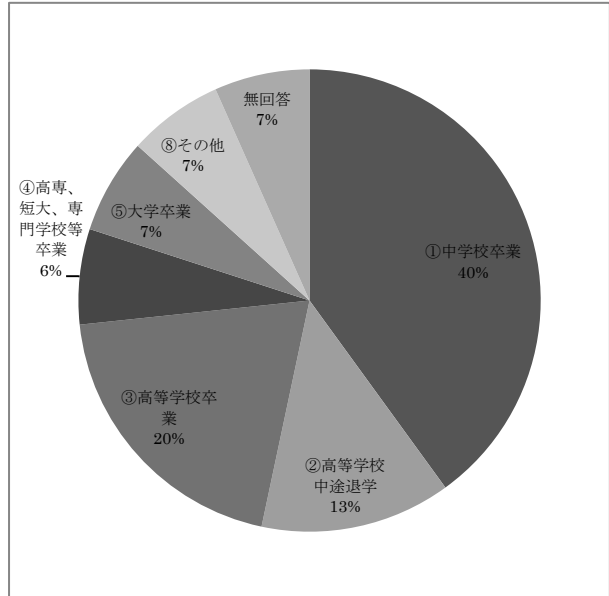


最終学歴が「中学校卒業」と回答した人が、外国人住民は日本人住民の約 10 倍、高等学校中途退学率も日本人住民に比べるとかなり高い。

2-④ お子さんのお父さんの最後に通った学校を教えてください。

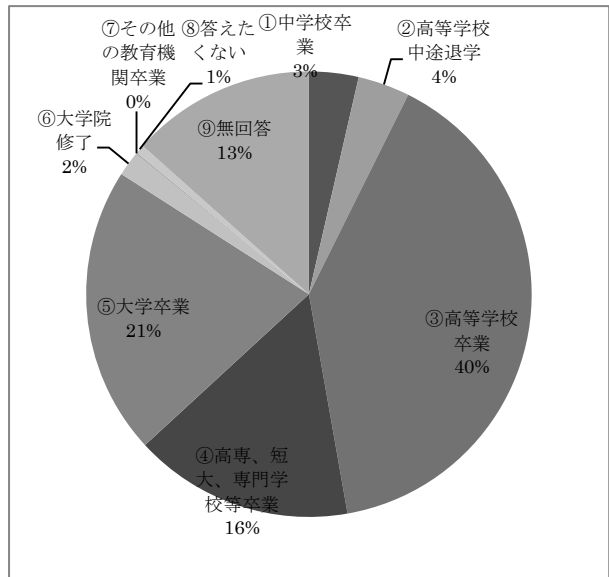
【本調査】

	(人)
①中学校卒業	6
②高等学校中途退学	2
③高等学校卒業	3
④高専、短大、専門学校等卒業	1
⑤大学卒業	1
⑥大学院修了	
⑦その他の教育機関卒業	
⑧その他	1
無回答	1
無効回答	0



【大阪市子どもの生活に関する実態調査（大阪市西淀川区）】

	(人)
①中学校卒業	44
②高等学校中途退学	46
③高等学校卒業	488
④高専、短大、専門学校等卒業	195
⑤大学卒業	256
⑥大学院修了	22
⑦その他の教育機関卒業	1
⑧答えたくない	8
無回答	164
無効回答	0

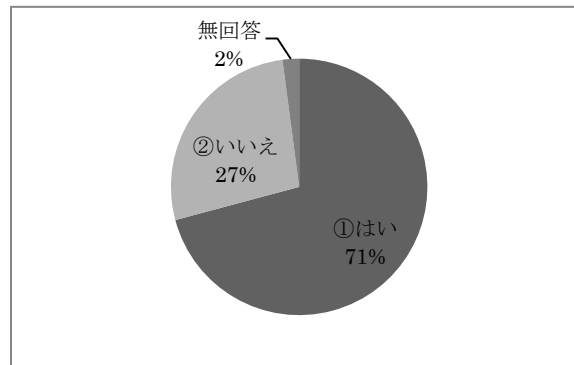


「お父さん」の最終学歴についても「中学校卒業」と回答した人が、外国人住民は日本人住民と比べて圧倒的に多かった。また、高等学校中途退学率も日本人住民に比べるとかなり高い。

2-⑤ あなたが生活について本当に困ったときや悩みがあるとき、相談相手はいますか。

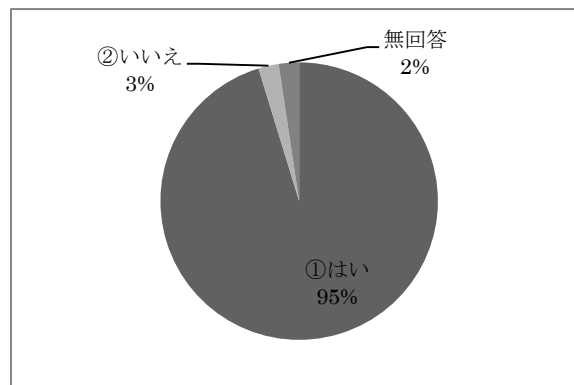
【本調査】

	(人)
①はい	34
②いいえ	13
無回答	1
無効回答	0



【大阪市子どもの生活に関する実態調査（大阪市西淀川区）】

	(人)
①はい	1166
②いいえ	29
無回答	29
無効回答	0



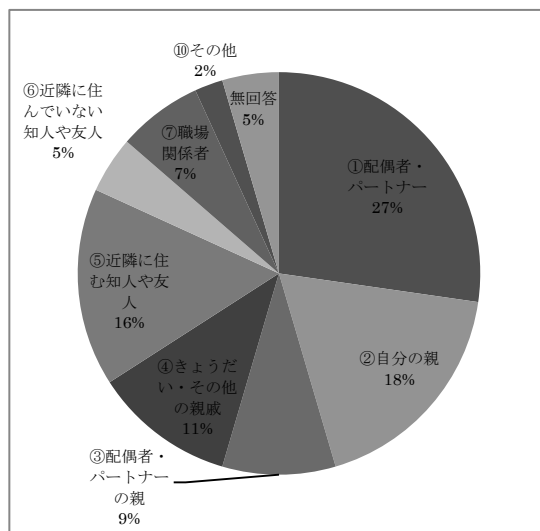
外国人住民は「いいえ」と答えた人が 27%となっており、日本人住民の「いいえ」3%と比べ、圧倒的に「相談する相手がいない」と答えた人が多かった。

2-⑥ 2-⑤で、「はい」とお答えした人に質問します。それは誰ですか。

【本調査】

(複数回答)

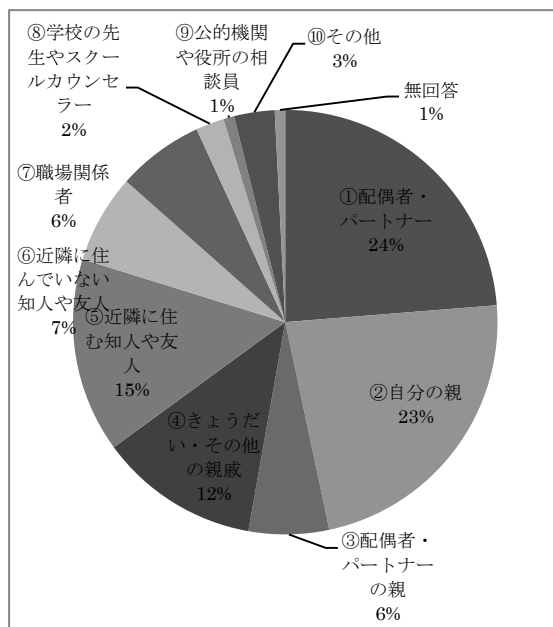
①配偶者・パートナー	12
②自分の親	8
③配偶者・パートナーの親	4
④きょうだい・その他の親戚	5
⑤近隣に住む知人や友人	7
⑥近隣に住んでいない知人や友人	2
⑦職場関係者	3
⑧学校の先生やスクールカウンセラー	0
⑨公的機関や役所の相談員	0
⑩その他	1
無回答	2
無効回答	0



【大阪市子どもの生活に関する実態調査（大阪市西淀川区）】

(複数回答)

①配偶者・パートナー	869
②自分の親	840
③配偶者・パートナーの親	224
④きょうだい・その他の親戚	446
⑤近隣に住む知人や友人	543
⑥近隣に住んでいない知人や友人	247
⑦職場関係者	242
⑧学校の先生やスクールカウンセラー	79
⑨公的機関や役所の相談員	30
⑩その他	113
無回答	29
無効回答	0

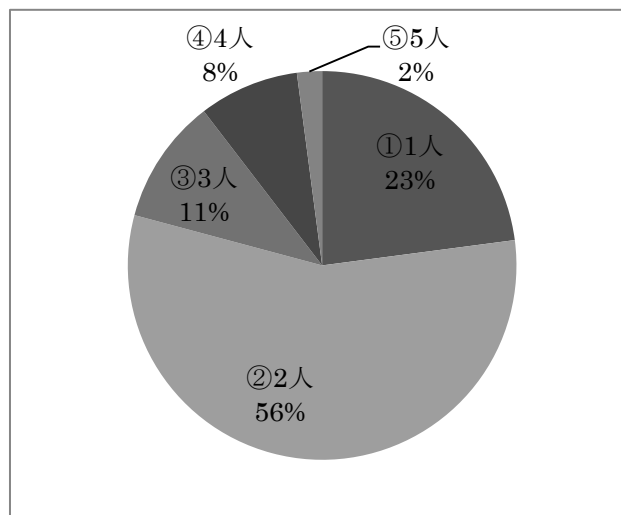


日本人住民も外国人住民も、相談相手を「配偶者・パートナー」「自分の親」と回答した人が多いが、外国人住民の場合、「配偶者・パートナー」「自分の親」は日本語を第一言語としない人が多く、取得できる情報が限られることが予想される。

2-⑦ あなたの世帯で収入のある方の人数を教えてください。

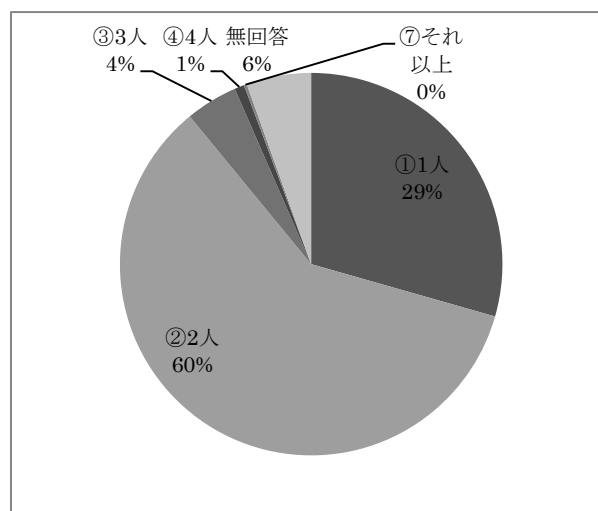
【本調査】

	(人)
①1人	11
②2人	27
③3人	5
④4人	4
⑤5人	1
⑥6人	0
⑦それ以上	0
無回答	0
無効回答	0



【大阪市子どもの生活に関する実態調査（大阪市西淀川区）】

	(人)
①1人	360
②2人	730
③3人	54
④4人	10
⑦それ以上	3
無回答	67
無効回答	0

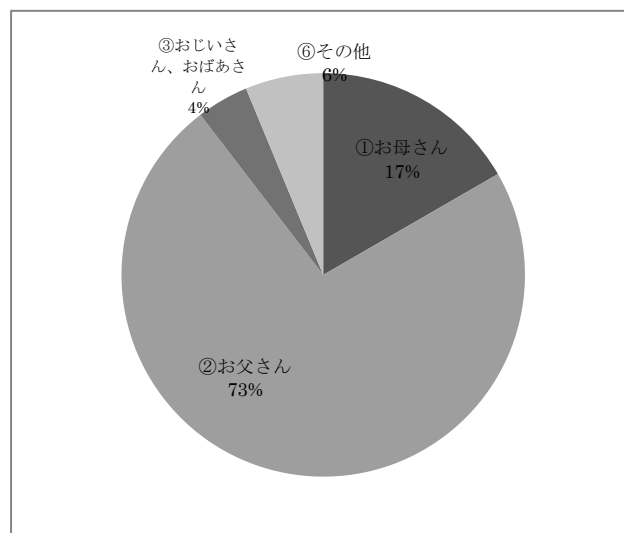


外国人住民のうち 25%が、世帯で収入のある人が「3人以上」と回答した。兄弟・姉妹・親戚など同居している人も見られた。

2-⑧ あなたの世帯で主に生計を支えている方はどなたですか。（お子さんからみた続柄で、あてはまる番号1つに○をつけてください。）

【本調査】

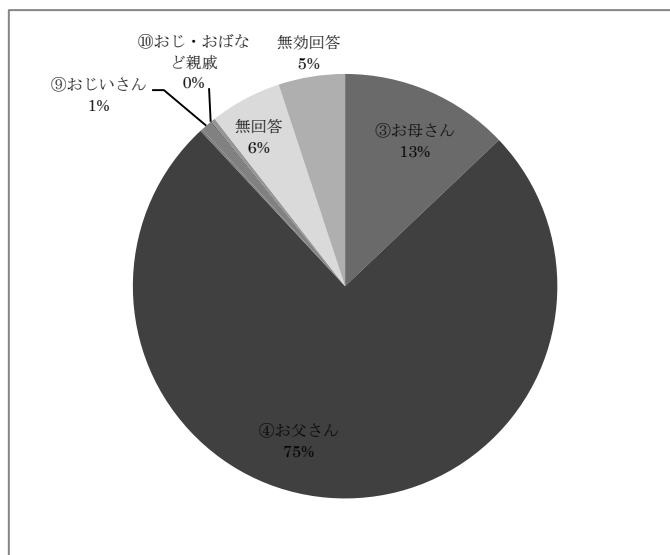
	(人)
①お母さん	8
②お父さん	35
③おじいさん、おばあさん	2
④兄・姉	0
⑤おじ・おばなど親戚	0
⑥その他	3
無回答	0
無効回答	0



【大阪市子どもの生活に関する実態調査（大阪市西淀川区）】

(人)

①お母さん	158
②お父さん	920
③兄・姉	2
④弟・妹	0
⑤子ども	0
⑥おばあさん	0
⑦おじいさん	10
⑧おじ・おばなど親戚	1
⑨その他	4
無回答	67
無効回答	62

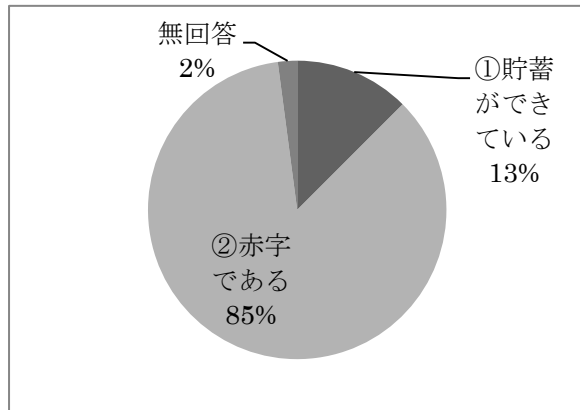


外国人住民、日本人住民ともに「お父さん」が7割を超えていた。

2-⑨ 前年（2015 年）の 1 年間のあなたの家計状況についてあてはまる番号 1 つに○をつけてください。

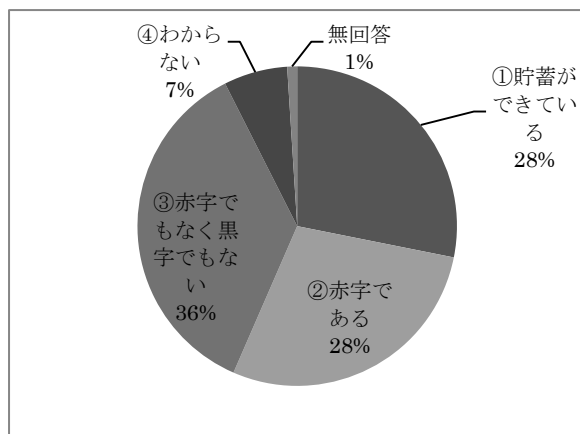
【本調査】

	(人)
①貯蓄ができている	6
②赤字である	41
無回答	1
無効回答	0



【大阪市子どもの生活に関する実態調査（大阪市西淀川区）】

	(人)
①貯蓄ができている	336
②赤字である	339
③赤字でもなく黒字でもない	430
④わからない	77
無回答	12
無効回答	0

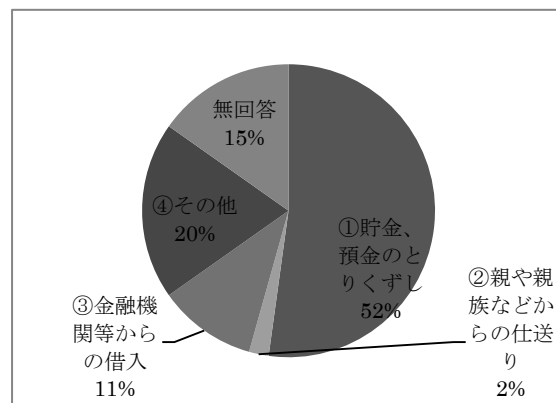


外国人住民は「赤字である」と回答した人が 85%にのぼり、日本人住民よりも家計状況が厳しいことが明らかになった。

2-⑩ (赤字であると答えた方におたずねします) 赤字の場合はどのようにしていますか。

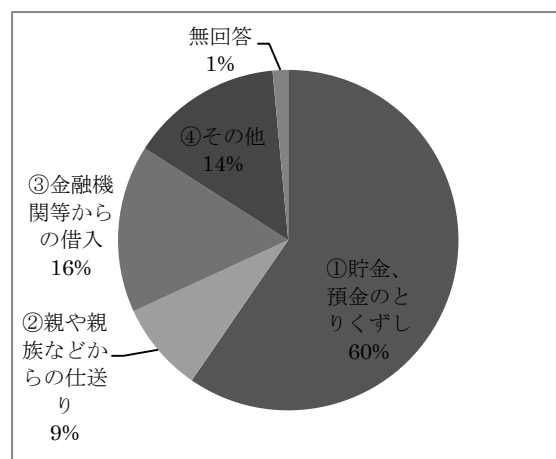
【本調査】

	(人)
①貯金、預金のとりくずし	24
②親や親族などからの仕送り	1
③金融機関等からの借入	5
④その他	9
無回答	7
無効回答	0



【大阪市子どもの生活に関する実態調査（大阪市西淀川区）】

	(人)
①貯金、預金のとりくずし	202
②親や親族などからの仕送り	29
③金融機関等からの借入	54
④その他	49
無回答	5
無効回答	0

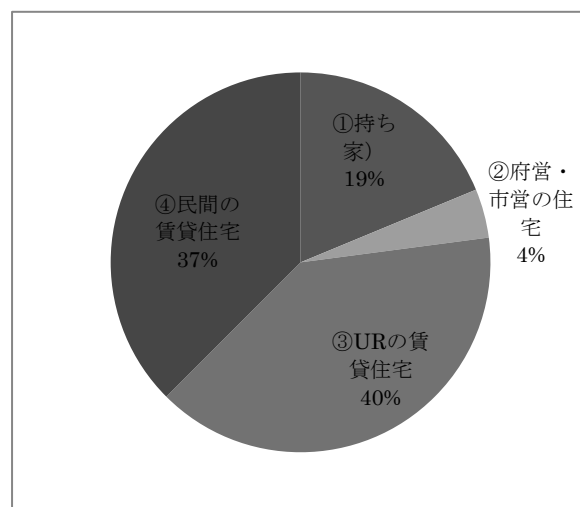


外国人住民は「親や親族などからの仕送り」に頼っている人が少なく、また、「貯金、預金のとりくずし」と回答しなかった人に口頭で詳しく質問してみると「そもそも貯金、預金がない」と答えた人もいた。

2-⑩ あなたの住居は、次のどれにあてはまりますか。

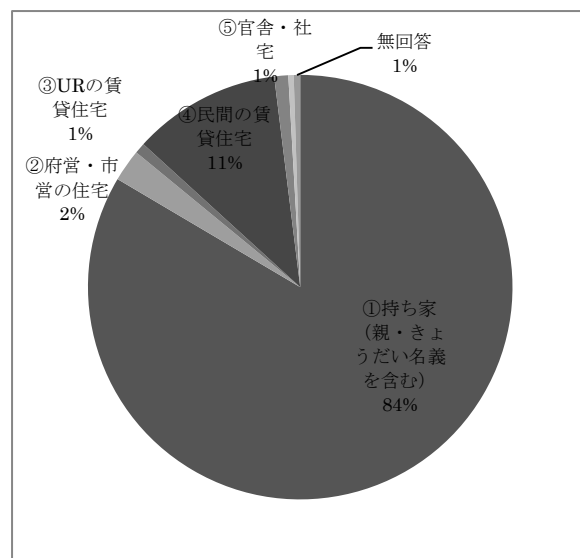
【本調査】

	(人)
①持ち家(親・きょうだい名義を含む)	9
②府営・市営の住宅	2
③URの賃貸住宅	19
④民間の賃貸住宅	18
⑤官舎・社宅	0
⑥その他	0
無回答	0
無効回答	0



【大阪市子どもの生活に関する実態調査（大阪市西淀川区）】

	(人)
①持ち家(親・きょうだい名義を含む)	1022
②府営・市営の住宅	30
③URの賃貸住宅	10
④民間の賃貸住宅	138
⑤官舎・社宅	13
⑥その他	5
無回答	6
無効回答	0



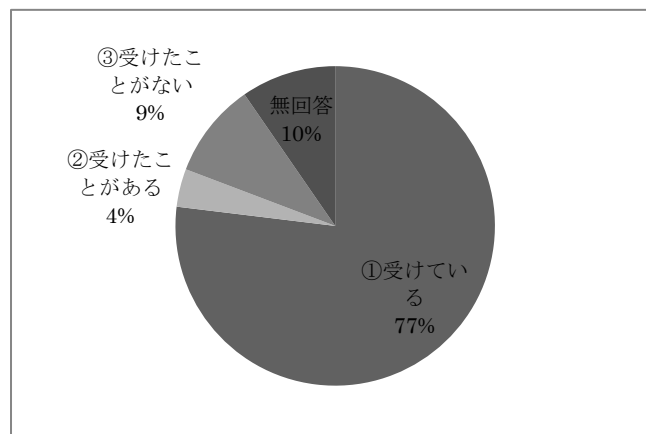
日本人住民に比べ、外国人住民は「持ち家」と回答した人が圧倒的に少なかった。しかし、本調査にて在留資格で「永住者」「定住者」が多いこと、また、日本での滞在期間が10年以上と回答している人も多く、今後、家を購入したいと考えている回答者も多く見られた。

2-⑫ あなたの世帯では以下の手当てや援助等を受けていますか。

2-⑫-1 児童手当を受けていますか。

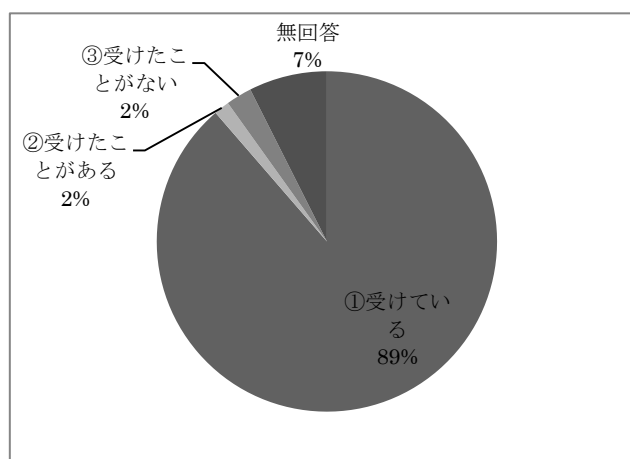
【本調査】

	(人)
①受けている	40
②受けたことがある	2
③受けたことがない	5
無回答	5
無効回答	0



【大阪市子どもの生活に関する実態調査（大阪市西淀川区）】

	(人)
①受けている	1085
②受けたことがある	18
③受けたことがない	30
無回答	91
無効回答	

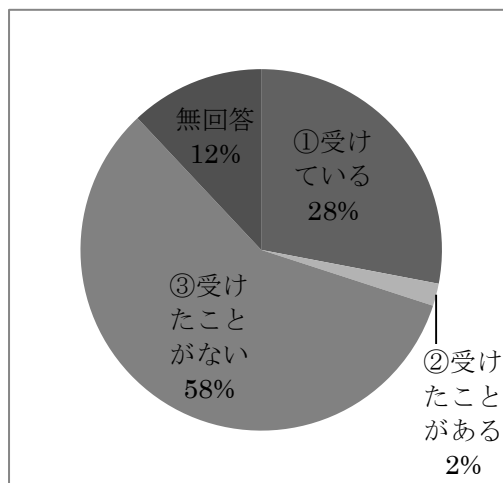


外国人住民についても「受けている」が77%にのぼった。

2-⑫-2 就学援助費を受けていますか。

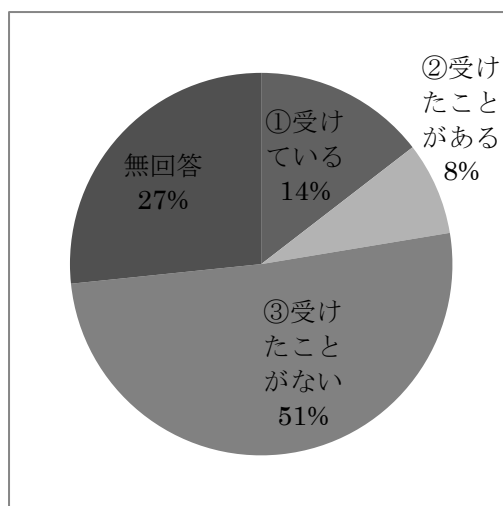
【本調査】

	(人)
①受けている	14
②受けたことがある	1
③受けたことがない	29
無回答	6
無効回答	0



【大阪市子どもの生活に関する実態調査（大阪市西淀川区）】

	(人)
①受けている	178
②受けたことがある	96
③受けたことがない	624
無回答	326
無効回答	

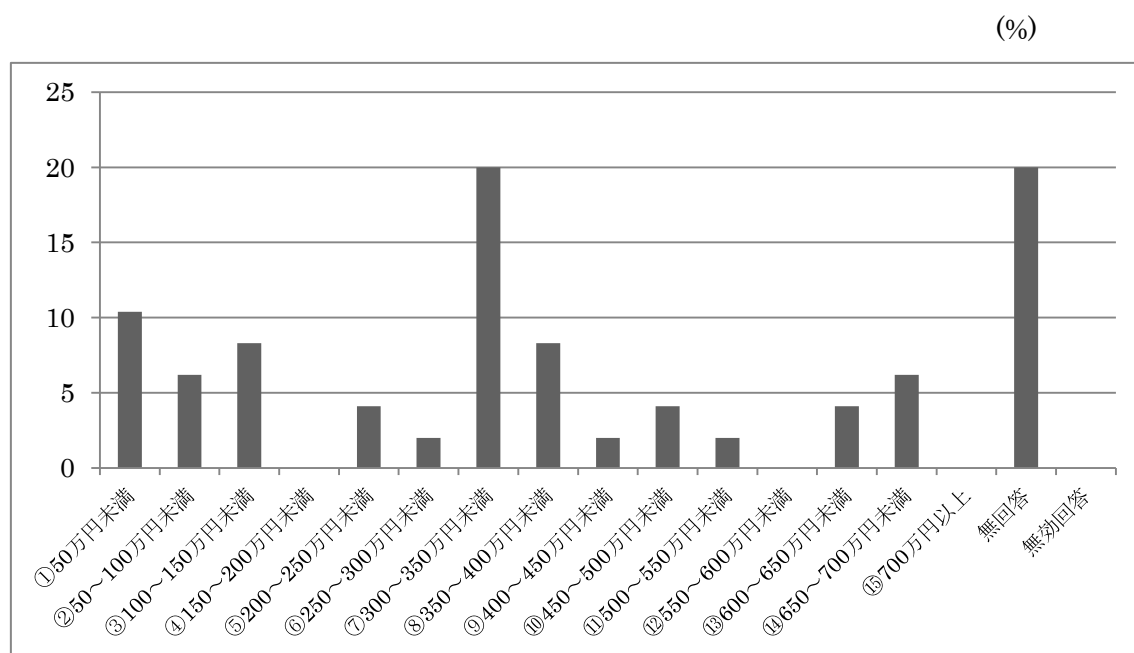


外国人住民は「受けている」と回答した人が 28%にのぼり、日本人住民の約 2 倍となった。

2-⑬ 前年(2015 年)のあなたの世帯の収入の合計額は、およそいくらでしたか。

【本調査】

	(人)
①50 万円未満	5
②50～100 万円未満	3
③100～150 万円未満	4
④150～200 万円未満	0
⑤200～250 万円未満	2
⑥250～300 万円未満	1
⑦300～350 万円未満	10
⑧350～400 万円未満	4
⑨400～450 万円未満	1
⑩450～500 万円未満	2
⑪500～550 万円未満	1
⑫550～600 万円未満	0
⑬600～650 万円未満	2
⑭650～700 万円未満	3
⑮700 万円以上	0
無回答	10
無効回答	0

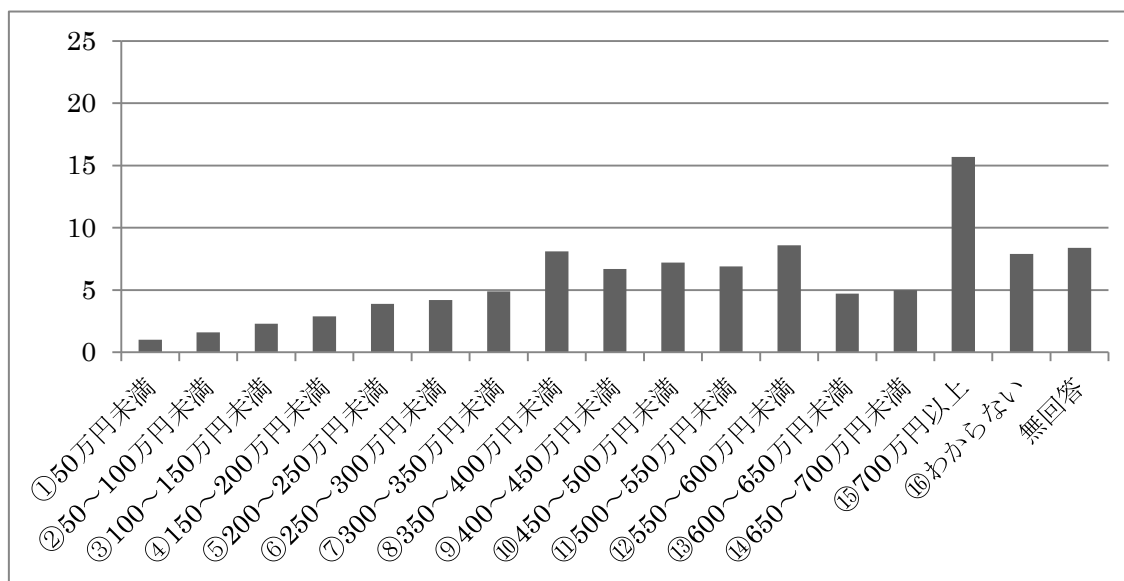


【大阪市子どもの生活に関する実態調査（大阪市西淀川区）】

(人)

①50 万円未満	12
②50～100 万円未満	19
③100～150 万円未満	28
④150～200 万円未満	36
⑤200～250 万円未満	48
⑥250～300 万円未満	52
⑦300～350 万円未満	60
⑧350～400 万円未満	99
⑨400～450 万円未満	82
⑩450～500 万円未満	88
⑪500～550 万円未満	84
⑫550～600 万円未満	105
⑬600～650 万円未満	57
⑭650～700 万円未満	61
⑮700 万円以上	193
無回答	103
無効回答	0

(%)



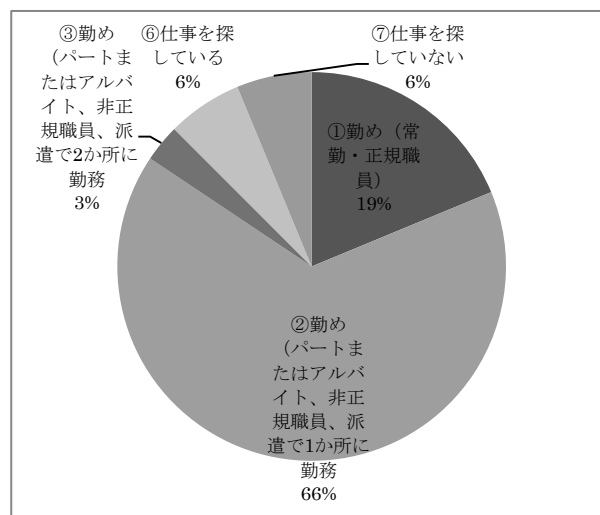
日本人住民は 700 万円以上の世帯収入があると回答した人が最も多かったが、外国人住民で世帯収入が 700 万円以上と回答したものは 0 人であった。外国人住民の世帯収入については「300 万～350 万円未満」と回答した人が最も多く、日本人住民と比べて世帯収入が低いことが明らかになった。

また、「あなたの世帯で収入のある方の人数を教えてください。」の問いには、日本人住民、外国人住民ともに「2 名」と回答した人が一番多かったが、世帯で収入がある人数が変わらないにもかかわらず、外国人住民は日本人住民よりも世帯収入が低いということも明らかになった。

2-⑭ お母さんの現在の就業状況についておたずねします。

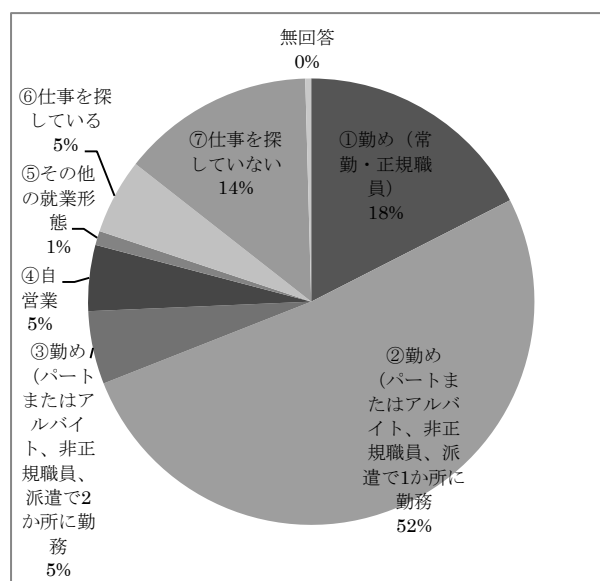
【本調査】

	(人)
①勤め（常勤・正規職員）	6
②勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員、派遣で1か所に勤務	2
③勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員、派遣で2か所に勤務	1
④自営業	
⑤その他の就業形態	
⑥仕事を探している	2
⑦仕事を探していない	2
無回答	
無効回答	0



【大阪市子どもの生活に関する実態調査（大阪市西淀川区）】

	(人)
①勤め（常勤・正規職員）	205
②勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員、派遣で1か所に勤務	604
③勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員、派遣で2か所に勤務	62
④自営業	56
⑤その他の就業形態	12
⑥仕事を探している	64
⑦仕事を探していない	164
無回答	5
無効回答	0

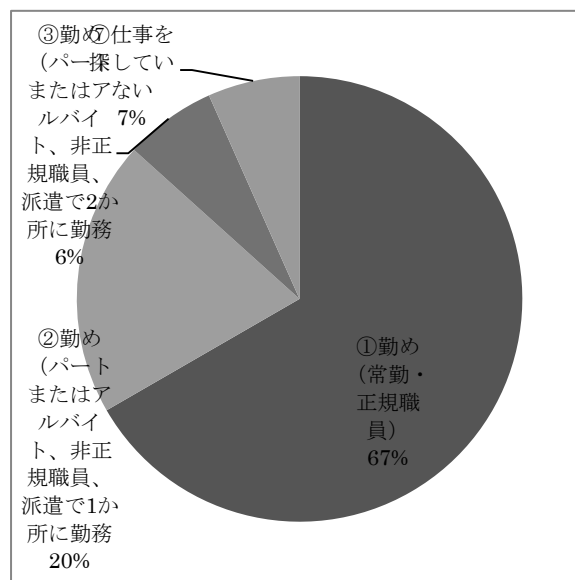


日本人住民、外国人住民ともに「勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員、派遣で1か所に勤務）」が多数を占める。

2-⑮ お父さんの現在の就業状況についておたずねします。

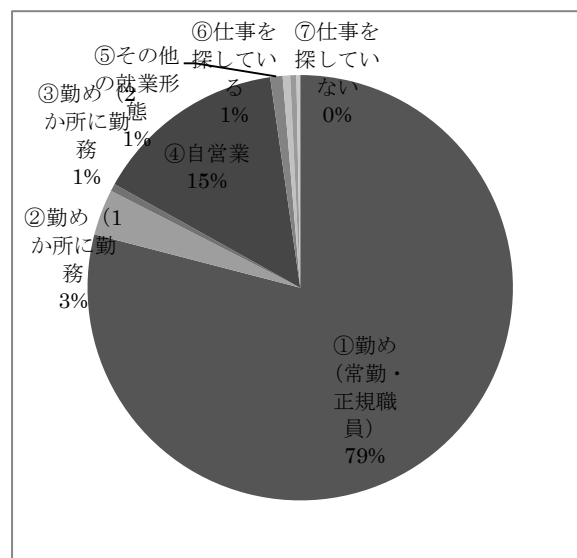
【本調査】

	(人)
①勤め（常勤・正規職員）	10
②勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員、派遣で1か所に勤務	3
③勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員、派遣で2か所に勤務	1
④自営業	
⑤その他の就業形態	
⑥仕事を探している	
⑦仕事を探していない	1
無回答	
無効回答	0



【大阪市子どもの生活に関する実態調査（大阪市西淀川区）】

	(人)
①勤め（常勤・正規職員）	837
②勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員、派遣で1か所に勤務	37
③勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員、派遣で2か所に勤務	6
④自営業	155
⑤その他の就業形態	10
⑥仕事を探している	6
⑦仕事を探していない	5
無回答	3
無効回答	

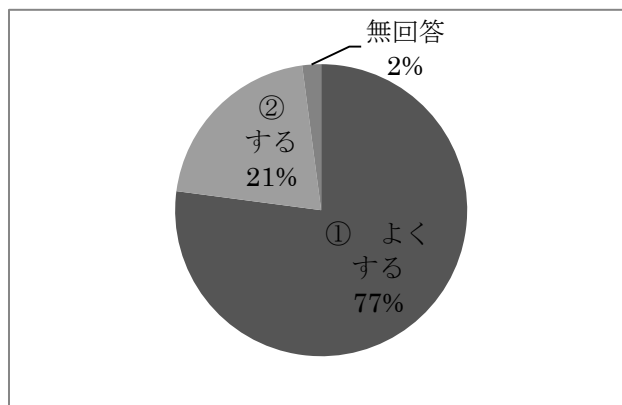


外国人住民は「勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員、派遣で1か所に勤務）」と回答している人が日本人住民の約7倍である。質問項目「あなたの世帯で主に生計を支えている方はどなたですか。」の問いに「お父さん」と回答した人が多いことから、世帯主が非正規雇用である家庭も多いことがわかる。

2-⑯ あなたはお子さんとよく会話しますか。

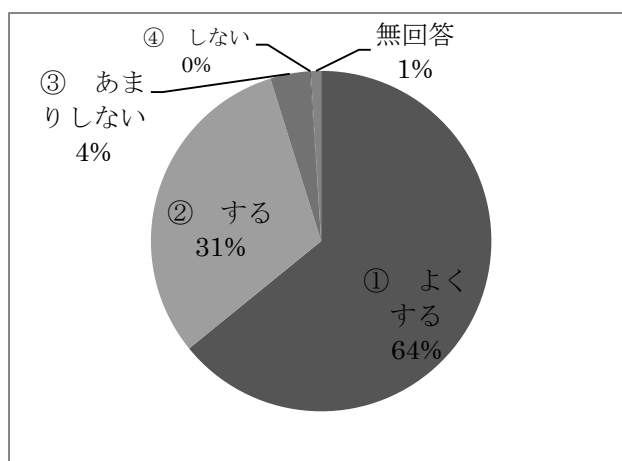
【本調査】

	(人)
① よくする	37
② する	10
③ あまりしない	0
④ しない	0
無回答	1
無効回答	0



【大阪市子どもの生活に関する実態調査（大阪市西淀川区）】

① よくする	785
② する	380
③ あまりしない	46
④ しない	1
無回答	12
無効回答	0

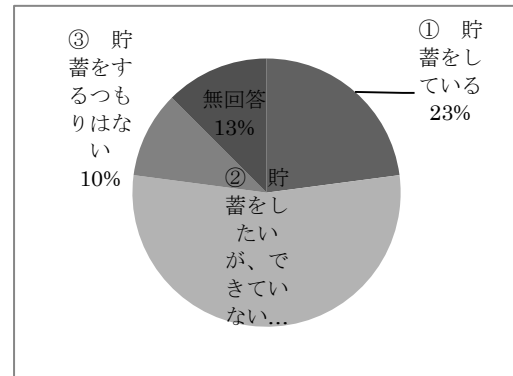


外国人住民の回答も「よくする」が 77%にのぼり、親の子どもへの関心が高いことがわかる。

2-⑰ お子さんの将来のために貯蓄をしていますか

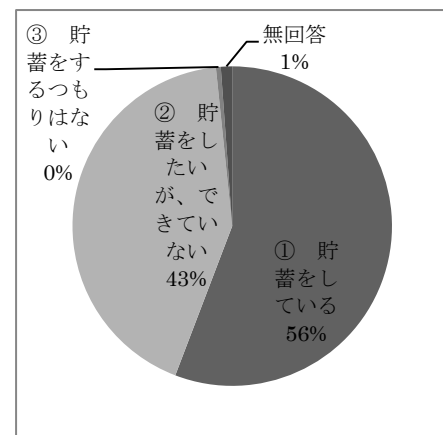
【本調査】

	(人)
① 貯蓄をしている	11
② 貯蓄をしたいが、できていない	26
③ 貯蓄をするつもりはない	5
無回答	6
無効回答	0



【大阪市子どもの生活に関する実態調査（大阪市西淀川区）】

① 貯蓄をしている	683
② 貯蓄をしたいが、できていない	521
③ 貯蓄をするつもりはない	6
無回答	14
無効回答	

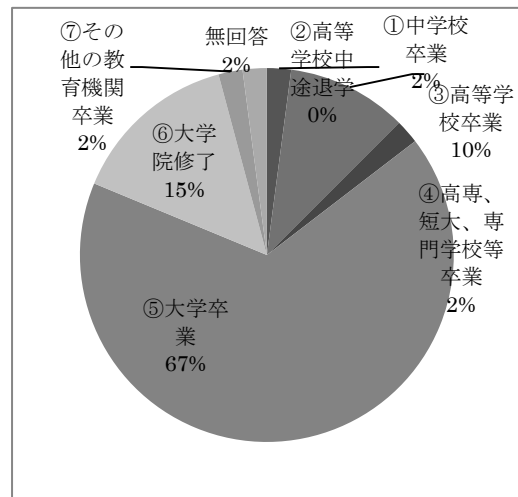


「貯蓄している」と回答した日本人住民は 56%、一方外国人住民は 23%にとどまった。ただし、外国人住民も「貯蓄したいが、できていない」と回答した人も半数以上いることから、世帯の経済的状況が困窮し、子どものための貯蓄ができていない可能性もある。また、1割の人が「貯蓄するつもりはない」と回答した。

2-⑯ あなたはお子さんの進学について、どこまで希望されていますか。

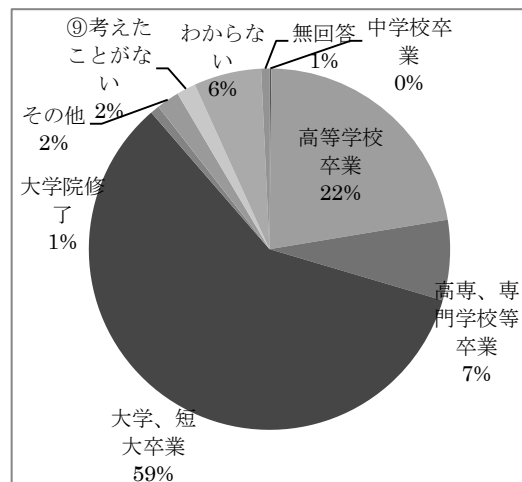
【本調査】

	(人)
①中学校卒業	1
②高等学校中途退学	0
③高等学校卒業	5
④高専、短大、専門学校等卒業	1
⑤大学卒業	32
⑥大学院修了	7
⑦その他の教育機関卒業	1
⑧その他	0
無回答	1
無効回答	0



【大阪市子どもの生活に関する実態調査（大阪市西淀川区）】

①中学校卒業	2
②高等学校卒業	272
③大学、短大卒業	723
④大学院修了	10
⑤その他	25
⑥高専、専門学校等卒業	88
⑦考えたことがない	21
⑧わからない	74
無回答	9
無効回答	

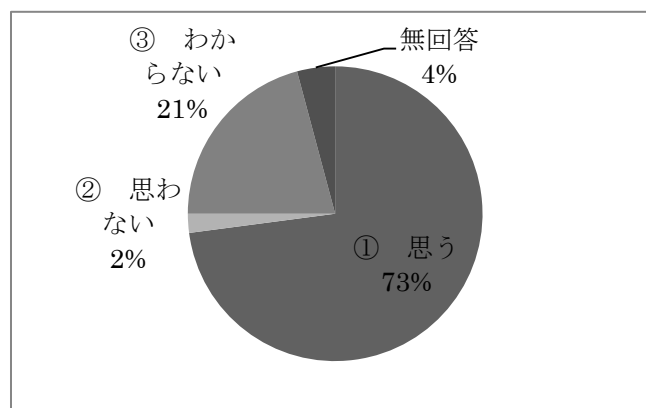


日本人住民よりも外国人住民のほうが「大学卒業」を望む世帯が多かった。

2-⑱ あなたはお子さん 2-⑱の希望通りの学校まで進むことになると思いますか。

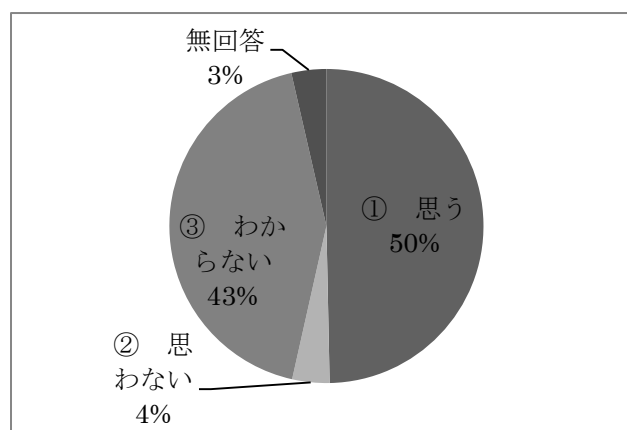
【本調査】

	(人)
① 思う	35
② 思わない	1
③ わからない	10
無回答	2
無効回答	0



【大阪市子どもの生活に関する実態調査（大阪市西淀川区）】

	(人)
① 思う	608
② 思わない	47
③ わからない	525
無回答	44
無効回答	0

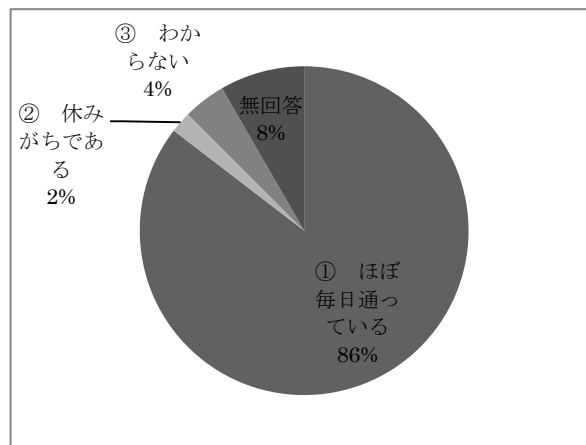


外国人住民の回答は「思う」が 73%にのぼり、日本人住民の約 1.5 倍となった。子どもに対する親の期待は高いことがわかる。

2-⑳ お子さんの通学状況について、もっとも近いもの1つに○をつけてください。

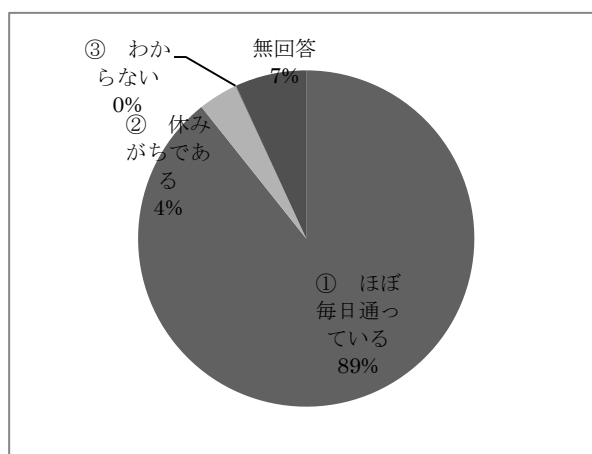
【本調査】

	(人)
① ほぼ毎日通っている	41
② 休みがちである	1
③ わからない	2
無回答	4
無効回答	0



【大阪市子どもの生活に関する実態調査（大阪市西淀川区）】

① ほぼ毎日通っている	1093
② 休みがちである	46
③ わからない	1
無回答	84
無効回答	0



外国人住民も「ほぼ毎日通っている」と回答した人が 86%にのぼり、ほぼ日本人住民と変わらない結果となった。

2-2 考察

日本人住民との比較を通して、外国人住民の経済的困窮度合いは日本人世帯よりも進んおり、「若くして親になった」「学歴が高くない」という傾向も日本人住民よりも顕著に現れた。また、質問項目 2-⑤「あなたが生活について本当に困ったときや悩みがあるとき、相談相手はいますか。」の問いには「いいえ」と答えた外国人住民が日本人住民よりも多かった。

本調査に回答した外国人住民は図 1 における①物資資源の欠如、②ソーシャルキャピタルの欠如、③ヒューマンキャピタルの欠如が重なる層であることがわかった。

①物資資源の欠如

非正規雇用で就労し世帯収入が低い

②ソーシャルキャピタルの欠如

近所付き合い・日本人社会との関係が希薄

③ヒューマンキャピタルの欠如

若くして親になり仕事に従事し、教育に対する知識の欠如

①～③だけでなく、外国人住民は「日本語の壁」も立ちはだかり、親が子どもの学習面、進路の決定など日本語でサポートできない場合が多く、外国人住民は子どもの貧困について日本人住民よりも、よりきめ細やかなサポートが必要であることが推測できる。

母国で学校を卒業した人も多く、日本の教育システムがわからない、日本における進路について子どもにアドバイスすることができない等の課題もあり、子どもが「母国と日本の教育システムのちがいによる壁」や「日本語の壁」による進路情報の不足により望む進路に進むことができず、子どもの貧困の連鎖が続く可能性があることも指摘しておかなければならない。

ただし、子どもには「大学（を）卒業」してほしいと答える人が日本人住民よりも多く、また、希望した進路に子どもが進むと思うかどうかという問いにも「はい」と回答した人が大多数を占めた。このことから、外国人住民は子どもへの期待が日本人住民よりも高いことが明らかである。

3 日本人住民との就労感の比較

今回の調査では、日本人住民と外国人住民の就労感のちがいを知るため、平成 23 年に内閣府が行った「若者の考え方についての調査」（若者の仕事観や将来像と職業的自立、就労等支援等に関する調査）と同じあるいは類似した質問項目を設けた。ここでは調査結果を比べて、その差を考察する。

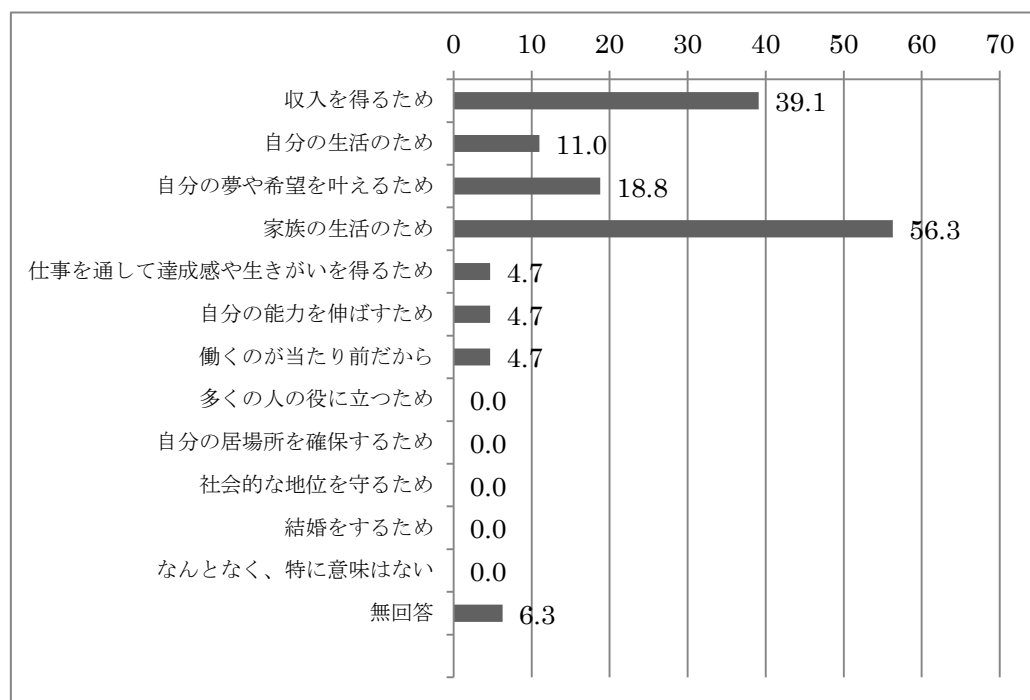
上段に本調査の結果、下段に「若者の考え方についての調査」（若者の仕事観や将来像と職業的自立、就労等支援等に関する調査）の結果を記した。

3-1 結果

3-① 何のために仕事をしますか。

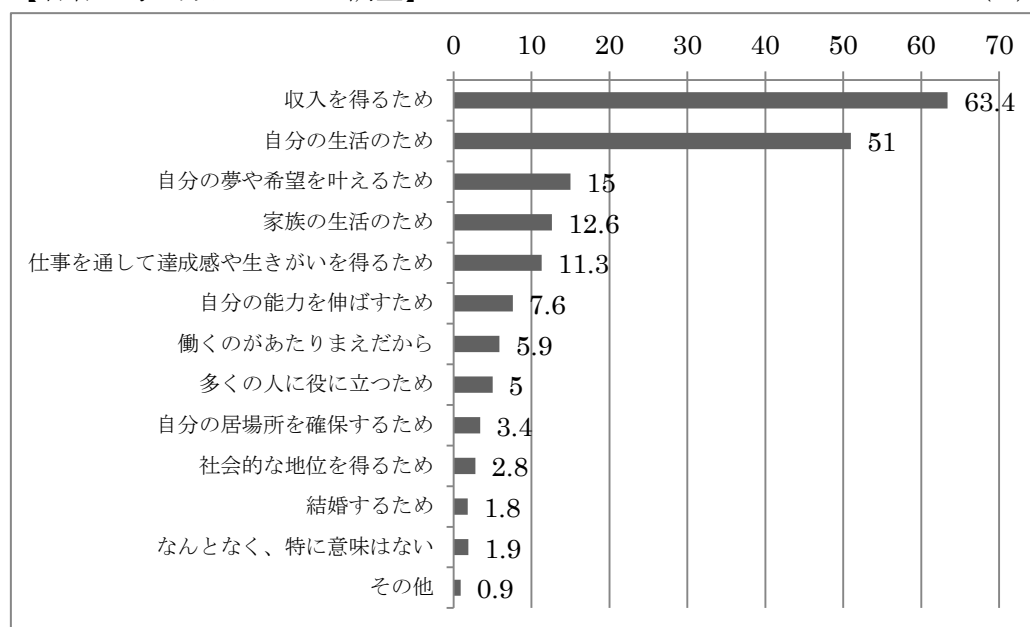
【本調査】

(%)



【若者の考え方についての調査】

(%)



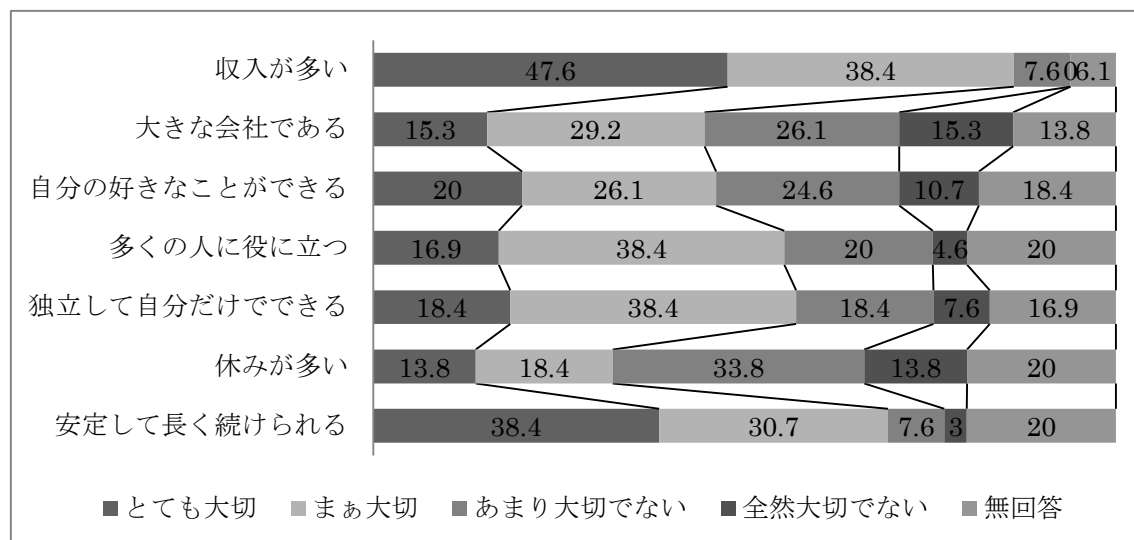
日本人の若者は「自らの収入を得るため」または「自らの生活のため」と、自分のために仕事をしているという回答が半数を超えているのに比べ、外国人住民の場合は「家族の生活のため」、「収入を得るため」と自分のためだけでなく、家族の生活を中心として仕事

に従事していることがわかる。このちがいの一つの理由としては、調査を行った外国人住民は日本人と比べ、かなり若い年齢で家族を設けたケースが多いためであると考えられる。

3-② 仕事を選ぶ理由として何がどれくらい大切ですか。

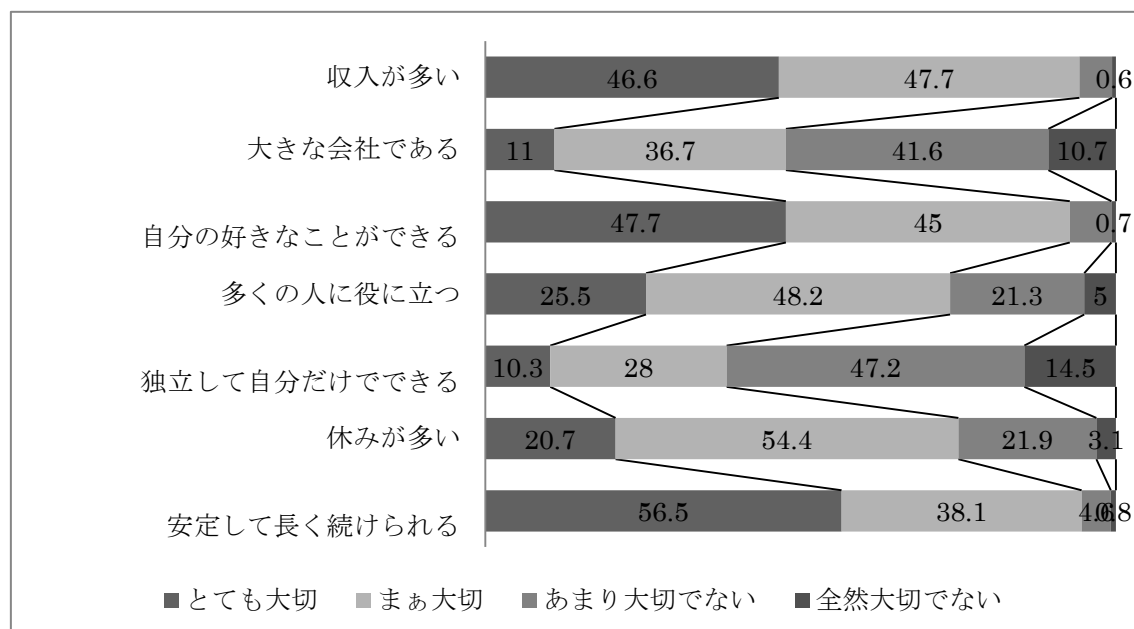
【本調査】

(%)



【若者の考え方についての調査】

(%)

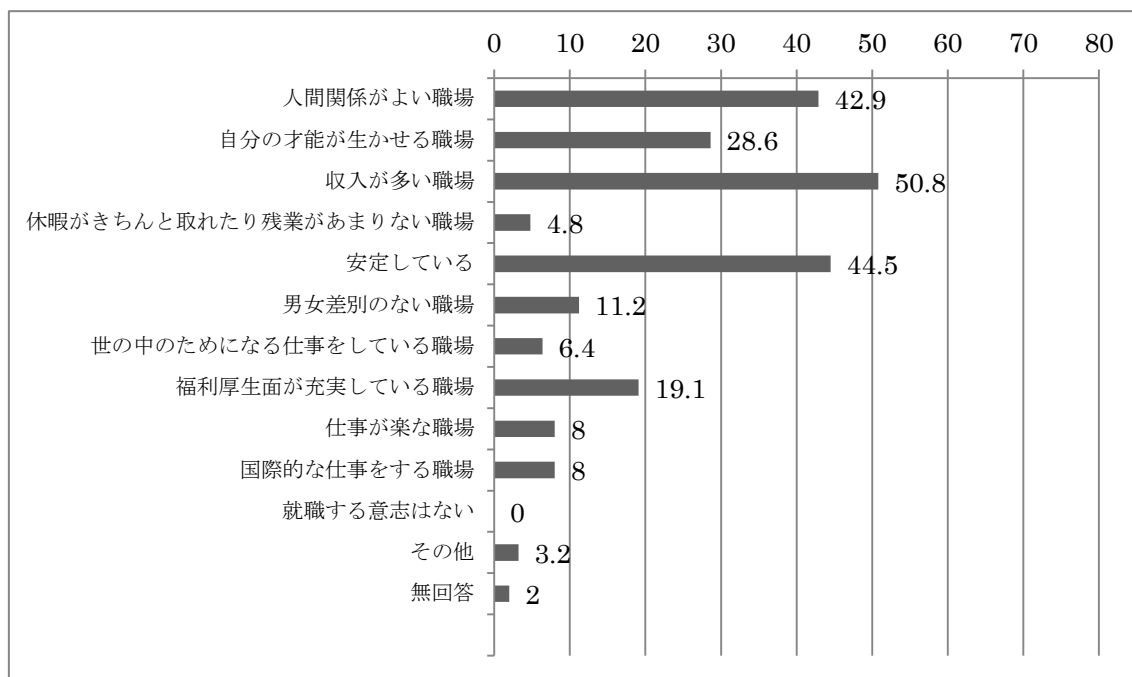


日本人住民は約半数が「自分の好きなことができる」は「とても大切」と回答しているにもかかわらず、外国人住民は「自分の好きなことができる」を「とても大切」と回答した人が少なかった。また、日本人住民は「とても大切」「まあ大切」と選んでいる人が7割を超えていたが、外国人住民は「休みが多い」はどちらかというとあまり大切ではないと答えた人が多かった。

3-③ どんな職場で働きたいですか。(大切に思うことを3つ選択可)

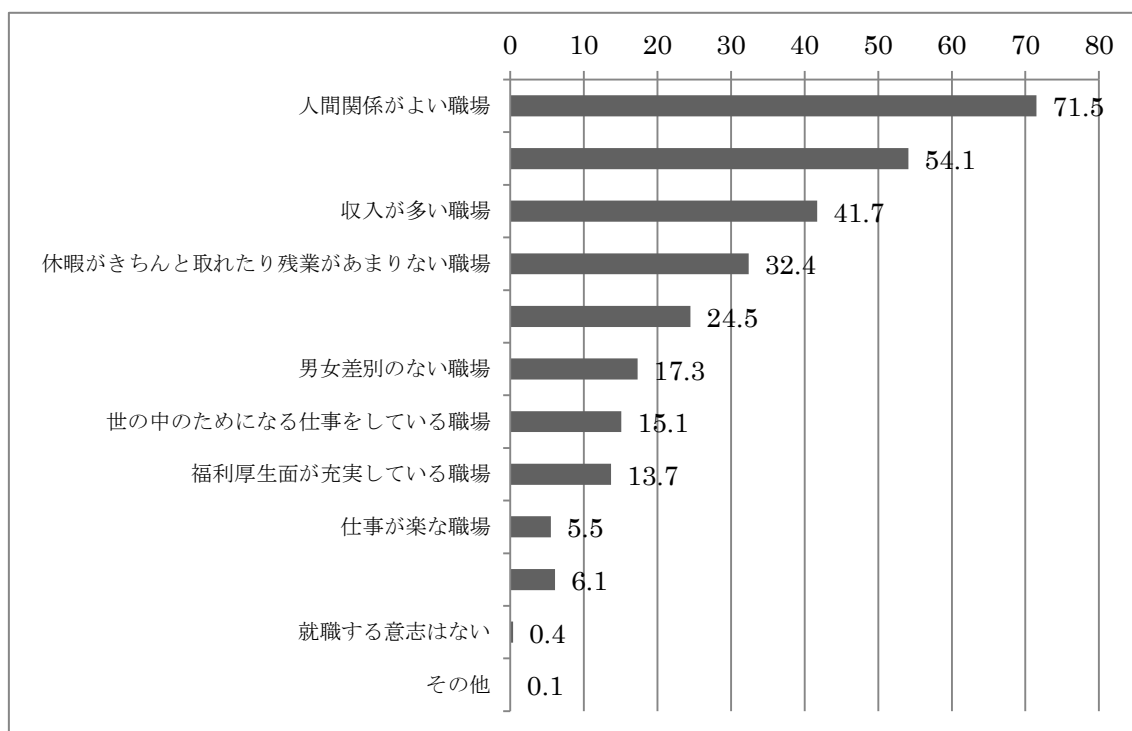
【本調査】

(%)



【若者の考え方についての調査】

(%)

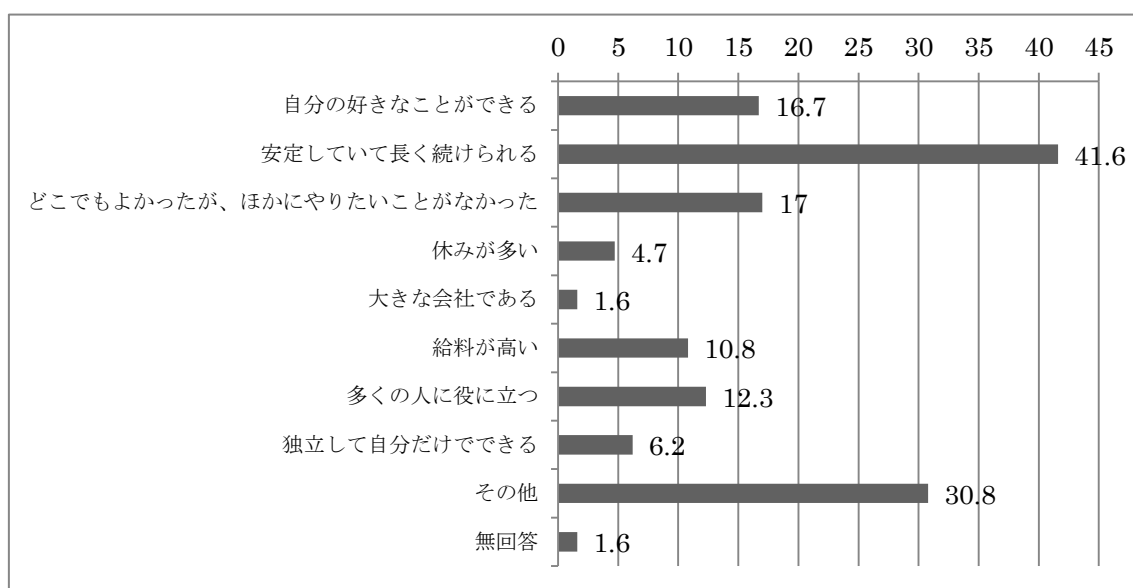


日本の若者は「休暇がきちんと取れたり残業があまりない職場」と選択している人が 30% いる一方で、外国人住民は 5% 程度しか選択していない。外国人住民はアルバイトや派遣労働で働いている人も多く、働いた時間で収入が決まるため、残業を含めた長時間労働を望む人がいることがわかる。

3-④ 現在の仕事について理由（複数選択可）

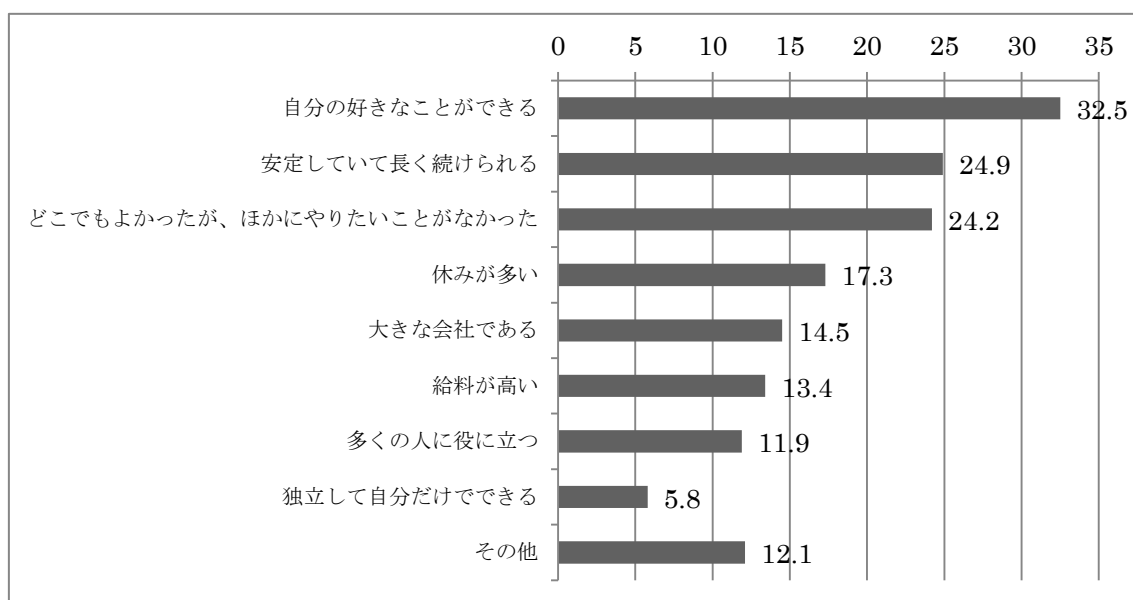
【本調査】

(%)



【若者の考え方についての調査】

(%)



外国人住民は「自分の好きなことができる」と回答した人が少ない。一方、日本の若者は現在の仕事について理由の一番に「自分の好きなことができる」を挙げている。

3-2 考察

日本人住民は「自分の好きなことができる」「自分の才能が生かせる」など仕事に自己実現を求めている傾向があるが、外国人住民は「家族のため」や「安定していて長く続けられる」という現実的な回答が多かった。本調査に回答した外国人住民は若くして家族や子どもがいる人が多いために、このような回答が多かったと予想される。

仕事を選ぶ理由やどんな職場で働きたいかの問いに多くの日本人住民が「休みが多い・残業があまりない職場」と回答しているが、外国人住民は日本人住民に比べて、回答数が少なく、日本人住民との休みや残業についての認識のちがいが明らかになった。家族のために、より多くの収入を得ようと長時間労働を希望する人が多く存在している。

外国人住民は仕事に対して自己実現を求めているという回答が日本人住民のそれと比べて少なかったが、本調査の質問項目 5-10「あなたはお子さんの仕事について、どんな仕事についてほしいですか」の回答については、「自分の好きな仕事」や「子どもが望んでいるからこの仕事についてほしい」という回答が多く、子どもの仕事については「自己実現」を望む声が多く挙げられていた。「自分が今している仕事は危険だから同じところでは働いてほしくない。」「(現在、自分が従事している) 工場のラインでは働いてほしくない」「高い役職につける仕事 (についてほしい)」等、子どもには自分と同じような苦勞をさせたくないという思いをもっているようである。しかし、現実是不安定な非正規雇用で働いている多くの人が、「収入が多い職場」「安定している職場」で働きたいと回答している人も多いことを考えると、今の仕事に決して満足しているわけではなく、限られた選択肢の中で仕事を選び、家族の生活を支えていることがわかる。

おわりに

調査結果および考察から、以下の4つの課題を見出すことができた。

① 外国人住民へのサポートの充実

近所付き合いや日本人住民との接点も少なく、地域で孤立している外国人世帯へのサポートのさらなる充実が求められる。具体的には、迅速に正しい情報を届けるため、通訳の派遣や情報を多言語に翻訳することで、日本人住民との情報格差を是正する取り組みが望まれる。また、特に孤立しがちな乳幼児を持つ世帯をサポートするため、戸別訪問などアウトリーチを実施し、長期にわたり見守ることができる体制を整えることが必要である。

実生活において日本語を身につけ、体系的に日本語を勉強したことがない外国人住民が多いことから、日本語の学び直しの機会を創出することも必要であると感じる。耳から聞いて習得した日本語を整理し、日本語の運用能力を上げることは、仕事や生活の質を向上することにつながるであろう。ただし留学生などと違い、進学などを目的とした日本語学習ではないため、従来の日本語学校とは違う彼らの生活や背景に合った文法事項やカリキュラムの教室運営をしなければならない。そうしたことに加え、子ども連れでも参加できたり、急な欠席にも柔軟に対応したり、経済的負担が少ないなど、外国人住民の多様なニーズに合わせた教室の選択肢の増加が必要だろう。

② 外国にルーツを持つ子どもたちへの日本語学習支援および母語教育の必要性

日本の学校に通う子どもたちにとって日本語はすべての教科の基礎であり、必要不可欠である。しかし、両親と学校の勉強を自宅で進めようとしても言葉の壁により進まず、経済的に学習塾等通うことも難しいため、学習が進まない傾向がある。

子どもたちの日本語学習支援と同時に、親への働きかけも忘れてはいけない。子どもたちが支援教室でどのような目的でなにを学習、習得したか、また習得過程での子どもたちのがんばりや態度などを親にも伝えることで、親も子どもの教育に参加することが可能となる。

母語教育に関しては、親の母語を保持できていない子どもがある一定数いることが明らかになった。子どもにとって母語で得た知識や概念は日本語の勉強にもプラスに働き、母語が強ければ日本語も伸びやすいことから、母語教育は重要であることがわかる。また、親子間で第一言語が異なり、それによりコミュニケーションがとりづらくなるというケースもみられ、子どもたちへの母語教育が重要であることは明白である。

③ 地域社会との接点の創出

地域において交流会やお祭りなど、外国人住民でも気軽に参加できるイベントを実施す

ることで、地域社会との接点を作り出すことができる。この接点によって、外国人住民の孤立を防ぎ、日本人住民・外国人住民が互いに顔の見える関係を築くことができる。また、日本人住民の外国人住民への関心も促すことができる。

④ 外国人支援の人材育成

外国にルーツを持つ子どもたちへの学習支援教室や地域の日本語教室では、不安定なボランティア人材に頼りきっている現状がある。しかし、この支援に携わる人材に関しては、通訳・翻訳技能に長けた人材だけでなく、子どもたちの複数の言語を伸ばす過程で、人としての成長を支えながら、学校教育にも参加するという複合的な支援を可能にすることができる人材の確保・雇用が必要である。

また、外国人住民が増加している日本社会において、社会福祉や自治体などの機関が多文化共生の視点など今以上の関心を高めることにより、より多様なニーズへの対応を行うことができるであろう。

参考文献

小島祥美,2016『外国人の就学と不就学 社会で「見えない」子どもたち』,大阪大学出版会

中島和子,2016『完全改訂版 バイリンガル教育の方法』,アルク

阿部彩,2014『子どもの貧困II-解決策を考える』,岩波新書

吉島茂,大橋理枝(訳・編),2004『外国語教育II 外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠』,朝日出版社

大阪市,2016『大阪市子どもの生活に関する実態調査』

浜松市,2017『外国にルーツを持つ青少年のキャリア支援事業報告書』

公益財団法人浜松国際交流協会,2016『フィリピンにルーツを持つ若者の意識調査報告書』

内閣府,2011『若者の考え方についての調査(若者の仕事観や将来像と職業的自立、就労等支援等に関する調査)』

参考資料

1. Common European Framework of Reference for Languages

(ヨーロッパ言語共通参照枠) 共通参照レベル：自己評価表

2. 調査票(日本語版)

共通参照レベル：自己評価表

	A1	A2	B1	B2	C1	C2
理解すること	はっきりとゆっくりと話しても えれば、自分、家族、すぐ周 りの具体的なものに聞き取 れた語やごく基本的な表現を聞 き取れる。	(ごく基本的な個人や家族の情報、買い物、近所、仕事などの) 直接自分に関連した領域で最も頻繁に使われる言葉や表現を理解することができる。 短い、はっきりとした簡単なメッセージやアナウンスの要点を聞き取れる。	仕事、学校、娯楽で普段出会うような身近な話題について、明確で確率的な話し方の会話なら要点を理解することができる。 話し方が比較的ゆっくり、はっきりとしてい るなら、時事問題や、個人的もしくは仕 事上の話題についても、ラジオやテレビ番 組の要点を理解することができる。	長い会話や講義を理解することができる。 また、もし話題がある程度身近な範 囲であれば、議論の流れが理解でき、 も理解できる。 たいのテレビのニュースや時事問 題の番組もわかる。 標準語の放送なら大部分は理解できる。	たとえ構成がはっきりしなくて、関係性 が暗示されているにすぎず、明示的でな い場合でも、長い話が理解できる。 特別の努力なしにテレビ番組や映画を 理解できる。	生であれ、放送されたものであれ、 母語話者の速いスピードで話されて も、その話し方の側面に慣れる時間の 余裕があれば、どんな種類の話しこ とばも、簡単に理解できる。
読むこと	たとえば、紙上やポスター、カタ ログの中のとく知れている名前、 単語、簡単な文を理解できる。	ごく短い簡単なテキストなら理解でき る。 広告や内容紹介のパンフレット、メニュ ー、予定表のようなものの中から日常の 簡単な具体的に予測がつく情報を取り 出せる。 簡単な短い個人的な手紙は理解できる。	非常によく使われる日常会話や、自分の仕 事関連の言葉で書かれたテキストなら理解 できる。 読んだこと、感情、希望が表現されてい る私信を理解できる。	著者の姿勢や理由が出ている現代の問 題についての記事や報告が読める。 現代文学の原文は読める。	長い複雑な事実に基づきテキストや文 学テキストを、文脈の速い理解しなが ら理解できる。 自分の関連外の分野での専門的記事も 長いほのめきも理解できる。	抽象的で、構造的にも言語的にも複 雑な、たとえばマニュアルや専門的 記事、文学作品のテキストなど、事 実上あらゆる形式で書かれたことば を容易に読むことができる。
話すこと	相手がゆっくり話したり、繰り返した り、言い換えてくれたり、ま た自分が言いたいことを要約す るのに助けを出してくれる 簡単なやり取りをすることが できる。 直接必要なことやごく身近な話 題についての簡単な質問なら、聞 いたり答えたりできる。	簡単な日常の仕事の中で、情報の直感的 やり取りが必要ならば、身近な話題や活 動について話し合える。 通常は会話を続けていくだけの理解力 はないのだが、短い社交的なやり取りを することはできる。	当該言語圏の旅行中に最も起こりやすい いてい状況に対処することができる。 たとえば、家族や健康、仕事、旅行、最近 の出来事など、日常生活に直接関係のある ことや個人的な関心事について、準備なし で会話に入ることができる。	流暢に自然に会話をすることができ、時 話者や普通話にやり取りができる。 身近なコンテキストの議論に積極的に 参加し、自分の意見を説明し、弁明でき る。	ことばをことばと認めることなく、自然 に自己表現ができる。 社会、仕事上の目的に合ったことば選 いが、意のままに効果的にできる。自分 の考えや意見を正確に表現でき、自分の 発言を上手に他の話し手の発言に合わ せることができる。	慣用表現、口語体表現をよく知って いて、いかなる会話や議論でも努力 しないで加わることができる。 自分を流暢に表現し、詳細に細かい 意味のニュアンスを伝えることができ る。 表現上の困難に出会っても、周りの 人がそれにほとんど気がつかないほ どに修正し、うまく構うことができ る。
表現	どこに住んでいるか、また、知っ ている人について、簡単な語 句や文を使って表現できる。	家族、周囲の人々、居住条件、学歴、職 歴を簡単なことばで一連の語句や文を 使って説明できる。	簡単な方法で語句をつないで、自分の経験 や出来事、夢や希望、野心を語ることがで きる。 意見や計画に対する理由や説明を簡単に示 すことができる。本や映画のあらすじを話 し、またそれに対する感想、考えを表現で きる。	自分の興味関心のある分野に関連する 限り、幅広い話題について、明確で詳細 な説明をすることができ、適切な結論でまと められる。 時事問題について、いろいろな可能性の 実際、短所を示して自己の立場を説明で きる。	複雑な話題を、演説的語調にも立ち入っ て、詳しく講ずることができ、一定の観 点を強調しながら、適切な結論でまとめ 上げることができる。	状況にあった文法で、はっきりとす らすらと流暢に記述や論述ができ る。効果的な構文構造によって聞き 手に重要な点を把握させ、記憶にとど めさせることができる。
書くこと	新年の挨拶など短い簡単な書 きで書くことができる。たとえばホ テルの宿帳に名前、国籍や住所と いった個人のデータを書き込む ことができる。	直接必要のある領域での事柄なら簡単 に短いメモやメッセージを書くことが できる。 短い個人的な手紙なら書くことができ る：たとえばお礼など。	身近で個人的に関心のある話題について、 いろいろな話題について、明確で詳細な説明 文を書くことができる。 エッセイやレポートで情報を伝え、一定 の観点に対する支持や反対の理由を書 くことができる。 手紙の中で、事件や体験について自分に とっての意義を中心に書くことができ る。	興味関心のある分野内なら、幅広いこ うな話題について、明確で詳細な説明 文を書くことができる。 エッセイやレポートで情報を伝え、一定 の観点に対する支持や反対の理由を書 くことができる。 手紙の中で、事件や体験について自分に とっての意義を中心に書くことができ る。	適当な長さでいくつもの観点を示して、 自分の重要な点や見解を強調しながら、 手紙やエッセイ、レポートで明確な主題 を扱うことができる。読者を全面的に説 くことができる。 適切な文法を要領できる。	明確な、流暢な文章を適切な文法で 書くことができる。 効果的な構文構造で情報を説明し、 その重要な点を聞き手に気づかせ、記 憶にとどめさせるように、複雑な内 容の手紙、レポート、記事を書くこ とができる。 仕事や文学作品の概要や評を書くこ とができる。

参考資料
Council of Europe (2008) 『外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠』初版第二刷、吉島茂、大橋理枝（訳、編）、朝日出版社

子供の未来応援基金
外国人住民生活実態調査
調査票

<調査への協力をお願い>

この調査は保護者の方に家庭状況などをお聞きし、外国にルーツを持つ子どもたちのための支援策に役立てるために実施します。皆様からの回答を外国にルーツを持つ子どもの学習支援教室「きらきら」や外国にルーツを持つ青年のための日本語教室（2017年4月開講予定）の充実や改善につなげていきたいと考えていますので、お忙しい中お手数ですが調査への協力をお願いします。

<回答にあたってのお願い>

◇調査票をお願いする方の選び方

主に西淀川区に住んでいる非漢字圏出身の16～39歳の就労に制限のない在留資格を持つ人 100名

◇プライバシーへの配慮

・調査の集計は統計的に処理し、個人や学校、職場を特定することはありません。また、目的以外で使うこともありません。

◇回答にあたってのお願い

・答えたくない質問には、回答しなくて結構です。

この調査の問い合わせ先

◇この調査への回答にあたってご不明な点などございましたら、お問い合わせください。

特定非営利活動法人 多文化共生センター大阪

電話 06-6390-8201 *10:00～17:00 月曜日～金曜日

住所 大阪市淀川区十三東 2-6-7 徳島ビル 2階

I あなた、あなたの家族について教えてください。

1. あなた、あなたの家族について教えてください。

1-1-1 性別

1. 男 2. 女 3. その他

1-1-2 年齢

1. 16～19 歳 2. 20～24 歳 3. 25～29 歳 4. 30～34 歳 5. 35～39 歳 6. 40～44 歳

1-1-3 国籍・出身国

1. ブラジル 2. ペルー 3. フィリピン 4. 日本 5. その他 ()

1-1-4 日常で使用する言語

1. 日本語 2. ポルトガル語 3. スペイン語 4. タガログ語 5. 英語 6. その他 ()

1-1-5 お住まいはどこですか。

1. 柏里 2. 花川 3. 歌島 4. 野里 5. 姫里 6. 姫島
7. 福町 8. 竹島 9. 御幣島 10. 千船 11. 大和田 12. 大野
13. 百島 14. 佃 15. 出来島 16. 中島 17. 酉島

1-1-6 あなたの在留資格を選んでください。

1. 留学 2. 家族滞在 3. 技能実習 4. 人文知識・国際業務
5. 教授 6. 技能 7. 特別永住者 8. 永住者
9. 日本人の配偶者等 10. 定住者 11. その他

1-1-7 あなたはこれまでどれくらい日本に住んでいますか。

1. 1 年未満 2. 1 年～3 年未満 3. 3 年～5 年未満 4. 5 年～10 年未満
5. 10 年以上

1-1-8 同居する家族に日本語を第一言語とする人（18 歳以上）はいますか。

1. はい 2. いいえ

1-1-9 子どもは何人いますか。

1. 0人 2. 1人 3. 2人 4. 3人 5. 4人 6. 5人 7. 6人 8. それ以上 () 人)

1-1-10 同居する子どもは何人いますか。

1. 0人 2. 1人 3. 2人 4. 3人 5. 4人 6. 5人 7. 6人
8. それ以上 () 人)

1-1-11 1-1-9で②～⑧と答えた人はお子さんの年齢を教えてください。

1. 0歳～3歳 2. 4歳～6歳 3. 7歳～12歳(小学生)
4. 13歳～15歳(中学生) 5. 16歳～18歳(高校生) 6. 18歳以上

1-1-12 世帯人数は何人ですか。

1. 1人 2. 2人 3. 3人 4. 4人 5. 5人 6. 6人
7. それ以上 () 人)

1-1-13 配偶者はいますか

1. はい 2. いいえ

I-2 世帯員の人に介護または介助の必要な方はいますか

1. いる 2. いない

I-3 子どもは日本国外に何人いますか？

1. 0人 2. 1人 3. 2人 4. 3人 5. 4人 6. 5人 7. 6人
8. それ以上 () 人)

I-4 初めて親となった年齢はいくつですか。(実子以外も含みます)

1. 14～16歳 2. 17～19歳 3. 20～23歳 4. 24～26歳 5. 27～30歳
6. 31～34歳 7. 35歳以上

I-5 あなたの最後に通った学校を教えてください。

1. 中学校卒業 2. 高等学校中途退学 3. 高等学校卒業
4. 高専、短大、専門学校等卒業 5. 大学卒業
6. 大学院修了 7. その他の教育機関卒業
8. その他 ()

I－6 あなたは、定期的に健康診断を受けていますか。

1. はい 2. いいえ (最後に受けたのはいつですか?)

I－7 あなたが生活について本当に困ったときや悩みがあるとき、相談相手はいますか。

1. はい (日本人・外国人) 2. いいえ

I－8 (I－7で、「はい」と答えた人) それはだれですか。

1. 配偶者・パートナー 2. 自分の親 3. 配偶者・パートナーの親
4. きょうだい・その他の親戚 5. 近隣に住む知人や友人
6. 近隣に住んでいない知人や友人 7. 職場関係者
8. 学校の先生やスクールカウンセラー
9. 公的機関や役所の相談員 10. その他 ()

II あなた、あなたの家族の世帯収入について教えてください。

II－1 あなたの世帯で収入のある方の人数を教えてください。

1. 1人 2. 2人 3. 3人 4. 4人 5. 5人 6. 6人 7. それ以上
(人)

II－2 あなたの世帯で主に生計を支えている方はどなたですか。(あなたからみた続柄で、あてはまる番号1つに○をつけてください。)

1. あなた(本人) 2. パートナー 3. お母さん 4. お父さん 5. 兄・姉
6. 弟・妹 7. 子ども 8. おばあさん
9. おじいさん 10. おじ・おばなど親戚 11. その他 ()

II－3 前年(2015年)の1年間のあなたの家計状況についてあてはまる番号1つに○をつけてください

1. 貯蓄ができている 2. 赤字である

II－4 (赤字であると答えた方におたずねします) 赤字の場合はどのようにしていますか。

1. 貯金、預金のとりくずし 2. 親や親族などからの仕送り
3. 金融機関等からの借入 4. その他

Ⅱ－５ あなたの世帯では、経済的な理由で、次のような経験をされたことがありますか。おおむね半年の間でお考えください。

（例：食費を切りつめた、電気・ガス・水道などが止められた、子どもの学校のお金が払えない）

--

Ⅱ－６ あなたは母国に仕送りをしていますか。

１．している ２．したことがある ３．したことがない

Ⅱ－７ あなたの住居は、次のどれにあてはまりますか。

１．持ち家（親・きょうだい名義を含む）
 ２．府営・市営の住宅 ３．UR の賃貸住宅 ４．民間の賃貸住宅
 ５．官舎・社宅 ６．その他

Ⅱ－８ あなたの世帯では以下の手当てや援助等を受けていますか

	１．受けている	２．受けたことがある	３．受けたことがない
①児童手当			
②就学援助費			
③児童扶養手当			
④障がいや難病の手当			
⑤生活保護			
⑥公的年金（老齢年金）			
⑦公的年金（遺族年金、障がい年金）			
⑧雇用保険（失業保険）			
⑨養育費			
⑩親・親族からの仕送り			
⑪退職金			

Ⅱ－９ 前年(2015 年)のあなたの世帯の収入の合計額は、およそいくらでしたか。

- | | |
|------------------|------------------|
| 1. 50 万円未満 | 2. 50～100 万円未満 |
| 3. 100～150 万円未満 | 4. 150～200 万円未満 |
| 5. 200～250 万円未満 | 6. 250～300 万円未満 |
| 7. 300～350 万円未満 | 8. 350～400 万円未満 |
| 9. 400～450 万円未満 | 10. 450～500 万円未満 |
| 11. 500～550 万円未満 | 12. 550～600 万円未満 |
| 13. 600～650 万円未満 | 14. 650～700 万円未満 |
| | 15. 700 万円以上 |

Ⅲ あなたの仕事について教えてください。

Ⅲ－１ あなたの現在の就業状況についておたずねします。

1. 勤め（常勤・正規職員）
2. 勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員、派遣で1か所に勤務）
3. 勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員、派遣で2か所に勤務）
4. 自営業
5. その他の就業形態
6. 仕事を探している
7. 仕事を探していない（① 家事や育児に専念 ② 学生 ③ おうちの人の介護や介助 ④ 病気療養 ⑤ 年金など ⑥ 家賃収入、株式運用など ⑦ その他： ）

Ⅲ－２ 何のために仕事をしますか（二つまで選択可）

- | | |
|------------------------|-------------------|
| 1. 収入を得るため | 2. 自分の生活のため |
| 3. 自分の夢や希望を叶えるため | 4. 家族の生活のため |
| 5. 仕事を通して達成感や生きがいを得るため | 6. 自分の能力を伸ばすため |
| 7. 働くのが当たり前だから | 8. 多くの人の役に立つため |
| 9. 自分の居場所を確保するため | 10. 社会的な地位を守るため |
| 11. 結婚をするため | 12. なんとなく、特に意味はない |

Ⅲ－３ 仕事を選ぶ理由として何がどれくらい大切ですか

	とても大切	まあ大切	あまり大切でない	全然大切でない
①収入が多い				
②大きな会社である				
③自分の好きなことができる				
④多くの人に役に立つ				
⑤独学して自分だけでできる				
⑥休みが多い				

IV あなたの日本語学習歴・日本語能力について教えてください。

IV-1 あなたは日本語を学んだことはありますか？

1. 学んだことはない
2. 小学校で学んだ
3. 中学校で学んだ
4. 大学などの日本語クラスで学んだ
5. 地域の日本語教室で学んだ
6. プライベートで学んだ
7. その他 ()

IV-2 あなたは今日本語を勉強していますか。

1. はい
2. いいえ

IV-3 (IV-2で「いいえ」と答えた人) あなたが日本語を勉強しない理由はなんですか。あてはまるものすべてお選びください。

1. 忙しくて勉強する時間がないから
2. どこに日本語教室や日本語学校があるかわからないから
3. 勉強するお金がないから
4. 曜日や時間、レベルが合わないから
5. 家族や友人が通訳してくれるから
6. 母国の言葉だけで生活できるから
7. 十分、日本語ができるから
8. その他 ()

IV-4 あなたは日本語を勉強したいですか。

1. はい
2. いいえ

IV-5 (IV-4で「はい」を答えた人) なんのために日本語を勉強したいですか。あてはまるものすべてお選びください。

1. 子どもの教育のため
2. 日本で生活していくために必要だから
3. 日本人との付き合いを広げるため
4. 仕事で必要だから
5. より良い条件の仕事を探すため
6. 自分自身の進学や勉強のため
7. その他 ()

IV-6 日本語の自己評価 (CEFR)

理解すること	聞くこと	
	読むこと	
話すこと	やり取り	
	表現	
書くこと	書くこと	

V－6 （思わないと答えた方におたずねします）その理由について教えてください

1. お子さんの希望と異なるから
2. お子さんの学力がないから
3. 経済的な余裕がないから
4. その他()
5. 特に理由はない

V－7 お子さんの通学状況について、もっとも近いもの1つに○をつけてください

1. ほぼ毎日通っている
2. 休みがちである（どれくらい休みますか： 日 ）
3. わからない

V－8 あなたが子育てについて本当に困ったときや悩みがあるとき、相談相手はいますか。

1. はい （日本人・外国人）
2. いいえ

V－9 （V－8で「はい」と答えた人）それはだれですか。

1. 配偶者・パートナー
2. 自分の親
3. 配偶者・パートナーの親
4. きょうだい・その他の親戚
5. 近隣に住む知人や友人
6. 近隣に住んでいない知人や友人
7. 職場関係者
8. 学校の先生やスクールカウンセラー
9. 公的機関や役所の相談員
10. 相談できる相手がいない
11. その他()

V－10 あなたはお子さんの仕事について、どんな仕事についてほしいと思いますか。

ご協力、ありがとうございました。

2016 年度 子供の未来応援基金

未来応援ネットワーク事業

**「大阪市西淀川区における
外国人住民生活実態調査」 報告書**

発行日

2017年9月

発行者

特定非営利活動法人 多文化共生センター大阪

〒532-0023 大阪市淀川区十三東 2-6-7 徳島ビル2階

TEL:06-6390-8201 FAX:06-6195-8812

URL: <http://www.tabunka.jp/>

E-Mail: osaka@tabunka.jp